システムキッチン
サンヴァリエ〈リシェル〉

SYSTEM KITCHEN SUNVARIE

RICHELLE

サンヴァリエ〈リシェル〉

フロアユニット ウォールユニット 取付部材 取付・設置説明書

■取付・設置開始前に必ずお読みください。
■取付・設置者の安全と使用者の安全確保のために、この取付・設置説明書をよくお読みになり、安全で正しい取付・設置を行ってください。
■システムキッチンの本体組立・設置とそれに伴う関連工事（建設工事等）は区別して行ってください。関連工事については法令・規定に従った工事（有資格者等による）が必要になります。
■梱包材や残材は、「廃棄物処理法」に従って適切に処理してください。
■取扱説明書は、必ずお客さまにお渡しください。
（取付・設置完了後、使い方を説明してください。）

INDEX

この説明書はお客さまに必ずお渡しください。

必ずお守りください

表示について

この取付・設置説明書では、製品を安全に正しく取付・設置し、お客さまや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、下の表示を行っています。いずれも使用者の安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告 この表示を無視して、誤った設置をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った設置をすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

この記号は禁止の行為であることを告げるものです。

この記号は必ず実行していただきたいことを告げるものです。

シンクキャビネットに同梱されている取扱説明書は、お客さまにお渡しする大切な書類です。
紛失や汚れが生じないように大切に保管し、取付・設置完了後、お引き渡し時にお客さまにお渡しください。

警告

ステンレス製ワークトップやシンクを取り扱うときは、必ず保護手袋を着用する。
切断面に触ると、ケガをするおそれがあります。
キッチン取付・設置

キャビネットの取付設置は、建築壁の構造を確かめて取付設置説明書通り正しく取り付ける。
使用中に取り付けねじがゆるみキャビネットの落下またはキャビネット転倒により、ケガをするおそれがあります。
大工工事（取付下地） キッチン取付・設置

フロアユニットの設置は、建築床の構造を確かめて正しく取り付ける。
床がたわんだり、床が損傷するおそれがあります。

電気工事・管工事は、関連する法令、規定に従って、必ず「有資格者」が行う。
火災、感電、ガス漏れ、水漏れの原因になることがあります。

建設工事（電気工事、管工事、大工工事、建具工事）は、関連する法令、規定に従って必ず「有資格者」が行う。
守らない場合は、法令に違反します。

注意

壁面に取付・設置するキャビネットは必ず壁面に固定する。
転倒してケガをするおそれがあります。

棚板を設置するときは、棚受けを隙間のないよう根元まで確実に差し込む。
棚板がはずれ収納物が落下して、ケガをするおそれがあります。

配水器具・排水ホースの取付けおよび給排水管の接続部分のシールは、説明書通り正しく行う。
水が漏れたり、湿気が上がり床などが腐るおそれがあります。
不快なにおいや、カビの発生原因になることがあります。
管工事

排水ホースはU字型に曲げたり、折り曲げて取付けない。
排水能力が低下してシンクから水があふれ、床を汚すおそれがあります。
管工事

取付・設置完了後は、扉の傾き、ガタツキ、丁番のゆるみがないことを必ず確認する。
使用中に扉が落下して、ケガをするおそれがあります。

キッチン両隣に壁がくる場合は、キッチンの開口寸法より5mm以上広いことを必ず確認する。
狭いとキッチンが設置できないおそれがあります。

組み込まれる電気機器・調理機器・レンジフード・その他機器については、それぞれの取付・設置（施工）説明書および製品本体の表示事項を守り、正しく設置する。
思わぬ事故や故障の原因となることがあります。
電気工事 キッチン取付・設置

水栓金具の取付けは必ず取付・設置（施工）説明書および製品本体の表示事項を守り、正しく設置する。
水やお湯が漏れ、床を汚したり損害が出るおそれがあります。
管工事 キッチン取付・設置

キャビネットを設置する際には水平・垂直のレベルを出す。
レベルが出ていないと、引出しキャッチ機構が正常に動作しません。
キッチン取付・設置

取付け・仕上げに使われる、溶剤、接着剤、洗剤、その他薬品類については、記載されている注意事項に従って、正しく使用する。
誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や、劣化の原因になります。
キッチン取付・設置

引出しを開けたときに鏡板が建築物側の枠材に当たらないよう、クリアランスをとって設置する。
クリアランスを十分にとらないと、引出しを開けた時に鏡板がドア縁や巾木に当たるおそれがあります。

本製品のホルムアルデヒド発散区分

表示内容					
1	商品名	サンヴァリエ〈リシェル〉	6	ホルムアルデヒド発散材料区分詳細	P B F☆☆☆☆ MDF F☆☆☆☆ 合板 F☆☆☆☆ 接着剤 F☆☆☆☆
2	企業名	株式会社LIXIL			
3	ホルムアルデヒド発散区分	内装仕上げ部分及び下地部分とも F☆☆☆☆			
4	表示ルール	「住宅部品表示ガイドライン」 キッチン・バス工業会表示指針による。	7	本表示に関するお問い合せ先	お客さま相談センター TEL・FAXは、キッチン取扱説明書(ウラ表紙)に記載
5	製造番号又は年月日	キャビネット本体に貼付の検査証によりご確認ください。			

VOC放散性能	4VOC基準適合(木質建材)
表示ルール	住宅部品VOC表示ガイドラインによる

※4VOCとは、トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレンを示す。

設置前の確認

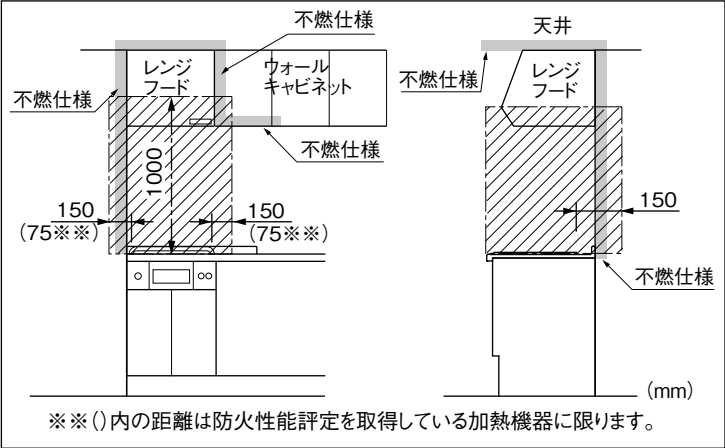
火災予防条例(東京都)では、右図斜線内に可燃物があってはならないと規定されています。

・斜線内に入るウォールユニットやエンドパネルは、不燃仕様のものを設置し、斜線内に入る壁面は関連する法令・規定に準じ不燃材を使用してください。

・レンジフードに隣接するウォールユニットやエンドパネルは不燃仕様のものを設置し、壁面および天井は関連する法令・規定に準じ、不燃材を使用してください。

(下地が準不燃材以下で仕上げている場合は、加熱機器を運転させたときに下地の表面が室温を35℃で100℃を超えないことが条件です。詳細に関しては、各自治体へ確認ください。)

これ以上に規定されている地域もありますので、地域の条例に従ってください。

※※( )内の距離は防火性能評定を取得している加熱機器に限ります。

※詳しくは【所轄の消防署】へ確認してください。

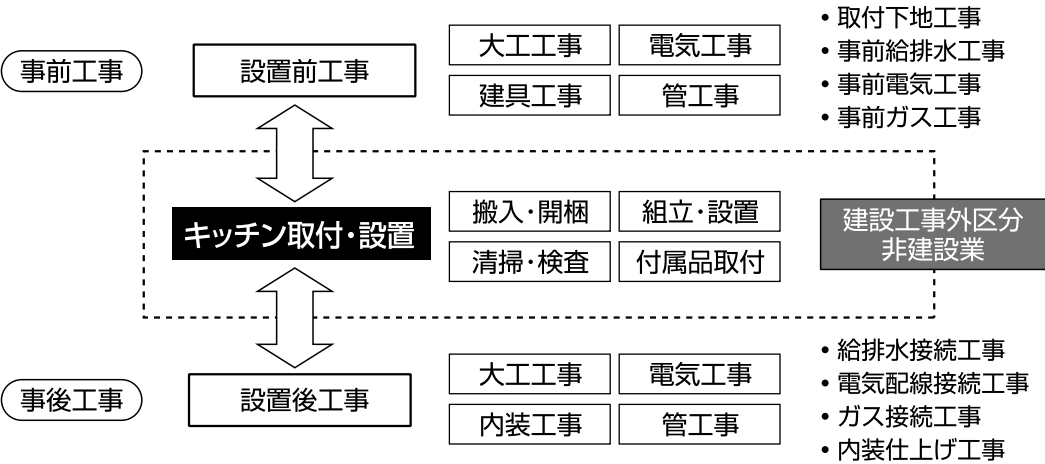
1. 設置場所の水平・垂直・コーナーの直角等のレベルがでているか確認してください。
2. 給水湯管・排水管の位置を確認してください。
3. 加熱機器の配管、配線接続位置を確認してください。
4. 電気製品の配線接続位置を確認してください。
5. ウォールユニットを取り付ける壁面の強度、また必要な個所に取付桟がはいっているかを確認をしてください。
6. 天吊型ウォールユニットを取り付ける天井の強度、また必要な個所に取付桟がはいっているかを確認をしてください。
7. 窓枠、ドア枠などと製品(扉や引出しに干渉しない。引出しなどが完全に引き出せるか)が干渉しないか確認してください。
8. 注文した製品と納入された製品の左右勝手、ガス種、周波数などを確認してください。
9. 付属部品を確認してください。
10. ガスコックと引出しの背板が干渉しないことを確認してください。

※上記内容に不備がある場合は手直しが必要です。建設工事として手直しが必要な部分は関連する法令・規定に従って工事を行ってください。

工事区分

⚠警告

本説明書は、キッチンの本体組立・設置と関連工事(建設工事)である大工工事、電気工事、ガス配管工事、管工事(給排水)、建具工事などと区別して説明しています。
建設工事は関連する法令・規定に従って法的有資格者による工事が必要になります。
流通業者様(販売店様等)からの発注で下請けとして「本体の取付・設置」を行う場合は、建設工事部分と「キッチン本体取付・設置」を区別して行ってください。

■「キッチンの取付・設置」とユニット工事区分

■キッチンの工事区分〈例示〉

ユニット工事区分	部位(図)		作業名称(区分)	大工工事業(建設業区分)	管工事業(建設業区分)	電気工事業(建設業区分)	ガス設備(建設業外)	キッチン取付(建設業外)	作業内容
事前工事	1	大工工事 管工事	外壁の開口工事	○	○				レンジフードのダクト用の建築壁の穴あけ工事
			建築壁の下地処理工事	○					キャビネット等の取付けのための壁下地処理工事
			排気ダクトの関連工事		○				建築物の事前ダクト配管等の工事
			キッチンパネル下地処理工事	○					キッチンパネルを貼るための建築壁の下地処理工事
	2	電気工事	レンジフードの電源アース工事			○			建築の屋内配線と配線器具(コンセント)工事
			加熱機器の電源アース工事			○			加熱機器の事前電気工事
			ウォールキャビネットの電気工事			○			屋内配線と配線器具(照明)接続、検査工事
			電動昇降機の電源工事			○			電動昇降機の専用電源・アース工事
			食器洗い乾燥機の電源・アース工事			○			食器洗い乾燥機用の専用電源・アース工事
			その他電気機器の電気工事			○			屋内配線と配線器具(コンセント)工事
	3	管工事	排水配管の立上工事		○				キッチン排水用の所定位置排水管立上工事
			給水・給湯配管立上工事		○				キッチン専用の所定位置配管立上工事
			食器洗い乾燥機用給排水配管工事		○				食器洗い乾燥機用の専用給水給湯排水事前工事
	4	ガス工事	ガス調理機器のガス配管				□		ガス機器用の事前ガス配管工事
キッチン本体取付設置	5	建設工事区分外	キッチンパネル取付け					□	製品を加工して建築下地へ取付け
			製品間のシリコン充填					□	製品間の隙間を仕上げる処理作業
			レンジフードの取付け					□	本体および化粧パネルを取り付ける作業
			ウォールキャビネット取付け					□	所定の建築仕上げ壁へ取り付ける作業
			電動昇降ウォールキャビネット取付け					□	電動昇降ウォールキャビネットを壁へ取り付ける作業
			ベースキャビネット・天板の取付け					□	天板、キャビネットの組立・調整して設置する作業
			キッチン排水部品の組立て					□	排水トラップ部品とシンクの組立
			水栓の組立・天板取付け					□	水栓、浄水器同梱部材の組立(天板への取付け)
			ビルトイン機器の取付け					□	ビルトイン機器のキッチン本体への組込作業
			試運転、完成品検査(注記1)					□	完成後の試運転、性能確認検査
事後工事	2	電気工事	ウォールキャビネット照明器具工事			○			事前配線の電源線と照明器具の接続、検査
			電気配線器具の取付け			○			スイッチ、コンセント等の電気配線工事
			レンジフードとダクト接続工事		○				建築ダクトとレンジフードの接続、検査
			その他電化機器の工事			○			電化機器と電源線、アースの接続工事
	4	ガス工事	ガス調理機器のガス管接続				□		ガス機器とガス配管の配管接続工事
	3	管工事	給水・給湯配管と水栓の接続		○				給水・給湯の一次側と水栓の接続、検査
			給水・給湯配管とオプション機器の接続		○				オプション機器と一次側給排水の接続、検査
			建築側排水管への接続工事		○				キッチン排水管と建築排水管の接続、検査

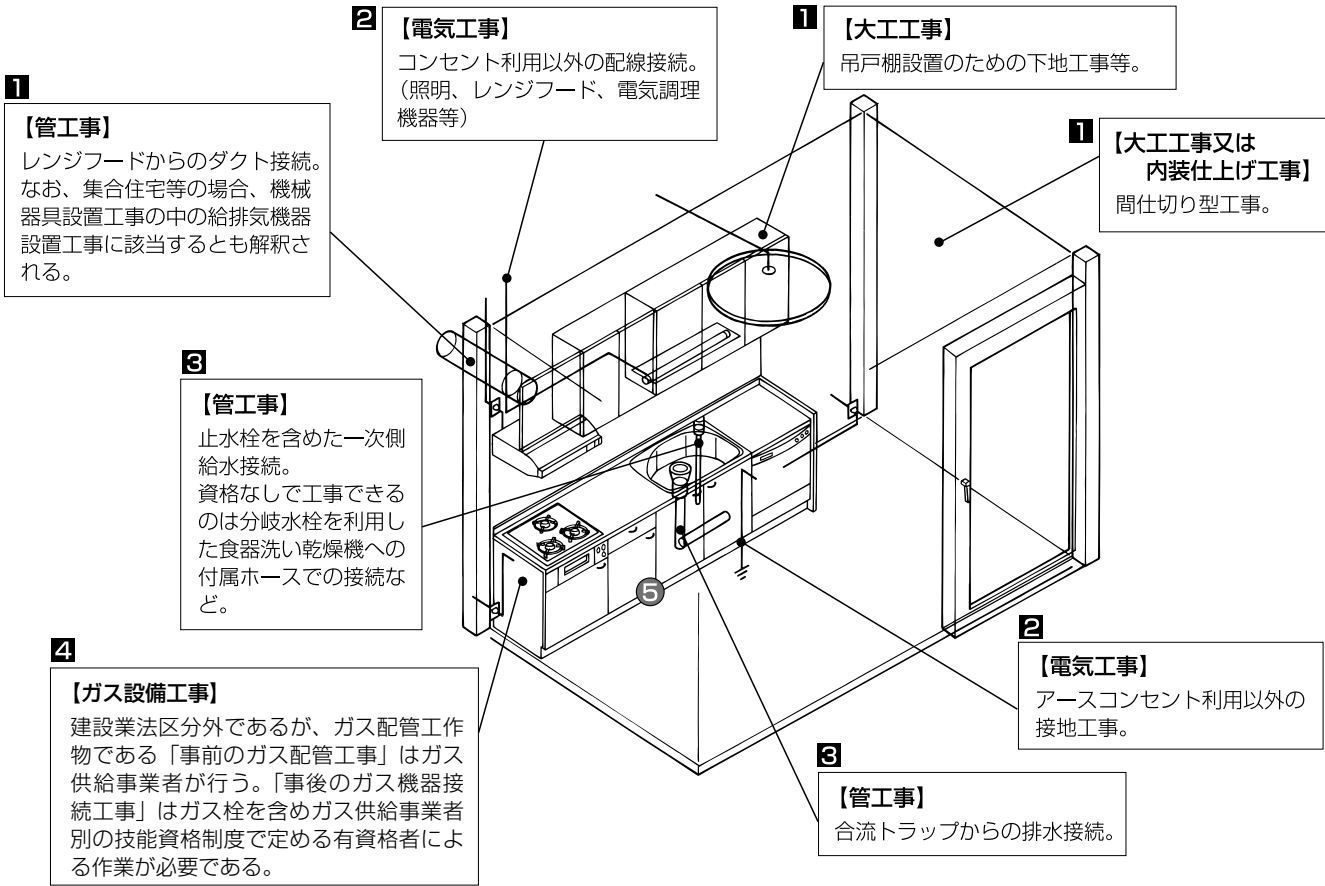
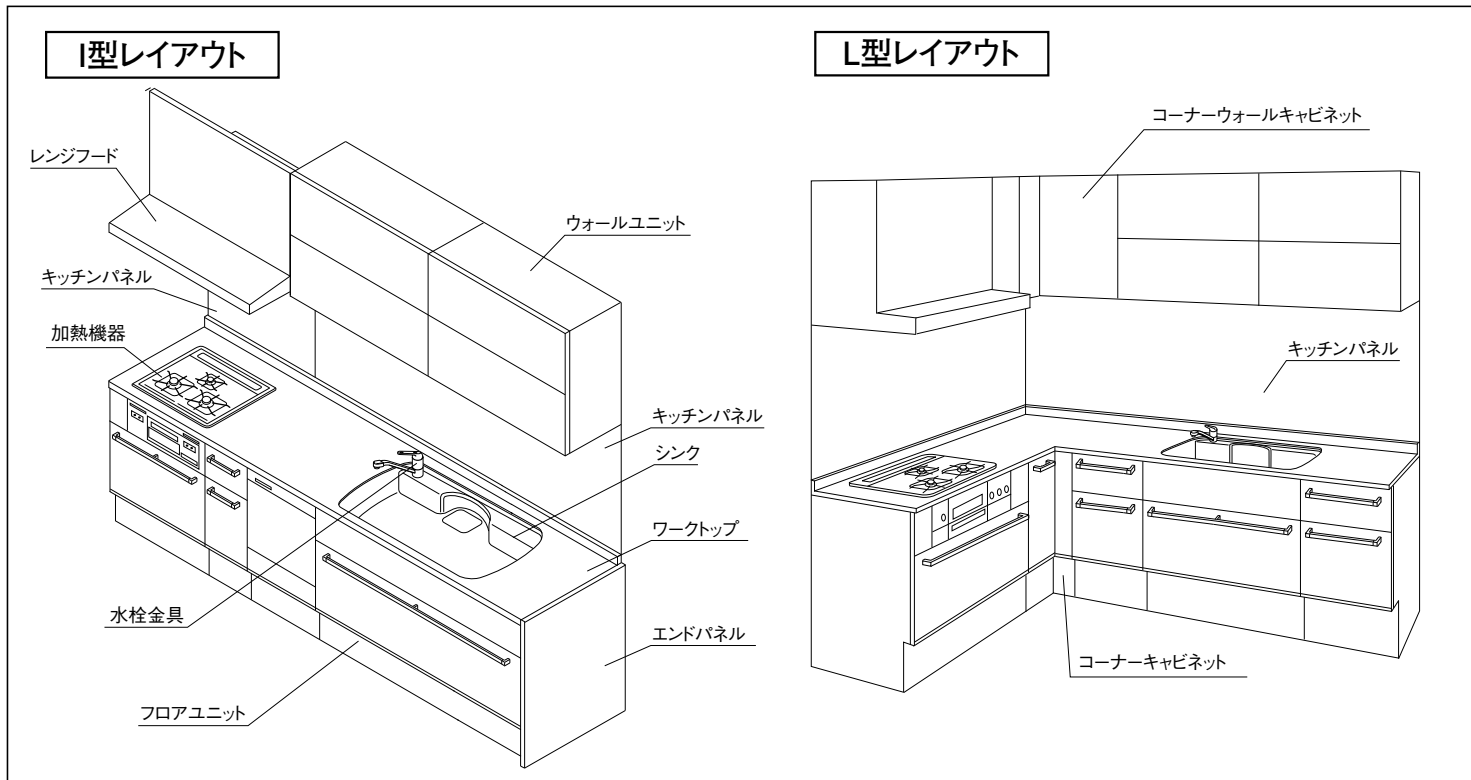
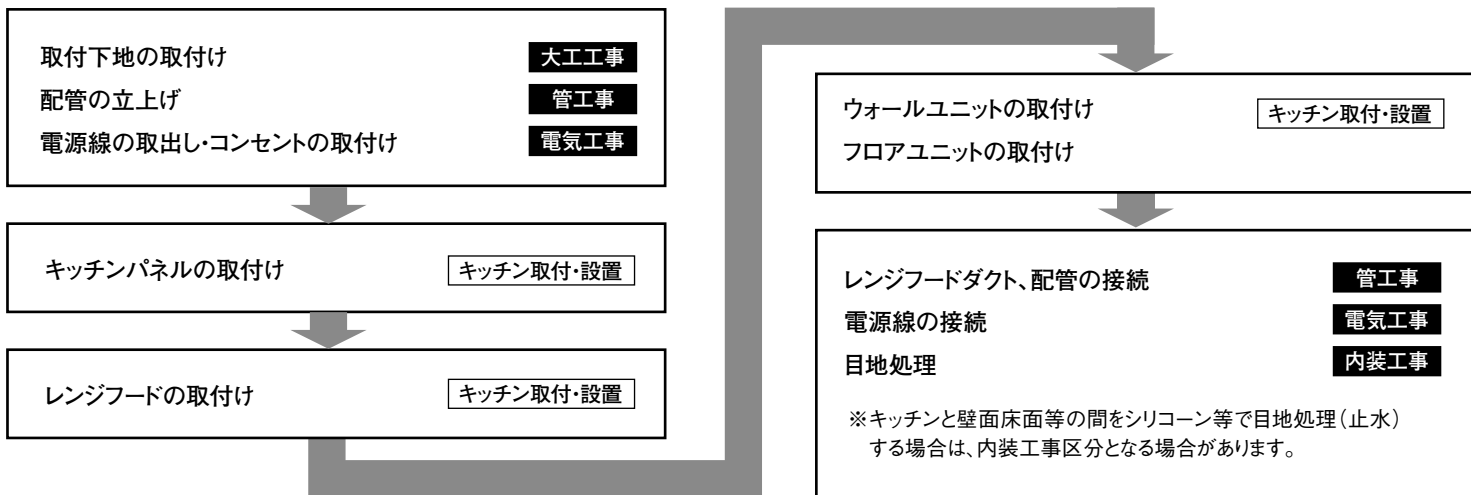
注記1)製品の完成品検査、試運転は、事後工事完成後行う場合が多い。

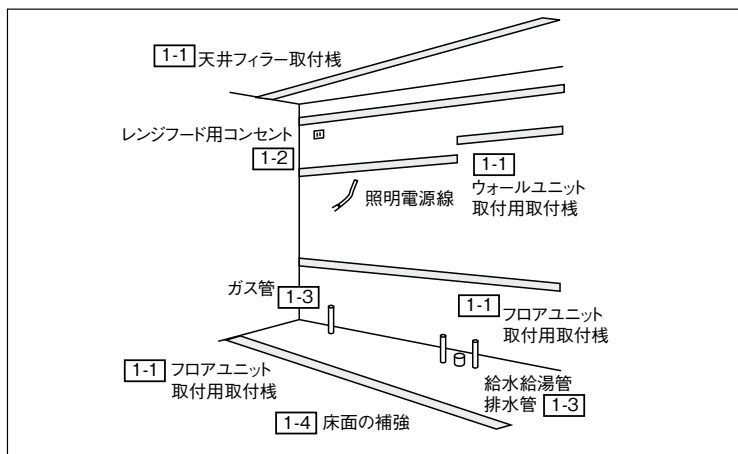
各部の名称

I型レイアウト

レンジフード
キッチンパネル
加熱機器
ウォールユニット
キッチンパネル
シンク
ワークトップ
水栓金具
エンドパネル
フロアユニット

L型レイアウト

コーナーウォールキャビネット
キッチンパネル
コーナーキャビネット

設置手順

1 事前工事（建設工事）

1-1.取付桟の取付け 大工工事

キャビネットを取付・設置する壁面に、取付桟を取り付けるか、埋め込んでください。
石膏ボードで仕上げる壁面は、石膏ボードの内側に取付桟を取り付けてください。

⚠警告
- 以下の事項と条件を必ず守って取付・設置する。
  守らないとウォールユニットが落下するおそれがあります。
- 取付桟の取付けは、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」が行う。

●本体重量と収納重量の荷重に対して、取付桟（下地）が落ちないだけの強度をもたせてください。最大300kg/1キャビネットあたりの強度がもつように柱・間柱に確実に固定してください。
●キャビネットを取付・設置する壁面には、取付桟（下地）を取り付けるか、埋め込みます。
●取付桟（下地）は広葉樹、マツ・ツガ等の強度のある針葉樹いずれかの無垢材を使用します。また、厚さ30mm以上、幅100mm以上が必要です。
●合板を取付桟（下地）として使用する場合は、ラワン合板などの硬い材質の普通合板（表面が平滑でフシがない、虫くいや、くされのないもの）を使用します。また、必ず厚さ12mm以上のものを使用してください。
●石膏ボードで仕上げる壁面は、石膏ボードの内側に取付桟（下地）を取り付けます。

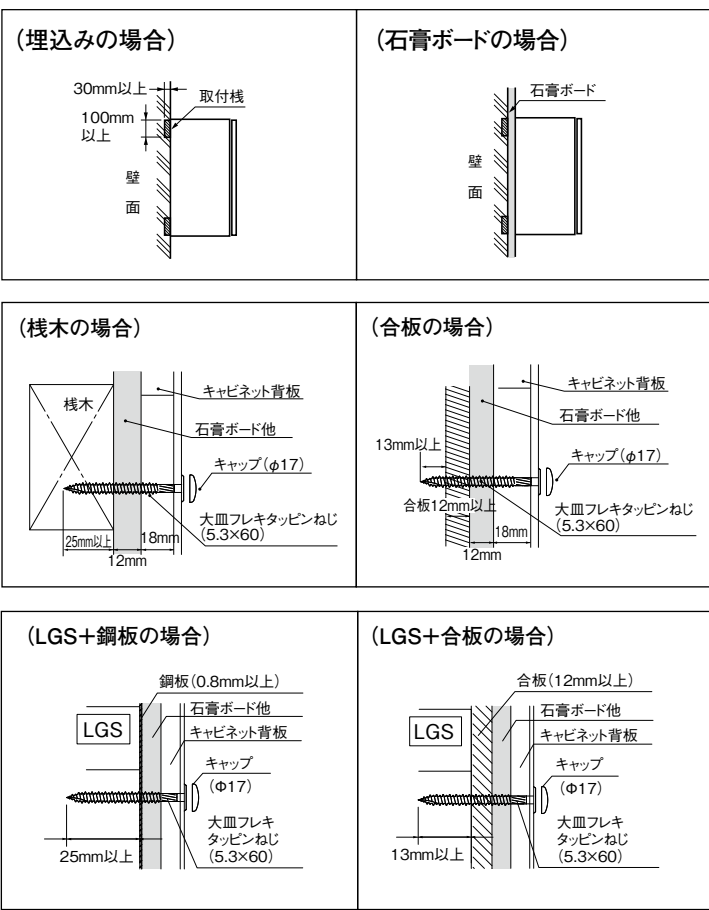
●吊戸棚の取付けは、必ず商品同梱の専用ねじ（大皿フレキタッピンねじ（5.3×60）を使用し、取付桟（下地）に25mm以上かかるようにしてください。
●合板下地の場合は、下地からのねじ貫通しろを13mm以上としてください。
●合板下地はねじ個所だけではなく、全面下地（吊戸棚全体）を原則とします。

●鋼板下地の場合
・鋼板の変形を防ぐため必ず石膏ボード等で覆ってください。
・下地からのねじ貫通しろを25mm以上としてください。
●鋼板下地で石膏ボード2枚貼りの場合、その内側に下地を敷設する事は、上記のねじ貫通しろが確保出来ないため設置できません。
●鋼板の厚みは必ず0.8mm以上のものを使用してください。
●軽量鉄骨躯体（LGS）の設置間隔は300mm以下を守ってください。

（埋込みの場合）
30mm以上 取付桟 100mm以上 壁面

（石膏ボードの場合）
石膏ボード 壁面

（桟木の場合）
桟木 キャビネット背板 石膏ボード他 キャップ（φ17） 大皿フレキタッピンねじ（5.3×60） 25mm以上 18mm 12mm

（合板の場合）
キャビネット背板 石膏ボード他 13mm以上 キャップ（φ17） 合板12mm以上 大皿フレキタッピンねじ（5.3×60） 18mm 12mm

1-2.電源線の取出し・コンセントの取付けについて 電気工事

警告 電源の取出し・コンセントの取付けは、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」が行う。

1-3.ガス管・給水給湯管・配水管の立上げについて 管工事

警告 配管の取付けは、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」が行う。

1-4.床面の補強について 大工工事

⚠警告 床面の補強は、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」が行う。

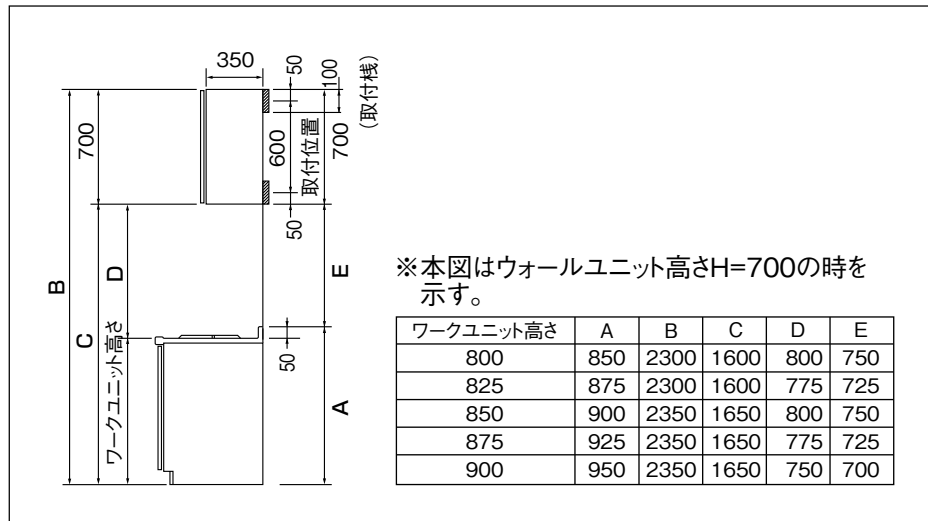
200kg/1キャビネット程度の荷重があるので、それに耐えられる床の補強を依頼してください。
特に2重床の場合は補強用支持脚を225～310mm程度の間隔で設置することをおすすめします。

2 取付位置・基準線の出し方

2-1.取付位置

右図の標準高さを参考にしてください。
（吊戸棚の固定位置は、ミドルタイプを示します。）

※本図はウォールユニット高さH=700の時を示す。

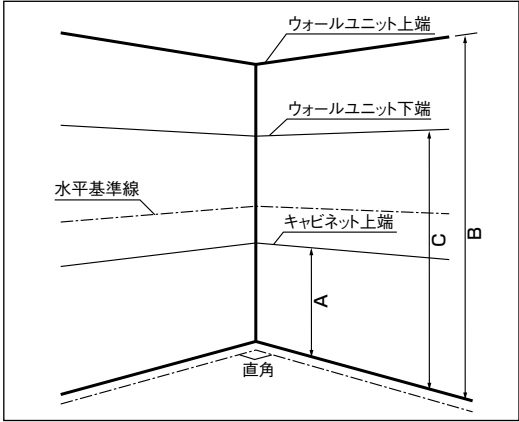
ワークユニット高さ	A	B	C	D	E
800	850	2300	1600	800	750
825	875	2300	1600	775	725
850	900	2350	1650	800	750
875	925	2350	1650	775	725
900	950	2350	1650	750	700

2-2.基準線の出し方

⚠注意	取付・設置前に必ず設置場所の水平、垂直、直角度、レベルなどを正確に調べる。これを基準にキャビネットを取り付ける。 ウォールユニットの水平が出ていない場合、扉キャッチが正常に作動せず、ケガをするおそれがあります。

①レーザーや水準器等で各コーナーにポイントを取り水平基準線を打ってください。
水平基準線より上記の取付位置または施工図を参考に基準線を求めて墨を打ってください。
②床、壁面、天井の直角な交わりと水平、垂直をレーザーまたは水準器等で確認してください。

ワークユニット高さ	A	B	C
800	778	2300	1600
825	803	2300	1600
850	828	2350	1650
875	853	2350	1650
900	878	2350	1650

※本図はウォールユニット高さH=700の時を示す。

ウォールユニット上端
ウォールユニット下端
水平基準線
キャビネット上端
直角

2-3.キッチン設置床の耐荷重について

⚠注意 キッチン設置床の耐荷重について

キッチンユニット全体ではおおよそ下表の様な重量になります。
設置する床がその荷重に耐えられる材質・構造である事を必ず確認してください。
床強度が弱いと、床・躯体が沈み、様々な不具合の原因となります。

※【参考】グランドピアノ　300～500kg
※一般的な床の場合、根太・束等の間隔を225mm～310mm程度とし、耐荷重を確保するようにご配慮をお願いします。

■キッチンI型レイアウトの場合 床耐荷重:480kg/㎡

間口(W)	重量(kg)
2100	580
2400	670
2550	710
2700	750
3000	830

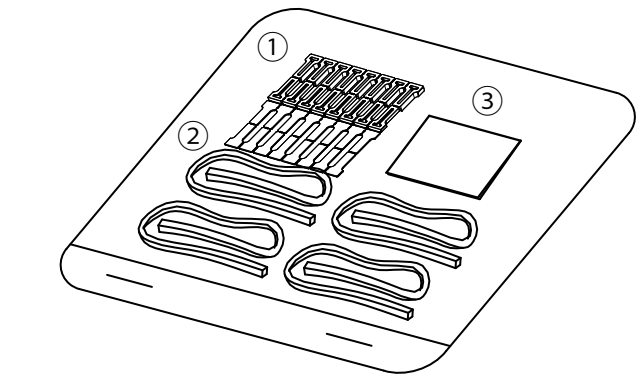
■大型収納など 床耐荷重:1200kg/㎡

間口(W)	重量(kg)
1800	950
2100	1110
2400	1260
2700	1420
3000	1580

2-4.キッチンキャビネットの水平／垂直調整について

⚠注意 キッチンキャビネットの水平／垂直調整について

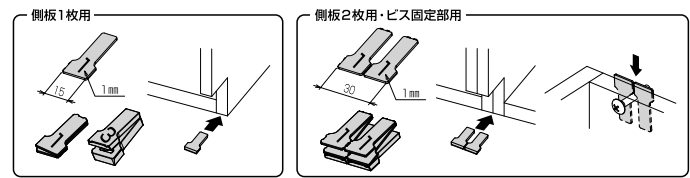
キッチンキャビネット設置時に、キャビネットの水平／垂直が正確に出ていることを必ず確認する。水平／垂直が出ていない場合は、以下の方法で確実に調整を行う。
調整をしないと、キャビネットがゆがみ、様々な不具合の原因となります。

■水平／垂直調整スペーサー 同梱部品一覧

① スペーサー (t1mm・3mm・5mm)
② パッキン　(灰色:1本、黒色:3本　10×10×1000mm)
③ 説明書

■スペーサーの使い方

側板1枚用(15mm幅)と側板2枚用(30mm幅)・ビス固定部用の使い方ができます。

側板1枚用

側板2枚用・ビス固定部用

■隙間隠しパッキンの使い方

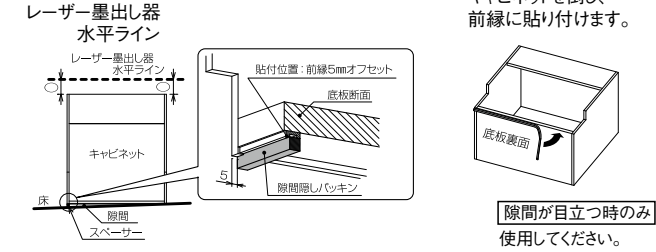
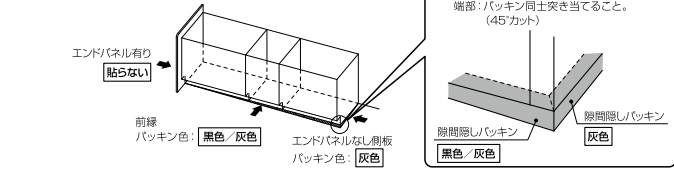
スペーサーで出来た隙間が目立つ時のみ使用してください。
※隙間が目立たない場合は使用しません。

−1.パッキン貼付位置

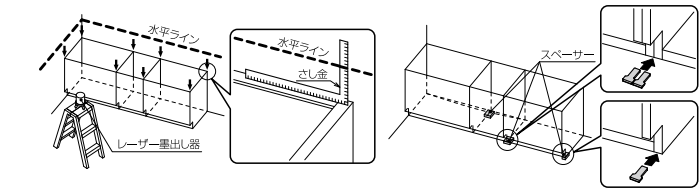
レーザー墨出し器
水平ライン

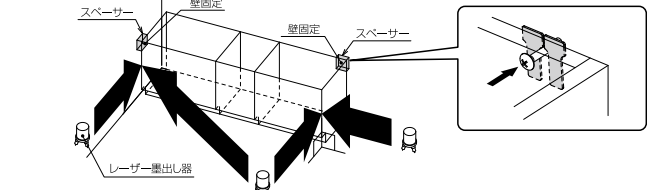
キャビネットを倒し、前縁に貼り付けます。

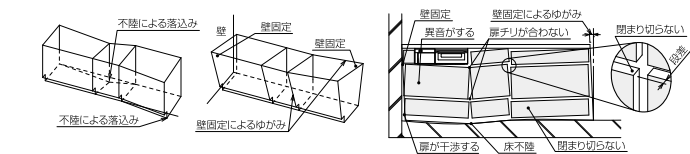
底板裏面

隙間が目立つ時のみ使用してください。

−2.パッキン色の使い分け

1.水平の調整方法

①設置位置にキャビネット仮置き後、⬇部の高さを測定する。

②他よりも低い場所にはスペーサーを入れ、水平を出す。

2.垂直の調整方法

①キャビネット壁固定時、垂直材(キャビネット側板)の垂直を確認する。
②スペーサーで垂直を調整しながら、壁固定する。

水平／垂直の調整をしないと…

キャビネットがゆがみ、下図の様にさまざまな不具合が出ます。

3 同梱部品一覧表

⚠注意

必ず指定のねじ類を使用する。
使用しないと、商品の落下などによりケガの原因となります。

取付・設置で使用するねじを固定する場合は、しめすぎによるねじの空回り、頭つぶれのないようにする。
固定ねじがきかないと、キャビネットなどが落下してケガの原因となります。

■同梱部品一覧表(プランによっては付属されていない部品があります)

部品名		用途
大皿フレキタッピンねじ5.3×60(φ17キャップ付)		壁面固定用
大皿フレキタッピンねじ5.3×27(φ17キャップ付)		連結用 エンドパネル固定用
皿木ねじ3.3×32		ワークトップとキャビネットの固定用(人造大理石)
トラスタッピンねじ3.5×12		ワークトップとキャビネットの固定用

部品名		用途
カウンター固定用金具		ワークトップとキャビネットの固定用
TU固定金具		ワークトップとキャビネットの固定用
トラスタッピンねじ3.5×12		側板フィラー固定用
ナベタッピンねじ3.5×12		排水カバー固定用

■ラクリーンシンク用排水セット部品
(ひろびろラクリーンシンク・ラクリーンコンパクトシンク含む)

くるりん排水口タイプ	
デュアルコート無	デュアルコート有
ラクリーンシンク	ラクリーンシンク デュアルコートタイプ
排水カップ	排水カップ(デュアルコート)

てまなし排水口タイプ	
デュアルコート無	デュアルコート有
ラクリーンシンク	ラクリーンシンク デュアルコートタイプ
排水カップ	排水カップ(デュアルコート)

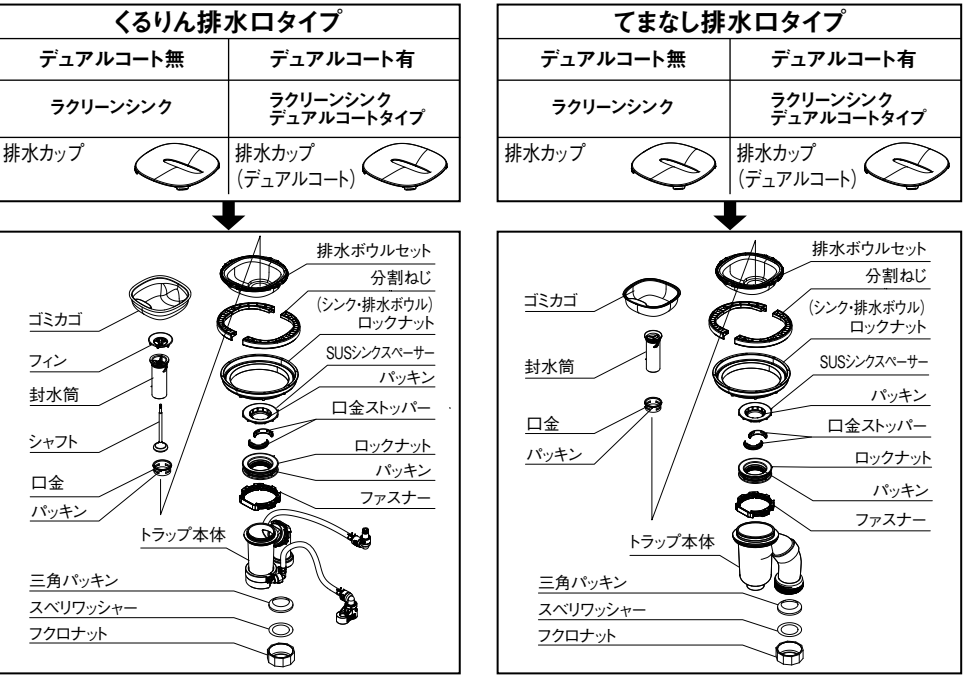
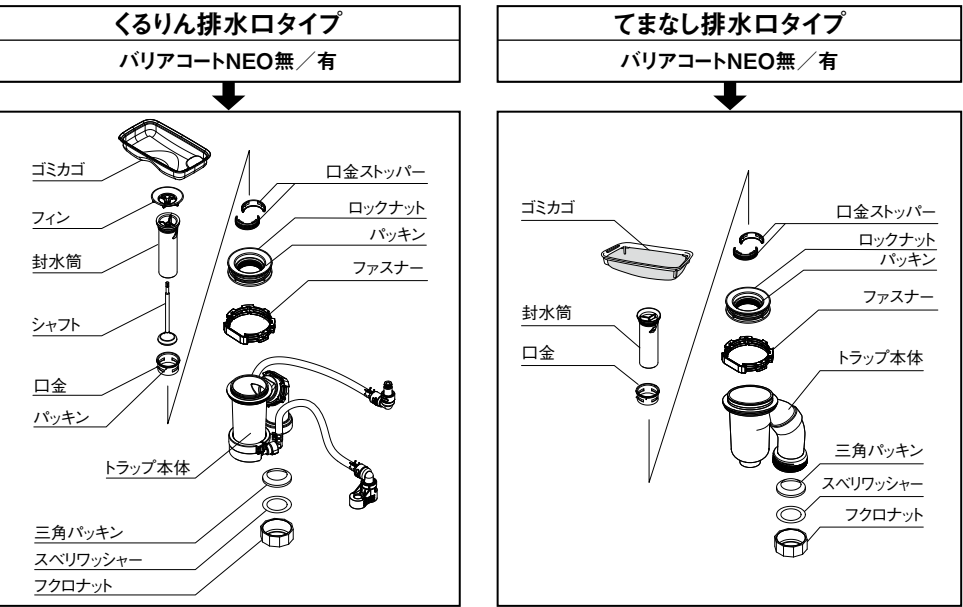
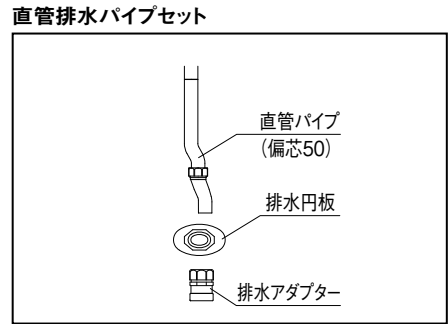
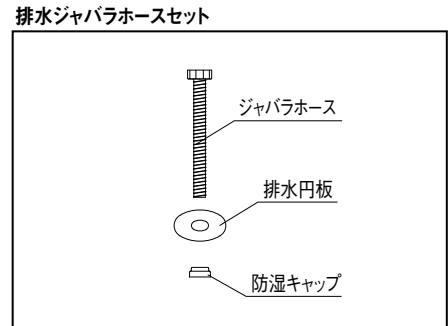
■キレイシンク用排水セット部品
(ひろびろキレイシンク含む)

くるりん排水口タイプ
バリアコートNEO無／有

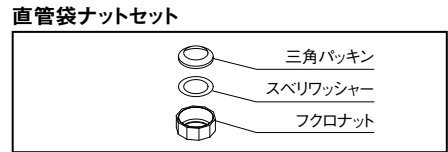
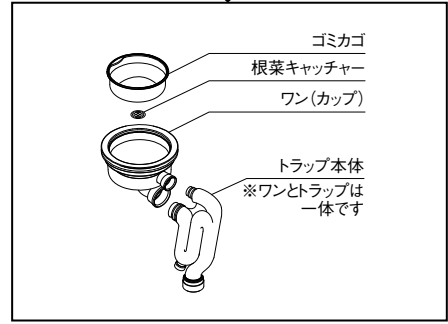
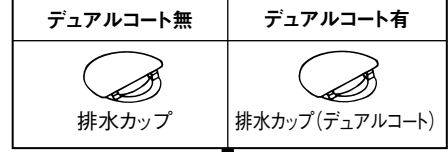
てまなし排水口タイプ
バリアコートNEO無／有

●別途手配

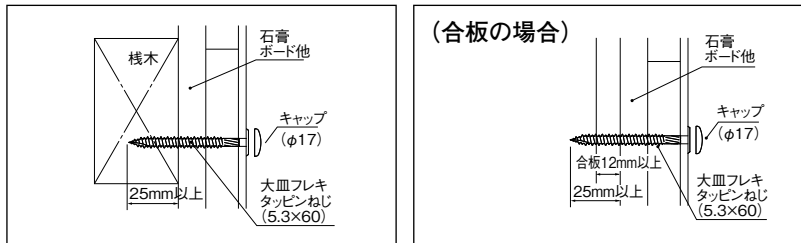
排水ジャバラホースセット

直管排水パイプセット

Sトラップ＋ステンレス排水セット
(センターポケットシンク・ラウンド68シンク用)

デュアルコート無	デュアルコート有
排水カップ	排水カップ(デュアルコート)

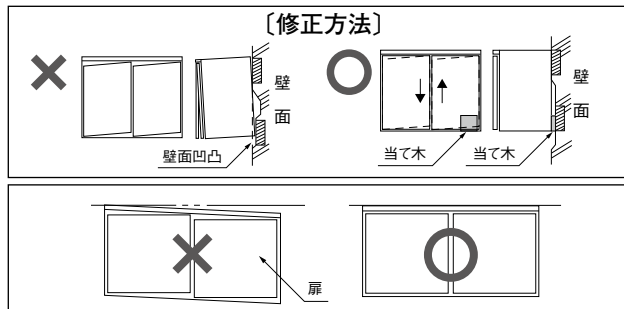
直管袋ナットセット

4 ウォールユニットの取付け

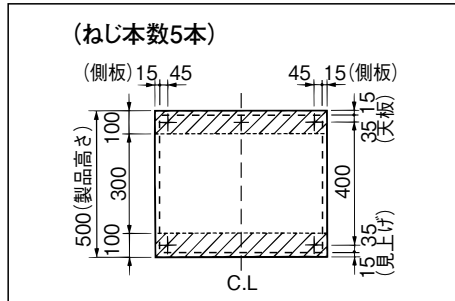
⚠警告 以下の事項と条件を必ず守って設置する。
守らないとウォールユニットが落下するおそれがあります。

- ●必ず所定のねじ本数・固定場所を確認してから設置する。
- ●取付ねじをしめすぎて空回りしたり、ねじ頭をとばしたりしないよう確実に固定する。
- ●取付ねじは必ず同梱しているねじを使用し、取付桟に25mm以上かかるようにする。
- ●躯体側のねじ下穴をあける場合はφ3.0であける。それ以上であけるとねじの保持力が弱くなります。

設置上のお願い

ウォールユニットを取り付ける壁面に凹凸があると、扉の段違いが生じます。壁面は必ず平面にしてください。壁面に凹凸があり、扉の段違いが生じた場合は、図のように修正してください。

■取付桟位置・取付ねじ位置（単位:mm）と取付ねじ本数

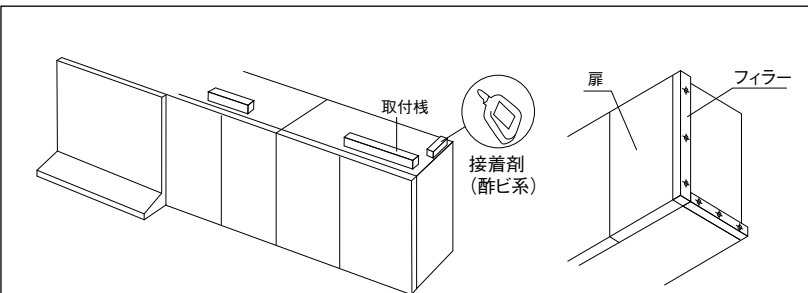
※コーナー用ウォールユニットの取付位置は、
間口750側背板:4カ所、間口450側背板:2カ所になります。
※Gはキャビネット勝手に関係なく向かって左側になります。

タ イ プ		A	B	C	D	E	F	G
H=900	標準(コーナー含む)	900	700	0	800	35	15	45
	照明(LED付タイプ)							80
	水切棚	900	600	100	700	150	0	45
	照明(現場取付タイプ)	900	660	40	760	35	55	45
H=700	標準(コーナー含む)	700	500	0	600	35	15	45
	照明(LED付タイプ)							80
	照明(現場取付タイプ)	700	460	40	560	35	55	45
	クイックポケット専用	700	420	80	520	35	95	45
	クイックパレット専用	700	420	80	520	35	95	45
H=600	標準(コーナー含む)	600	400	0	500	35	15	45
	照明(LED付タイプ)							80
	照明(現場取付タイプ)	600	360	40	460	35	55	45
H=500	標準(コーナー含む)	500	300	0	400	35	15	45

■冷蔵庫用上置きキャビネット

背面に配線用の切欠き溝があるキャビネットの場合は、必ず溝位置を避けて取り付ける。取付強度が得られないばかりか、コード断線のおそれがあります。

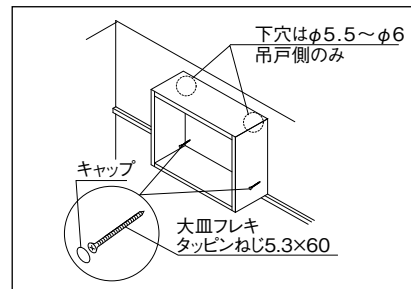
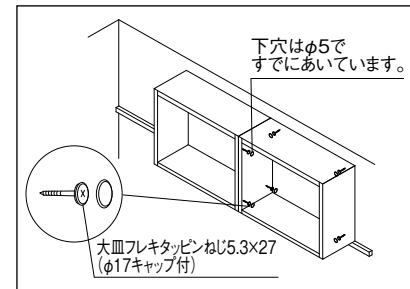
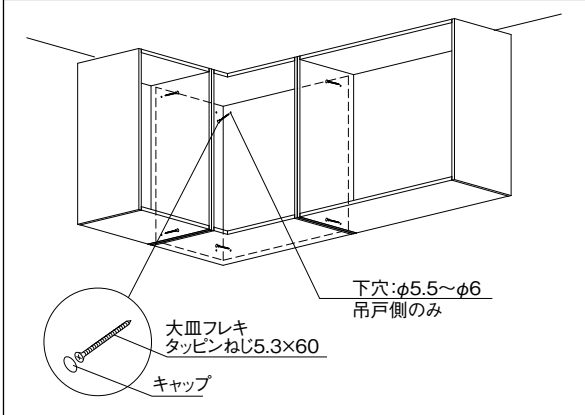
4-1. 扉を取外す

P36.「14.調整方法」を参考に扉を外します。

4-2. 天井フィラー取付桟、フィラーの取付け

13-2.「天井フィラーの取付け」を参考に天井フィラー取付桟、パネルフィラー、プレートフィラーを取り付けます。

⚠注意 天井との間にフィラーなどを入れる扉を開けたときに天井に当たるおそれがあります。

4-3. ウォールユニットの取付け

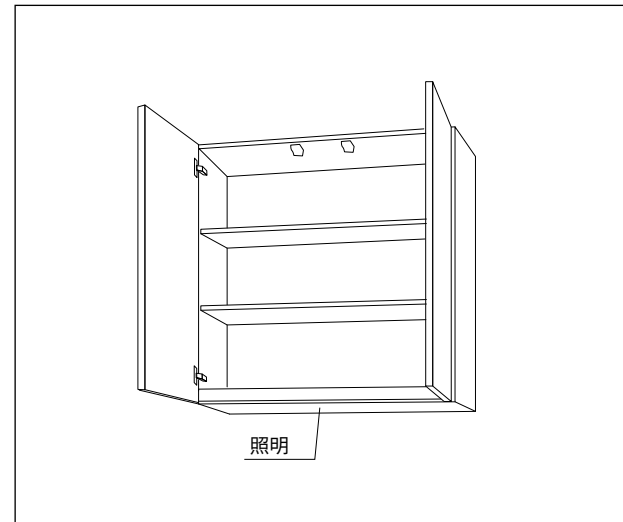
①背板に下穴をあけ、付属のねじでキャビネットを壁面に取り付けます。
下穴の位置は、「■取付桟位置、取付ねじ位置と取付本数」を参照ください。

②キャビネット同士の側板の下面と前面の面合せをして、隣のキャビネットと付属の大皿フレキタッピンねじ5.3×27（φ17キャップ付）で連結します。

4-4. ウォールユニットの取付け（コーナーキャビネット）

5 各種ウォールユニットの取付け

5-A.照明付ウォールユニットの取付け

照明付ウォールユニット

電気工事は、関連する法規に従って、必ず「有資格者」が行う。接続が不完全な場合は、発煙や火災の原因になります。

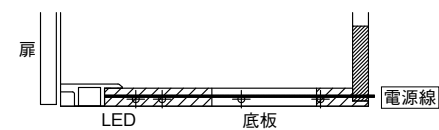
電源接続は完全に行う。接続が不完全な場合は、発煙や火災の原因になります。

大皿フレキタッピンねじ5.3×60（φ17キャップ付）		壁面固定用
大皿フレキタッピンねじ5.3×27（φ17キャップ付）		連結用
タッピンねじ4×12		照明取付用
照明取扱説明書		

キャビネットの取付け

1.キャビネットの取付けは電源線を引き込みながらP11.「4-3ウォールユニットの取付け」を参考にキャビネットを取り付けます。

※電源線が壁面から1m程度引き出されているか確認した上で作業を行ってください。

照明付きキャビネット断面

LED付タイプ

※電源線は底板の中に通す

現場取付タイプ

※電源線は中板と底板の隙間に通す

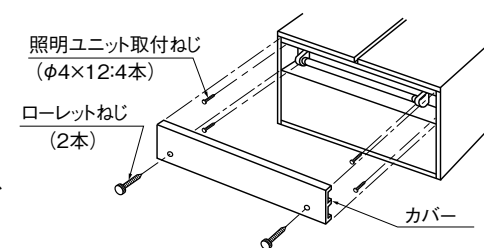
照明の取付け

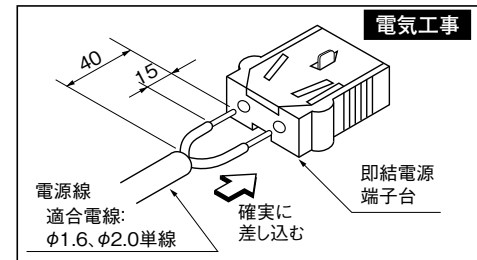
●LED付タイプ

キャビネットに同梱の「取付・設置説明書」を参照し取り付けてください。

●現場取付タイプ

■インバーター照明の場合

1.ローレットネジをゆるめてカバーを外し、電源線を照明ユニットの中に取り込んでから照明ユニットを付属のビスでキャビネットに固定してください。

※蛍光管を外して作業してください。

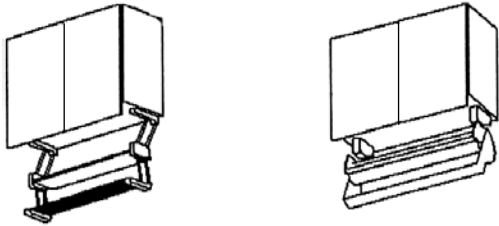
2.図のように即結端子に電源線を差し込みます。

3.カバーを元の位置に戻してください。

■LED照明の場合

LEDに同梱の「取付・設置説明書」を参照して取り付けてください。

5-B.クイックパレット、クイックポケット・照明付用キャビネットの取付け

電気工事は、関連する法規に従って、必ず「有資格者」が行う。
接続が不完全な場合は、発煙や火災の原因になります。

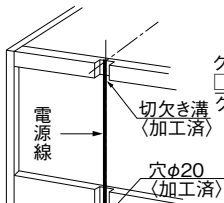
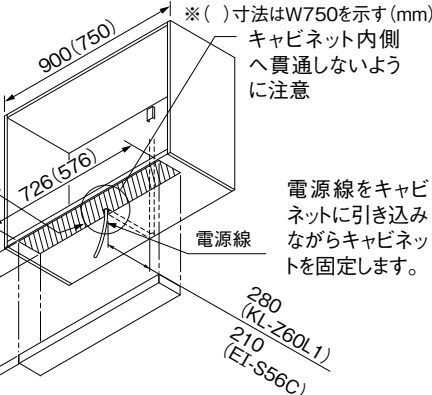
電源接続は完全に行う。
接続が不完全な場合は、発煙や火災の原因になります。

①クイックパレットに照明を取り付ける時は、図を参考にキャビネットの下から底板に配線用の穴（20×20mm程度）をカッターなどであけてください。

配線用の穴は背板の切欠き溝に合わせて必ず間口方向のセンターにあけてください。

配線用の穴をあける場合は、ドリルは使用しない。キャビネット内の底板を貫通するおそれがあります。

配線用の穴の奥行方向位置は、取り付ける照明に合わせる。下記の表を参照のうえ正しく穴をあけてください。

取付ける照明	背面からの位置(mm)
KL-Z60L1	280
EI-S56C	210

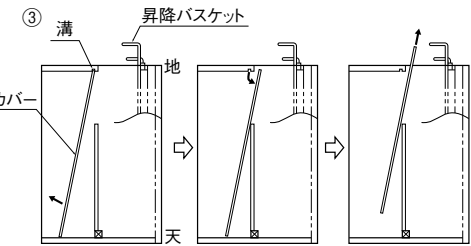
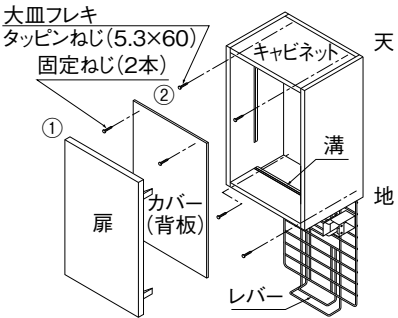
②キャビネットの取付け
電源線を引き込みながらP11.「4-3ウォールユニットの取付け」を参考に取り付けます。電源線を既存の切欠き以外から引いてくる場合は、側板の後部を下図のように切欠いて、配線してください。

③照明の取付け（クイックパレットに照明を取り付ける時）
照明を取り付けます。

クイックパレット専用吊戸に市販の照明器具を取り付ける場合は上図の範囲に収まることを確認する。
上図の範囲に照明器具が収まらないとクイックパレットが正しく設置できません。

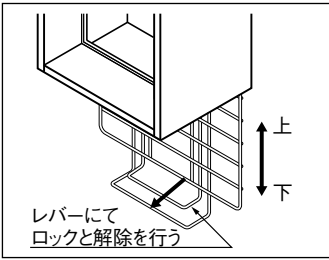
④クイックポケット、クイックパレットの取付け
キャビネットの取付け後、クイックパレット、クイックポケット同梱の「取付・設置説明書」に従って正しく取り付けてください。

5-C.昇降装置付ウォールユニットの取付け

1.カバー（背板）の取外し

①扉を外してください。
②固定ねじを外し、カバーを取り外してください。カバーはキャビネット底板側の溝に納まっていますので図③を参考に外してください。
※固定ねじはカバー取付けの際に必要となります。紛失しないように注意してください。
※作業は天板を下にして行ってください。

2.バスケットの昇降

キャビネットはバスケットを下げた状態で取り付けます。レバーを握りしめると、ロックが解除され上下動が可能になります。レバーの握りをゆるめると、その位置で昇降バスケットがロックされます。

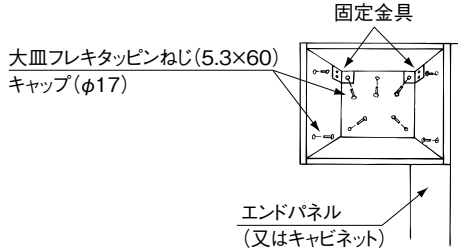
キャビネットとバスケットの間に指をいれない。ケガをするおそれがあります。

3.キャビネットの取付け

P11.「4-3ウォールユニットの取付け」を参考にキャビネットを取付けます。

4.カバー（背板）の取付け

カバーをもとの位置にもどし、ねじで取り付けてください。天板と隙間ができないように取り付けてください。

5-D.冷蔵庫上部用キャビネットの取付け

1.キャビネット背板の取付ネジ位置にあらかじめ下穴（φ5.5～φ6）をあけてください。
2.図のように5カ所を同梱の大皿フレキタッピンねじ（5.3×60）で壁面に固定してください。
3.隣にエンドパネル、キャビネット又は壁がある場合は必ず大皿フレキタッピンねじ（5.3×60）で固定してください。
4.大皿フレキタッピンねじ（5.3×60）の頭に同梱のキャップ（φ17）を取り付けてください。

5-E.その他のウォールユニットの取付け（部材同梱の「取付・設置説明書」を参照し取り付けてください）

1.ダウンウォール

同じキャビネットにクイックポケットとダウンウォールまたは、クイックパレットとダウンウォールを併設する場合ダウンウォールをあとに取り付ける。先に取り付けるとクイックポケットまたはクイックパレットを取り付けることができません。

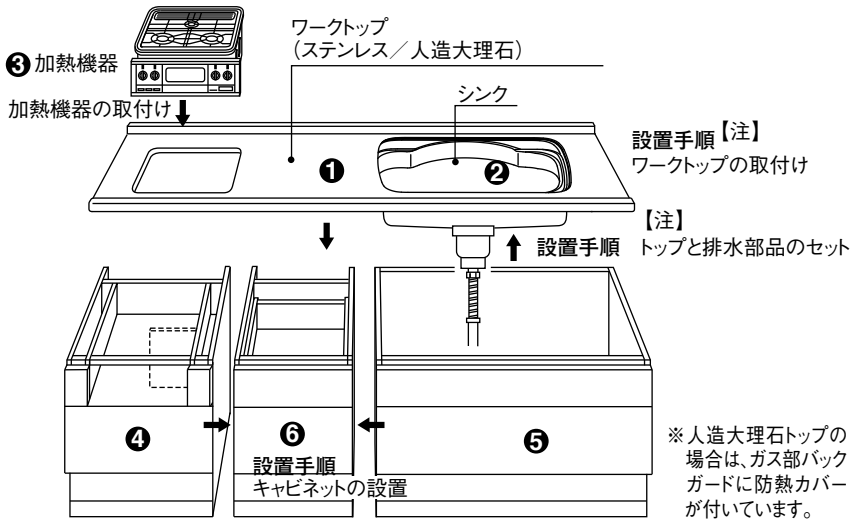
2.オートダウンウォール
3.フラップ折戸タイプ
4.スライドドアタイプ

6 フロアユニットの取付け

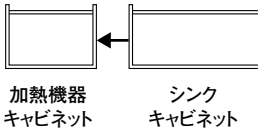
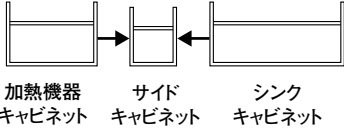
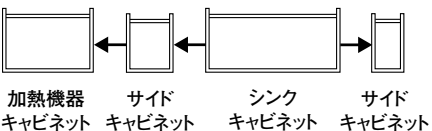
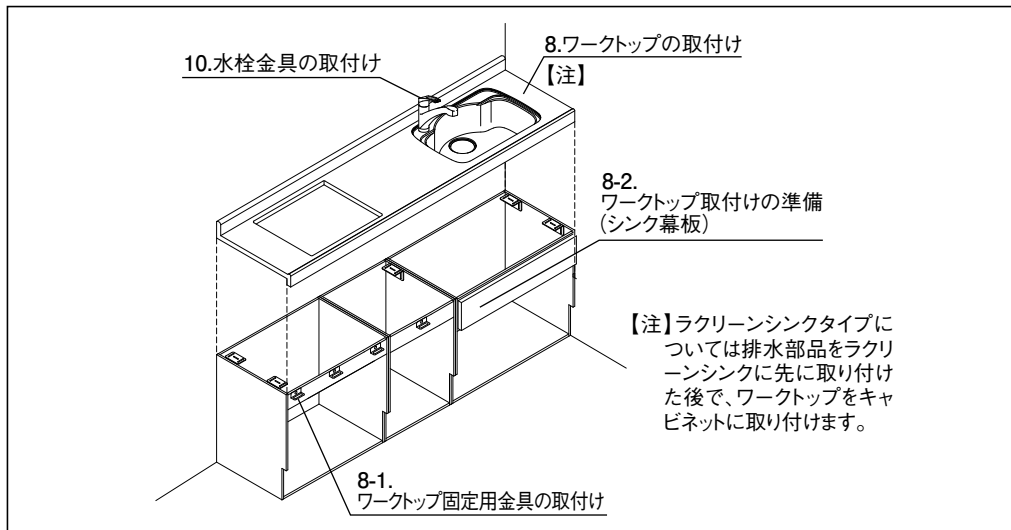
■部材構成

下記のユニット部材を現場で組み立てるシステムになっています。各部材をよくご確認のうえ、組立てを開始してください。

右記部品で構成されています。
下記図中の●白ヌキ数字で照合してください。
※この他、ウォール・トール・収納ユニット等の部材があります。

❶❷ ワークトップ、シンク
❸ 加熱機器
❹ 加熱機器キャビネット
❺ シンクキャビネット
❻ サイドキャビネット

【注】ラクリーンシンクタイプについては排水部品をラクリーンシンクに先に取り付けた後で、ワークトップをキャビネットに取り付けます。

■連結方向

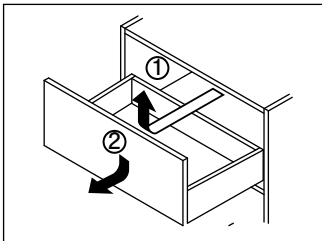
※矢印は連結方向を示します。

■フロアユニット取付概要

6-1. キャビネットを設置する前に

■台輪スペーサーを使用する場合

台輪スペーサーを設置する場合は台輪スペーサーに同梱の取付・設置説明書をご覧ください。

6-2. キャビネットの設置

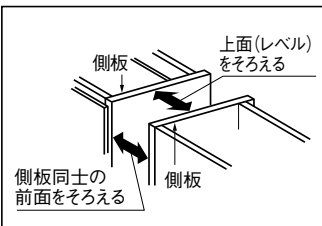
1.引出しの取外し

①引出しをいっぱいまで手前に引き出し、上へ持ち上げてください。
②そのまま下に降ろし、手前に引き抜いてください。

⚠注意

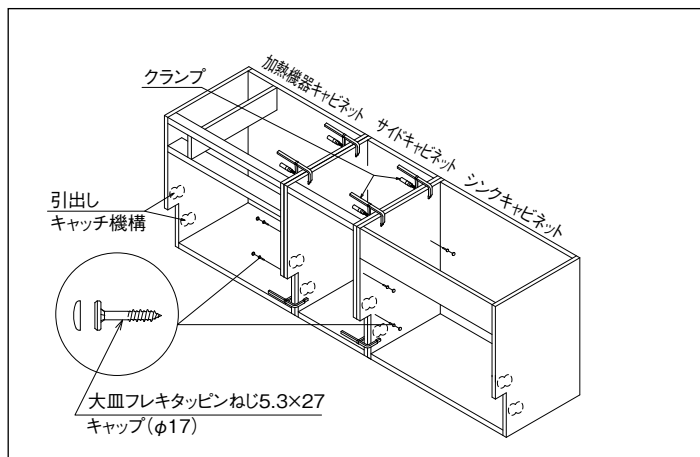
引出しの取外し・取付けは鏡板の上部をしっかり持って行う。

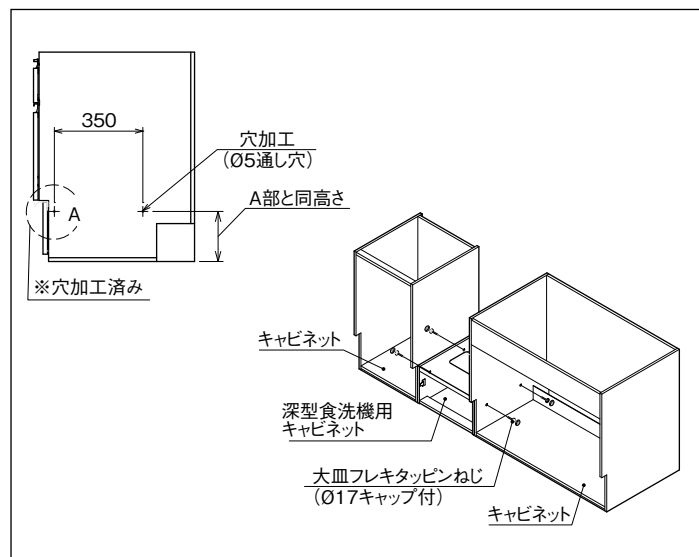
らくパッと収納は鏡板が固定されていないため、引出し本体をしっかり持って行う。

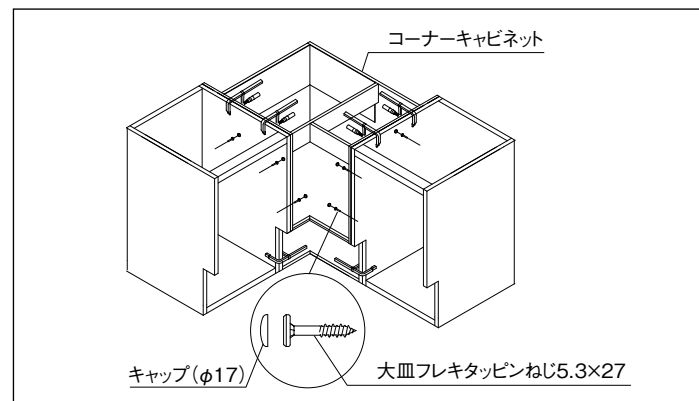
2.キャビネットの設置

①フロアユニットを仮置きします。
②各キャビネット同士の側板の上面と前面の面合わせをしてください。

3.キャビネットの連結

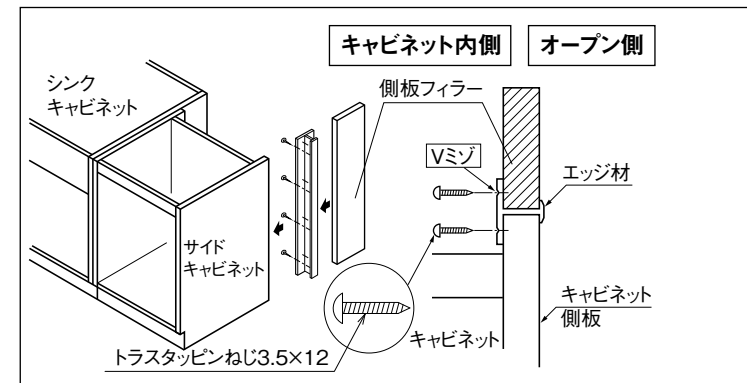
●キャビネットの連結

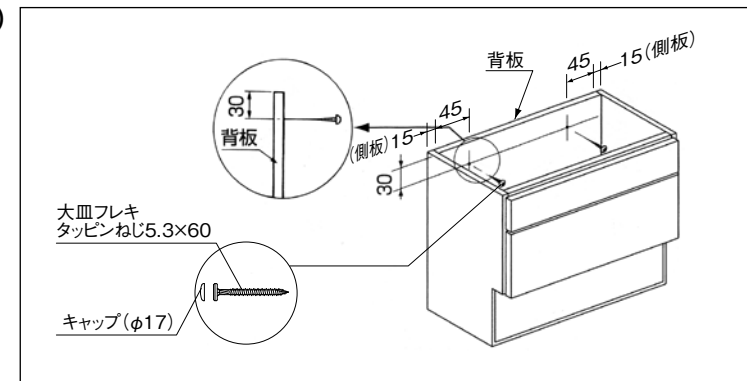
P13.「連結方向」を参考にキャビネットの内部から付属のねじ(キャップ付)で確実に各キャビネットを連結します。

●深型食洗機用キャビネットの場合

深型食洗機用キャビネットに隣接するキャビネットの側板に下図を参考に下穴をあけてください。キャビネットの側板の前面を合わせて隣接するキャビネットより付属の大皿フレキタッピンねじ5.3×27(キャップ付)で連結してください。

●L型コーナーキャビネットの場合

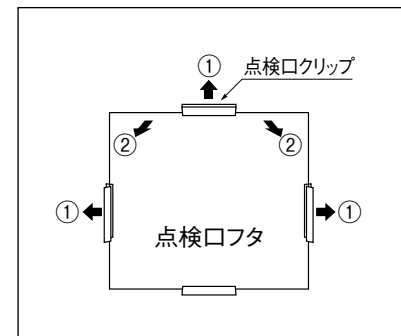
L型タイプの場合はコーナーキャビネットを先に据えてから隣接するキャビネット内側から付属のねじ(キャップ付)で連結します。

⚠注意
引出しキャッチ機構付キャビネットの場合、キャビネット連結の際には、引出しキャッチ機構に干渉しないように注意する。

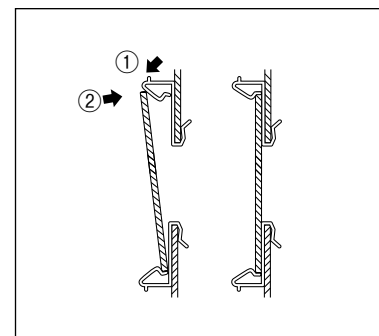
4.奥行の短いキャビネットをオープン側に設置した場合

サイドキャビネット・加熱機器キャビネットの側板には奥行が短いものがあります。レイアウトがオープンになる場合は、図のように側板フィラーをエッジ材と付属のねじで取り付けてください。

5.キャビネットの壁面固定(引出しキャビネット、開き扉キャビネット)

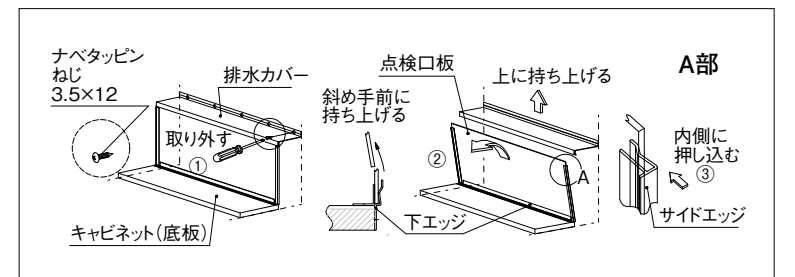
①キャビネット背板の取付ねじ位置にあらかじめ下穴(φ4.5～φ5)をあけてください。
②キャビネットに同梱のねじ(キャップ付)で壁面に固定してください。
③シンクキャビネット、加熱機器キャビネットを壁面に固定してください。

6.点検口フタの外し方・取付け方

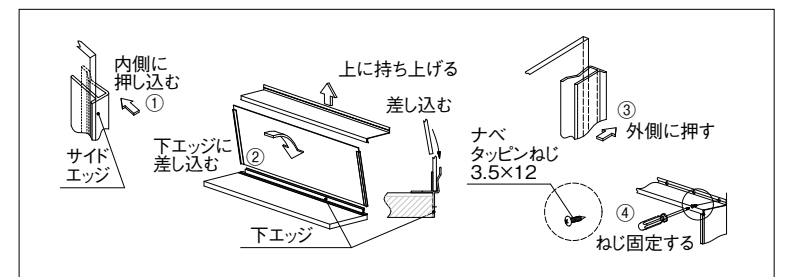
●点検口フタの外し方

①上側と左右の点検口クリップを押し広げながら
②点検口フタを手前にひいて斜めに引き上げて外してください。

●点検口フタの取付け方

①クリップに指をかけて
②フタを押し込んでください。

ひな段タイプの場合

●取外し方

①排水カバーを固定しているねじをプラスドライバーで取り外してください。
②排水カバーを上に持ち上げ、点検口板を斜め手前に持ち上げてください。間口が大きい場合は、端部から外すと外しやすくなります。
③点検口板を引出す際は、キャビネット内側に傷をつけないように、サイドエッジを内側に押し込んで引き出してください。

●取付け方

①点検口板のサイドエッジを内側に押し込んでください。
②排水カバーを上に持ち上げ、点検口板を下エッジに確実に差し込んでください。間口が大きい場合は、端部から差し込んでください。
③排水カバーをかぶせたら、側板との隙間をサイドエッジでふさいでください。
④排水カバーをプラスドライバーでねじ固定してください。

7.引出しキャッチ機構のシール

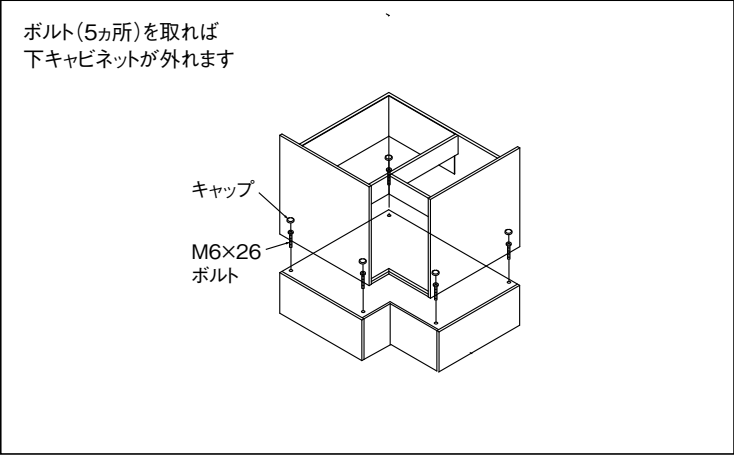
キャビネット組立後はP18.「7-E 引出しキャッチ機構付きキャビネットの場合」を参考に引出しキャッチ機構のシールが確実にはがしていることを確認してください。

7 各種キャビネットの補足事項

7-A.L型コーナーキャビネット

●L型コーナーキャビネットの搬入について

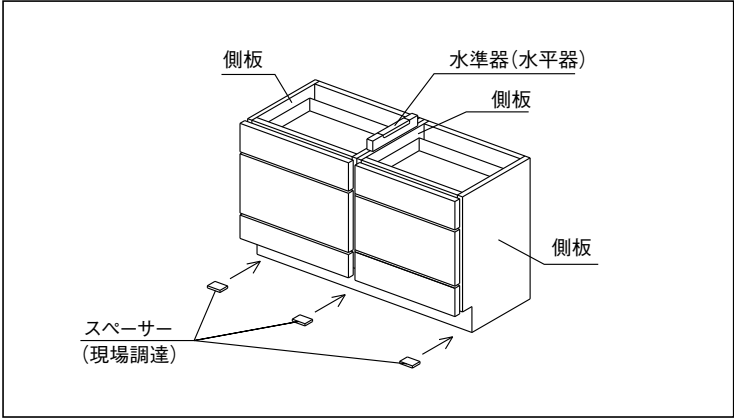
キャビネットが現場の入り口等にあたって搬入できない場合は、下キャビネット部分を取り外し、いったん分離してから搬入してください。キャビネット底板を止めているM6×26ボルトを外せば下キャビネットが分離できます。

※キャビネットを設置するときには必ず下キャビネットを元通りに固定してください。

7-B.スライドストッカーキャビネット設置時の注意事項

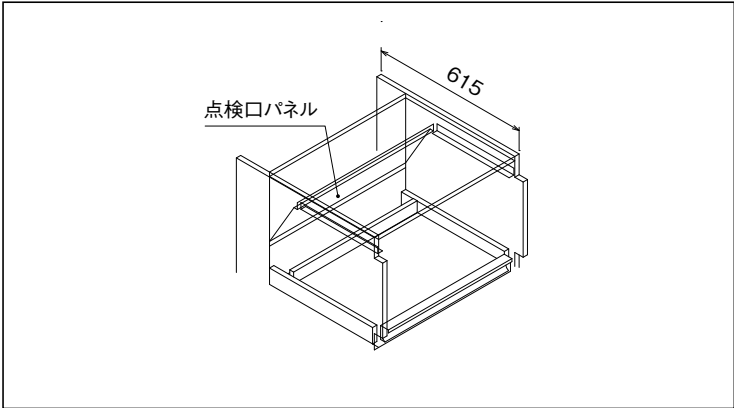
スライドストッカーキャビネットの場合、キャビネット設置後に引出しがきちんと閉まりきることを確認してください。閉まりきらない場合は下記の確認を行い、引出しが閉まりきるように調整してください。

●キャビネットの水平レベルを水準器（水平器）等で確認してください。
　キャビネットが前倒れしていると、引出しを閉める際の抵抗により、引出しが閉まりきらないことがあります。前倒れしている場合は、側板の下にスペーサー（現場調達）を入れ、確実に水平を出してください。

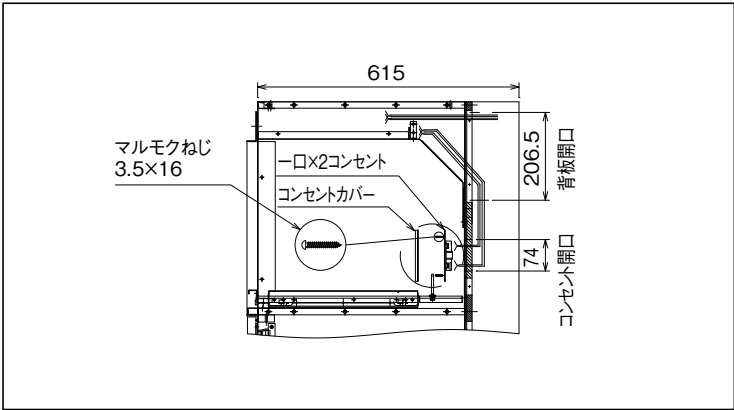
●鏡板の隙間を確認してください。
　鏡板の上下方向の隙間が極端にせまいと引出しが閉まりきらないことがあります。
　鏡板の調整はP36.「14.調整方法」を参照してください。

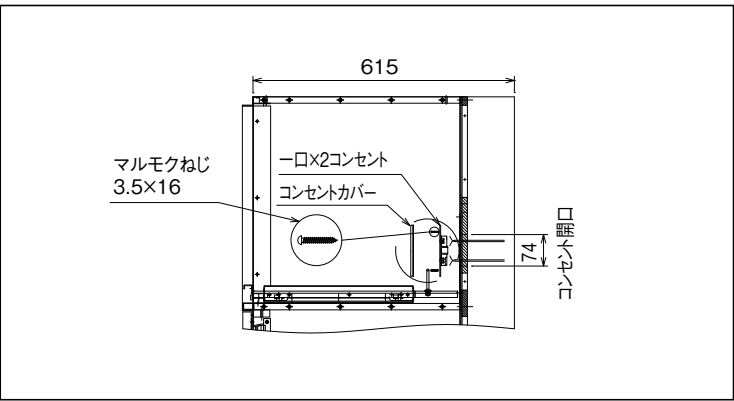
7

7-C.家電収納付フロア用キャビネット

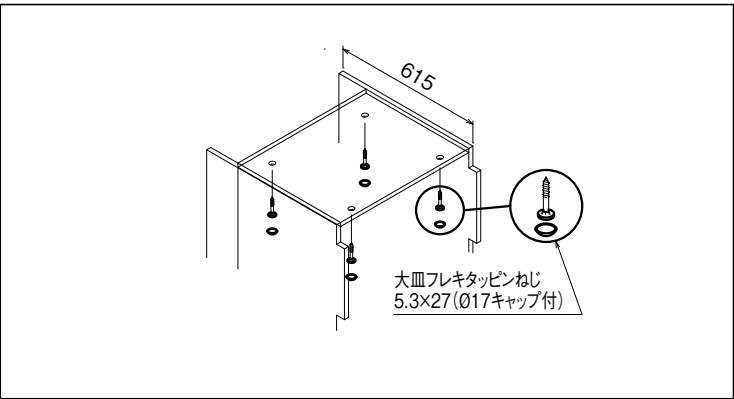
1.点検口パネルの取外し（蒸気排出ユニット付）

①点検口パネルは、天面2本、背面2本でねじ固定しています。手で押さえながらねじを外してください。（キャビネットの奥行きにより点検口パネルの形状が異なります。）
②側面パネルに傷が付かないように、点検口パネルを下に降ろしながら斜めにして手前に引いて外してください。
※コンセントが付いている場合は、コンセントカバーを外してから点検口パネルを外してください。

2.電源線の引込み・接続、コンセントの取付け

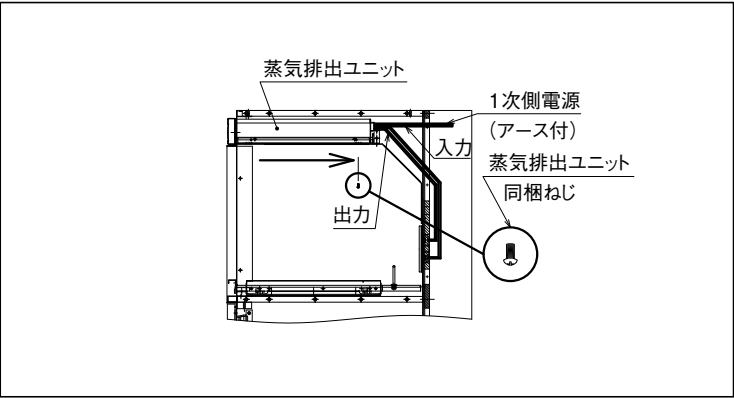
蒸気排出ユニット付

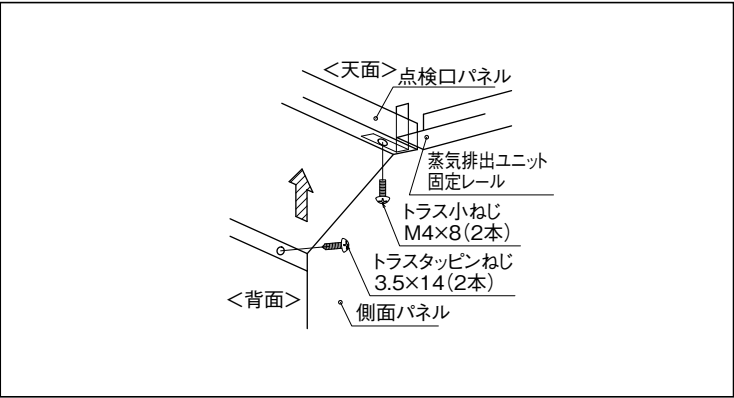
①同梱してある電源線2本を右図のように片側を背板開口に、もう一方をコンセント開口に通してください。電源線の被覆を約15mmむいて1口×2コンセントに差し込んでください。
②コンセントに電源線を差し込んだ後、コンセントを同梱のねじで固定してください。
③コンセントカバーを取り付けてください。
※コンセントへの電源線の差し込みについては、「6.コンセントへの電源線の差込み」に従ってください。
④コンセントの近傍に「コンセント定格ラベル」を必ず貼り付けてください。

蒸気排出ユニットなし

①コンセントに電源線（1次）を2本接続してください。 **電気工事**
②コンセントに電源線を差し込んだ後、コンセントを同梱のねじで固定してください。
③コンセントカバーを取り付けてください。
※コンセントへの電源線の差し込みについては、「6.コンセントへの電源線の差込み」に従ってください。
④コンセントの近傍に「コンセント定格ラベル」を必ず貼り付けてください。

3.ワークトップとの固定

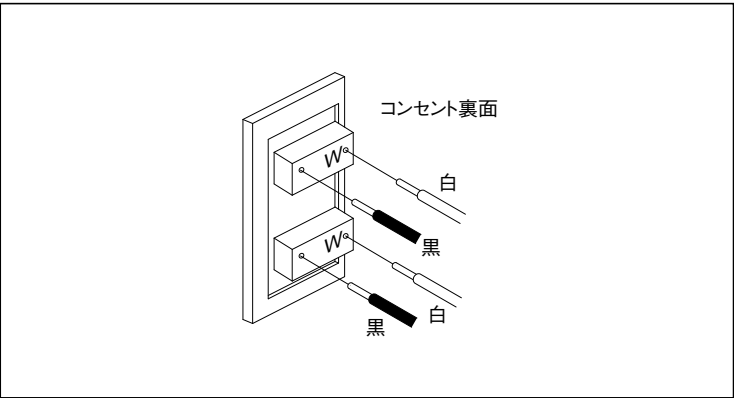
ワークトップと固定する際は専用の金具を使用せずに、キャビネットに同梱しているビスで全4カ所固定してください。
※蒸気排出ユニット付の場合は、蒸気排出ユニットの取付けを行う前にワークトップと固定してください。

4.蒸気排出ユニットの取付けと電源線の接続（蒸気排出ユニット付）

①蒸気排出ユニットに電源線（1次）を2本接続してください。 **電気工事**
②電源線の接続を終えたら蒸気排出ユニットをキャビネットに収めてください。
③蒸気排出ユニットを蒸気排出ユニット同梱のねじで左右各2カ所固定してください。

7

5.点検口パネルの取付け（蒸気排出ユニット付）

①側面パネルに傷が付かないように、点検口パネルを斜めにして背面に入れてください。
②手で押さえながら、背面からねじ固定をしてください。
　続いて天面もねじで固定してください。

6.コンセントへの電源線の差込み

⚠注意
差込みが不十分ですと火災のおそれがあります。

①同梱のコンセントの差込み穴に同梱の電源線を差し込んでください。
②「W」と書かれている方に白色の電源線、もう一方には黒色の電源線を差し込んでください。
③「カチッ」と音がするまで、確実に差し込んでください。必ず、引っ張って抜けがないかを確認してください。

7-D.IHヒーター用コンセントの取付け位置

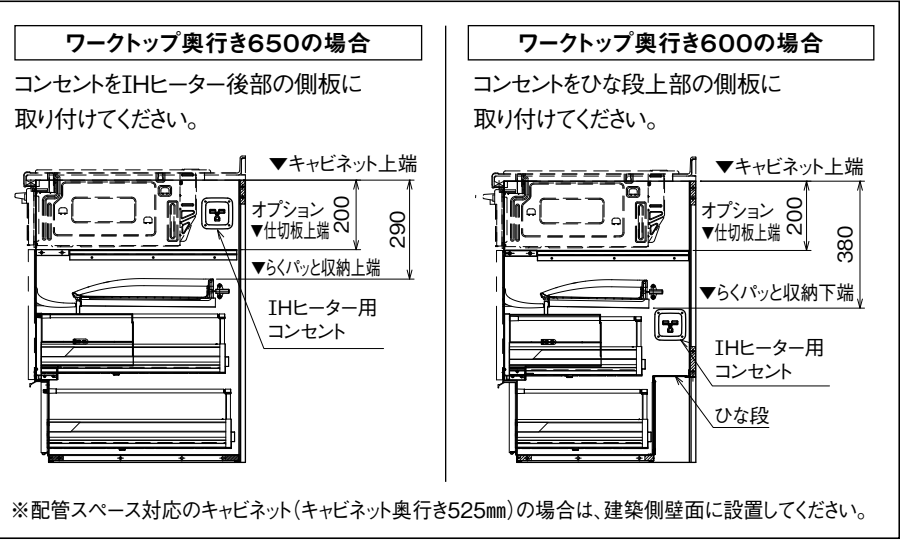
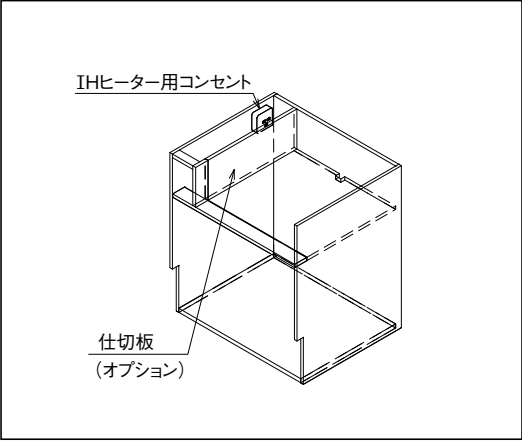
IHヒーター用のコンセントは、らくパッと収納や、オプションのIHヒーター専用仕切板と干渉しない位置に設置してください。 電気工事

ワークトップ奥行き650の場合

コンセントをIHヒーター後部の側板に取り付けてください。

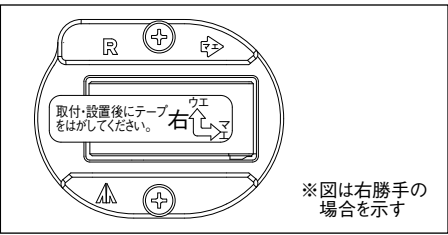
ワークトップ奥行き600の場合

コンセントをひな段上部の側板に取り付けてください。

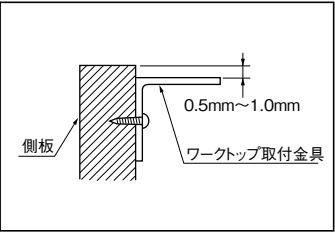
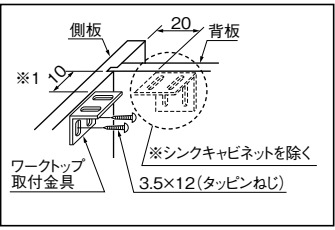
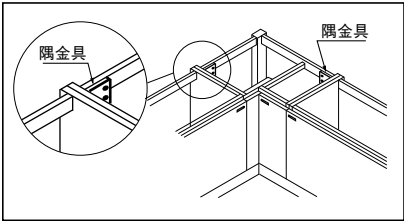
※配管スペース対応のキャビネット（キャビネット奥行き525㎜）の場合は、建築側壁面に設置してください。

オプションのIHヒーター専用仕切板（オプション）を使用する場合もコンセントは側板に取り付けてください。取付けについてはIHヒーター専用仕切板に同梱の取付・設置説明書に従って正しく取り付けてください。

7-E.引出しキャッチ機構付きキャビネットの場合

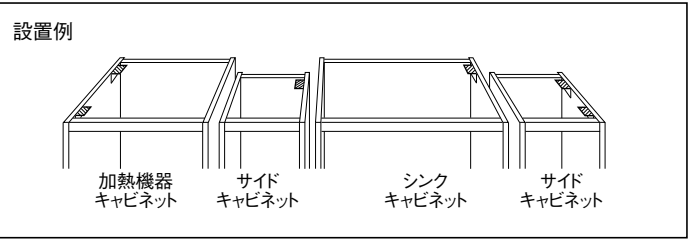
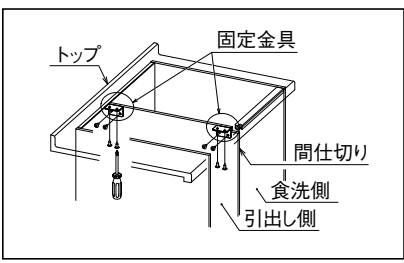
引出しを外し、側板および間仕切りの内側に埋め込まれている引出しキャッチ機構に貼り付けてあるテープをはがしてください。（左右両側） はがさないと引出しキャッチ機構として動作しません。

⚠注意 キャビネットの水平度がきちんとでているか確認する。キャビネットが傾いて設置されると、引出しキャッチ機構が正常に動作しない場合があります。

※図は右勝手の場合を示す

8 ワークトップの取付け

8-1.ワークトップ固定用金具の取付け

ワークトップに同梱のワークトップ取付金具を図の位置に固定してください。

※1:ワークトップ裏面に裏打ち材がない場合は、金具の位置を裏打ち材がある位置にずらして調整してください。
また、フロント水栓カバーを設置する場合は、この寸法を50mmとしてください。

コーナーキャビネットはキャビネットに取り付けてある隅金具からワークトップに固定します。

間口750以上の食洗キャビネットは右図のようにキャビネットに同梱の固定金具を間仕切りの引出し側前後2カ所（ワークトップ裏面に裏打ち材がある位置）にトラスタッピンねじ3.5×12で取り付け、トップと固定してください。

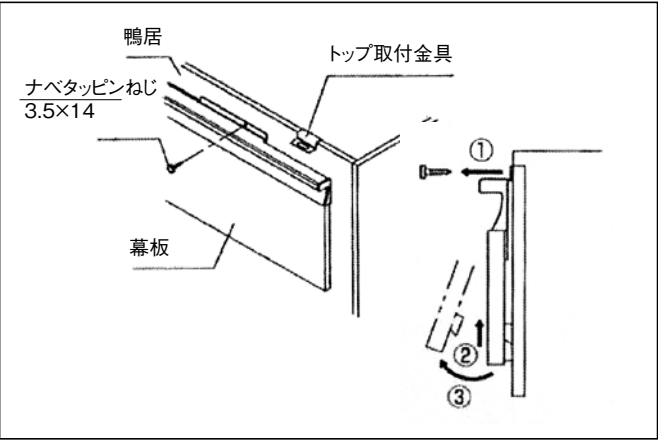
設置例

⚠注意

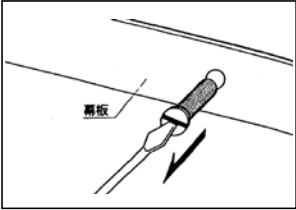
- ステンレス製ワークトップやシンクを取り扱うときには、必ず保護手袋をする。切断面に触るとケガをするおそれがあります。
- スイングポケットがある場合は、キャビネットにスイングポケットを取り付けてからワークトップの取付けを行う。
- ハンディボックスがある場合は、ワークトップの取付けを行ってからハンディボックスを取り付けてください。

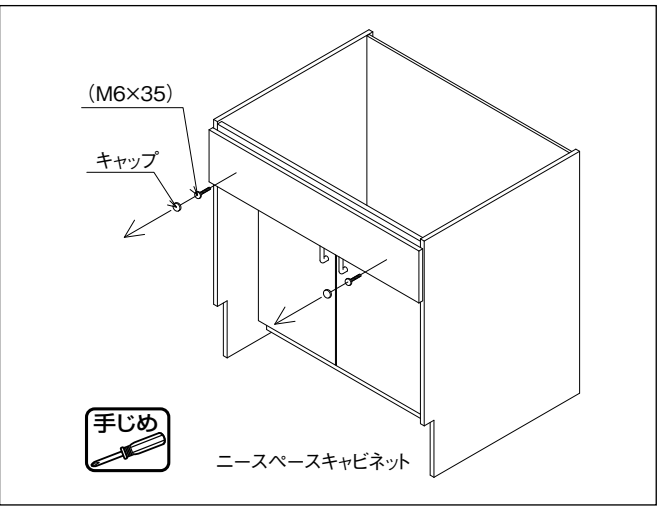
8-2.ワークトップ取付けの準備

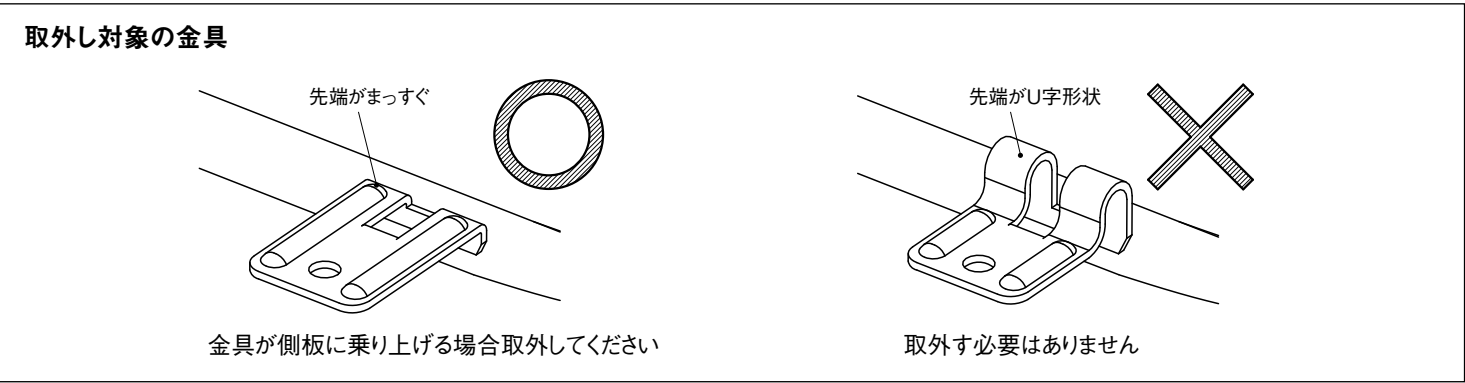
●シンクキャビネットが引出しタイプの場合

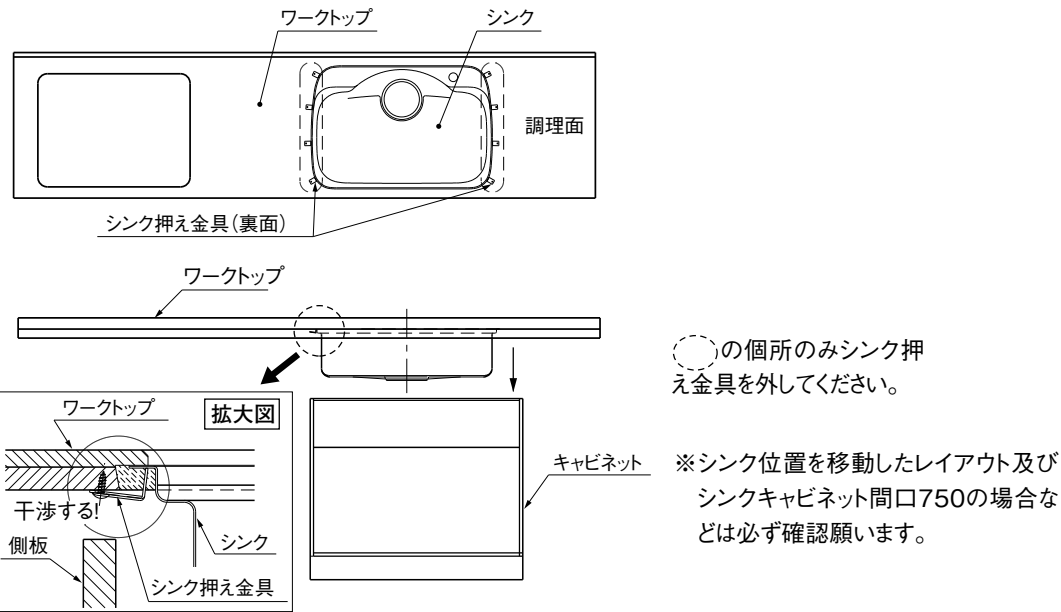
●シンクキャビネットには、あらかじめ幕板が鴨居に固定されています。
トップを据付ける前に、必ず取り外してください。
①幕板を固定しているねじを外します。
②③幕板を持ち上げながら下側を手前に引き、取り外します。
※トップ取り付け終了後、逆の手順で幕板を取り付けてください。

⚠注意
- 幕板を取り付ける時は、プラスドライバー（手回し）を使用する。
- 幕板やトップ面に傷を付けないよう注意する。

●シンクキャビネットがニースペースキャビネットの場合

①ニースペースキャビネットにはあらかじめ幕板が鴨居に固定されています。ワークトップを取り付る前に必ず取り外してください。
②マイナスドライバーで幕板を固定しているボルトM6×35　2本を取り外します。
取り外したねじは大切に保管してください。

※ニースペースサポートの取付けについてはサポートバーに同梱の取扱説明書をご覧ください。

⚠注意
- ねじを取り外した際に幕板が落下しないように注意する。
- 幕板を取り付ける時は、マイナスドライバー（手回し）を使用する。

●シンク押え金具の取外し

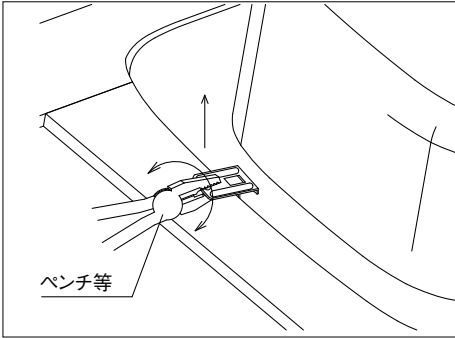
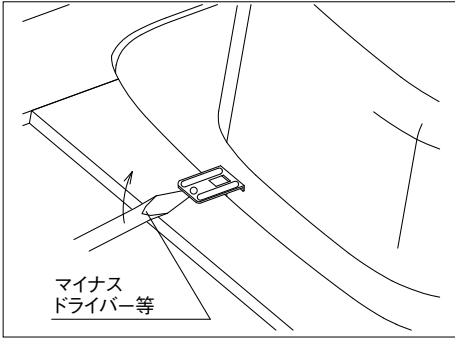
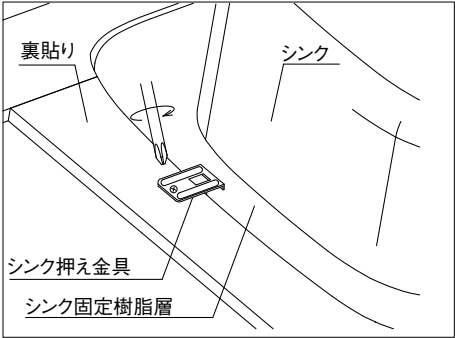
ワークトップをキャビネットに設置する際、キャビネットの側板にシンク押え金具が乗り上げないことを確認してください。
（乗り上げてしまうとトップが浮いてしまい正常な設置ができません）

⚠注意 キャビネット内よりシンク押え金具が乗り上げていないことを確認する。

⚠注意 シンク押え金具は丁寧に取り外し、シンク固定樹脂層を破損しないようにする。

※金具は生産工程上のシンク固定樹脂層の硬化養生作業時に使用する為のものであり、お客様の使用勝手には影響はありません。

■取外し方法

①シンク押え金具を止めている固定ねじを外します。

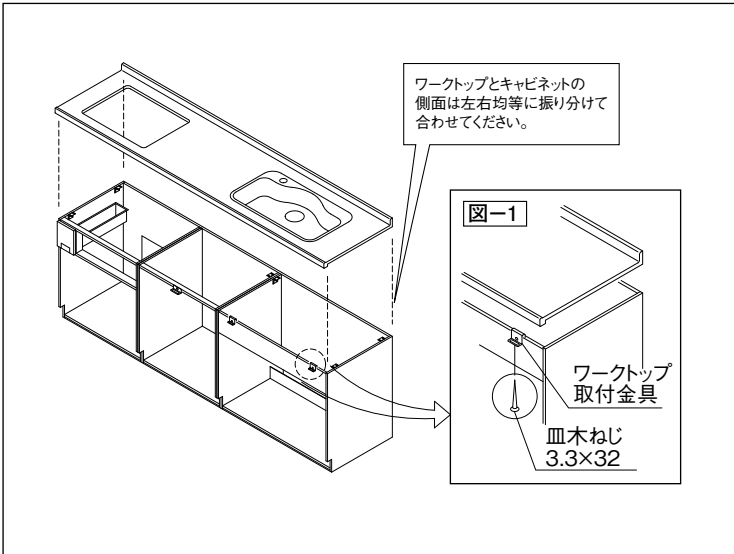
②マイナスドライバー等を差し込み、シンク押え金具を少し引き起こしてください。

③ペンチ等でシンク押え金具をトップと平行にしたまま、左右にこじりながら引き抜いてください。

8-3.ワークトップ前面の取付け

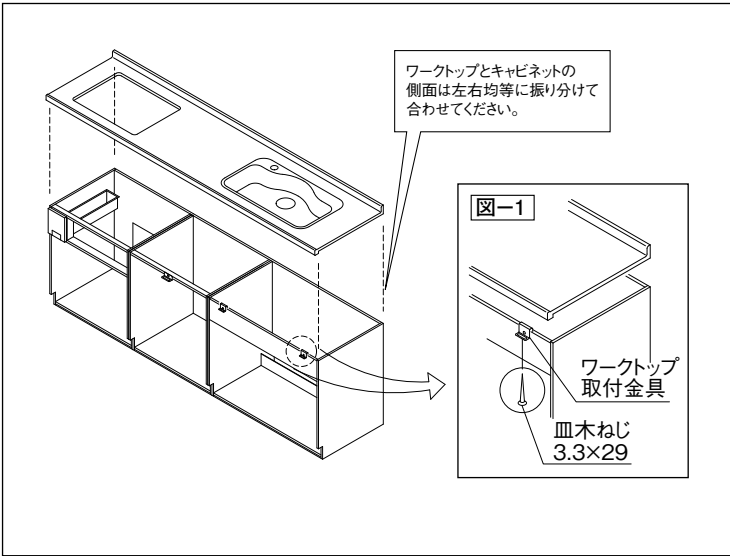
●ステンレストップ、人造大理石トップの場合

ワークトップとキャビネットの固定は、キャビネット前面下部より付属のねじで固定します。（図-1）
ワークトップとキャビネット側面は左右均等に振り分けて合わせて設置してください。

●L型ワークトップの場合

ワークトップの片側をキャビネットに固定し、前面に合わせて設置してください。連結終了後、もう一方のキャビネットを固定してください。

⚠注意 スライドパレット付キャビネットとトップを固定する際には、一度スライドパレットを外さないと固定できません。
外し方は「調整方法」をご覧になり、正しく取付・設置を行ってください。

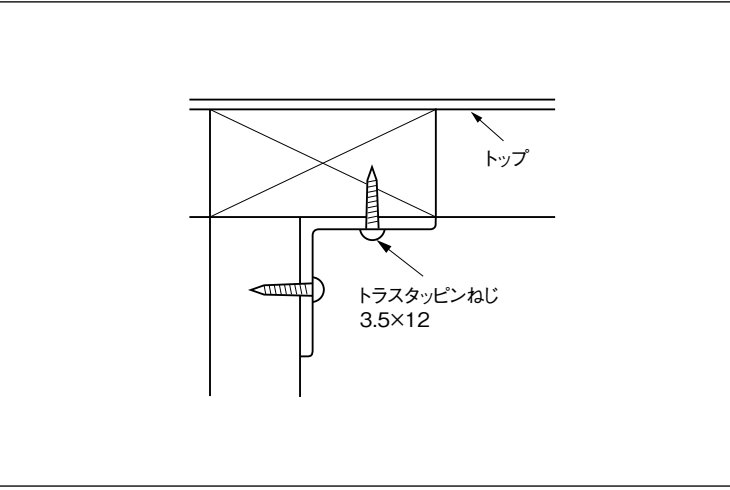
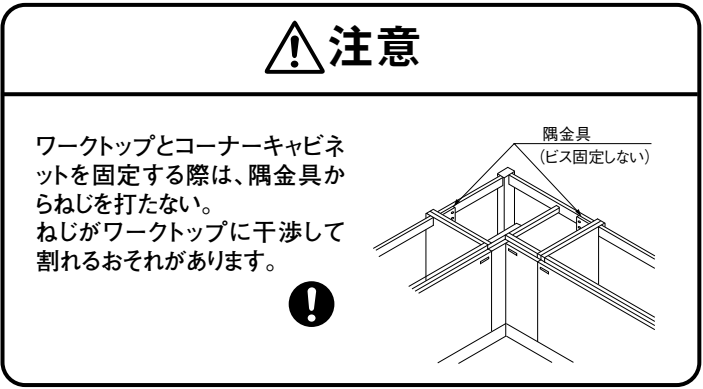
●コーリアン人造大理石の場合

ワークトップとキャビネットの固定は、キャビネット前面下部より固定します（図-1）。ワークトップとキャビネット側面は左右均等に振り分けて合わせて設置してください。

8-4.トップ後面の固定

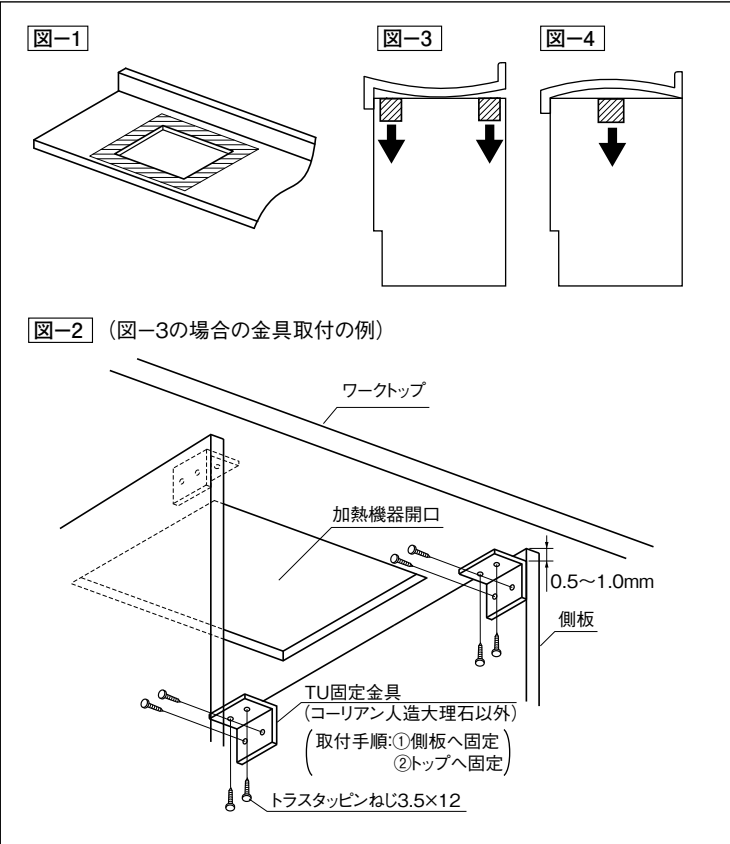
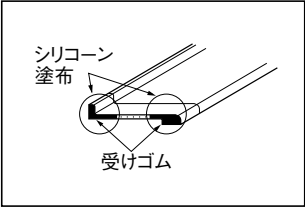
下図を参照し、8-1で取り付けたワークトップ取付金具で固定してください。

⚠注意

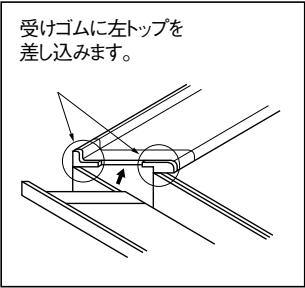
ワークトップとコーナーキャビネットを固定する際は、隅金具からねじを打たない。
ねじがワークトップに干渉して割れるおそれがあります。

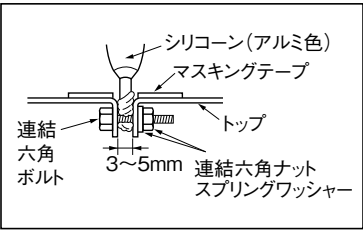
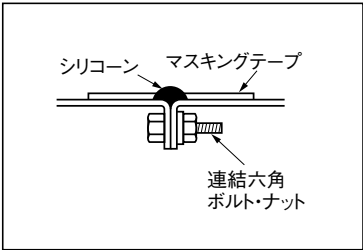
隅金具
（ビス固定しない）

●水漏れを防止するためトップをのせた後、加熱機器開口まわり（図-1斜線部）の反りが1mm以内であるかご確認ください。

●1mmを越える反りがある場合
〈人造大理石の場合〉
トップ同梱のTU固定金具を図-2のように取り付けて反りを矯正してください。TU固定金具を取り付ける際、トップ裏側に裏打ち材がない場合は木片等（厚さ:ステンレストップの場合20mm、人大トップの場合15mm）を貼り付けてください。

●反り凹凸の調整
・凹方向の反りの場合
TU固定金具で両サイドを引張り調整します。（図-3）
・凸方向の反りの場合
TU固定金具で中央部を引張り調整します。（図-4）

9 L型ワークトップの連結と研磨手順

ステンレストップ、人造大理石トップとコーリアン人造大理石トップでは、連結と研磨手順が異なりますので注意してください。

9-1.ステンレストップの連結

1.連結前の準備

①前・後の受けゴムに付属のシリコーン（アルミ色）を塗布してトップの前框とバックガードに差し込み、コーナーの位置合わせをしてください。

②右トップ前・後にある受けゴム部へ左トップの前框とバックガードを差し込むようにして右トップに引き寄せます。

2.連結／接着

①キャビネット内部よりトップ連結穴に付属の連結ボルトを通します。隙間が3～5mm程度になるまで仮締付けして、マスキングテープを貼り付けた後切れ目なく均等にシリコーンを充てんしてください。

②両方のトップのレベル調整をしながら、連結六角ボルト・ナットを締め込んでください。このときシリコーンが盛上がりますがそのままにしておきます。
③ヘラでシリコーンを除去した後マスキングテープをはがしてください。

硬化時間

シリコーン（ステンレストップ）	24～48時間

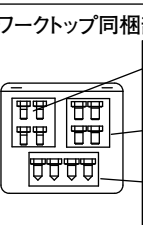
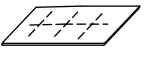
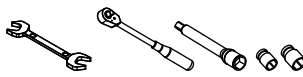
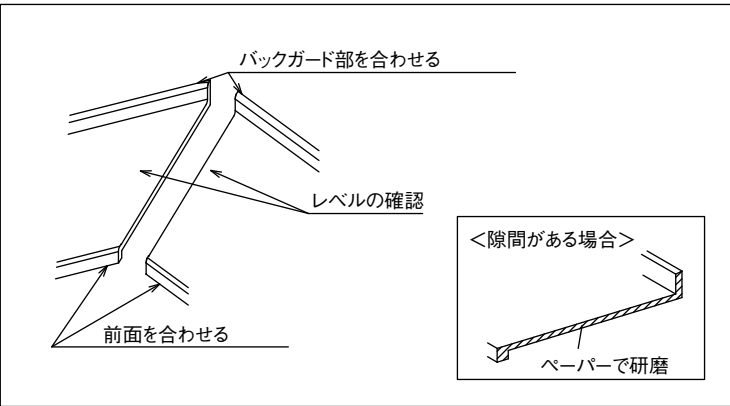
⚠注意 取付け・仕上げ工事に使われる、溶剤、接着剤、洗剤、その他薬品類については、容器などに記載の注意表示に従って正しく使う。

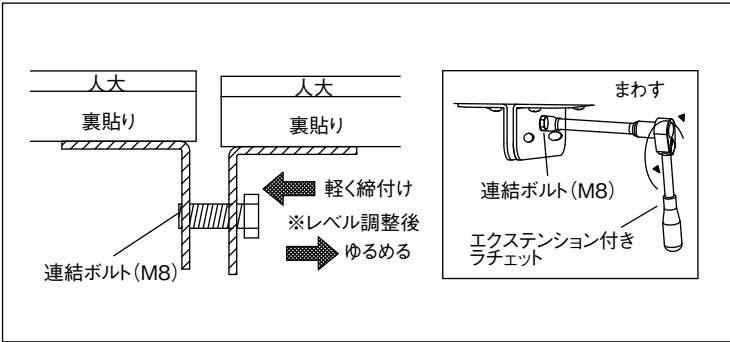
9-2.人造大理石トップの連結と研磨手順

◆作業を始める前に、必ずお読みになってください。

▼ワークトップを研磨する際は、必ずマスクを着用して作業を行ってください。
▼接合面のレベル調整が不十分である（段差が大きい）と仕上げ時間を要しますので、注意してください。また、接合面に研磨によるへこみが発生します。
▼冬場の作業で硬化時間を短縮させる時は、ワークトップ自体を暖めるよりも、接着剤（主剤）自体を暖める（30～40℃）方が効果的です。
▼ワークトップのバックガード・前見付けの入隅部は研磨し難いため、極力研磨しないよう配慮をしてください。
▼ワークトップの研磨の仕上げは、入念に確認してください。
▼ランダムアクションサンダーを使用する場合はハイピッチペーパーをご使用ください。
▼接着剤セットに同梱されている研磨手順は参照しないでください。
▼バリアコート人造大理石トップの接合の研磨の後は別紙説明書によりバリアコート処理を行ってください。

■部材の確認

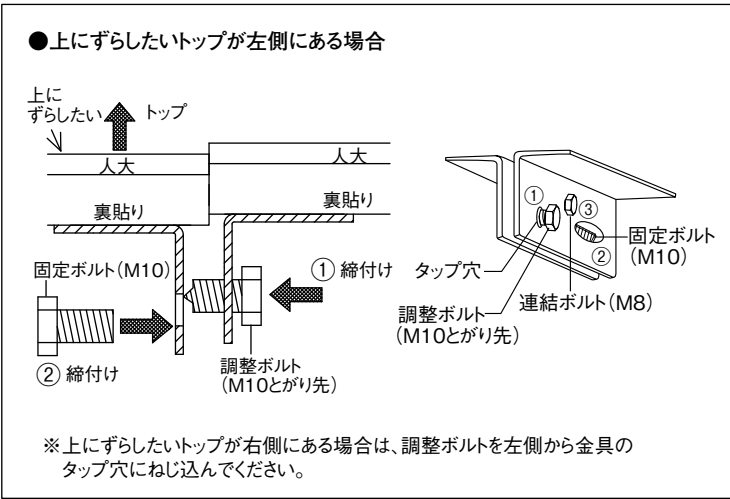
下図のセット部材が同梱されているか、数量および接着剤カラーが合っているかを確認してください。
L接連結ボルトは、ワークトップに同梱されています。

円滑に作業を行うために、下図のものをご用意してください。

1.接合面の確認および処理

①キャビネット上にワークトップ（以下、トップ）を仮置きしてから、正規の取付位置で接合面の試し合わせをしてください。
②接合面に隙間がある場合は、接合面を♯120のブルーバックペーパーで研磨してください。
③研磨後は、接合面および接合面周辺をアルコールできれいに取り除いてください。

2.トップの平面部の段差確認

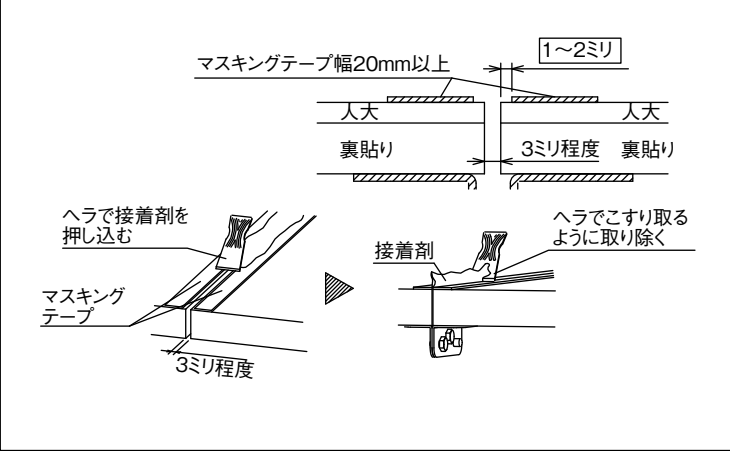
①トップの片側をキャビネットに仮留めし、前面を合わせて正規の位置に設置してください。
②同梱の連結ボルト（M8）を金具中央のタップ穴にねじ込み、トップ接合面が当たるまで軽く締めてください。
③トップ平面部の段差の有無を確認してください。

	ソケットサイズ
連結ボルトM8	12
調整ボルトM10	14
固定ボルトM10	

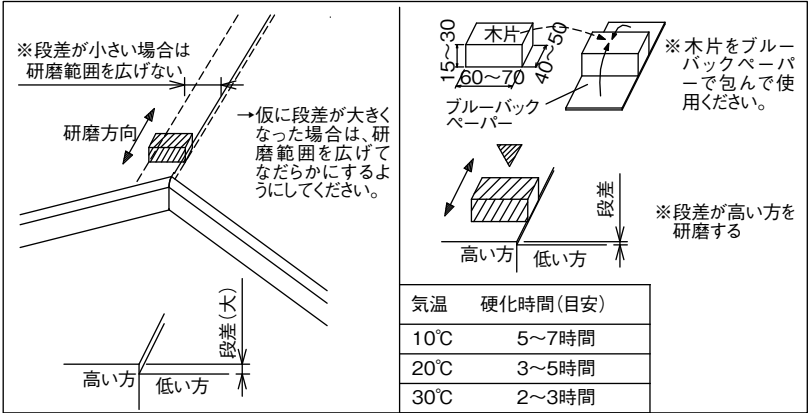
3.接合面のレベル調整

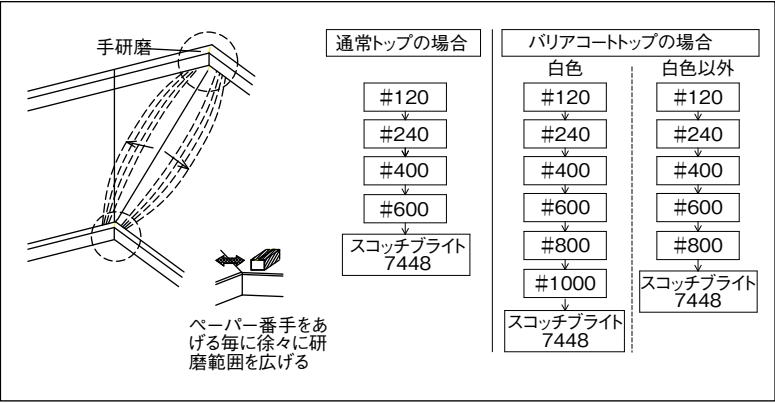
①トップのレベルが合っていない場合は、同梱の調整ボルト（M10とがり先）を上にずらしたいトップ側に向けて、タップ穴側からねじ込みます。調整手順は手前→奥→中央手前→中央奥の順にレベル調整をしてください。
②レベルが合った後に反対側から固定ボルト（M10）をタップ穴側からねじ込み、金具に突き当たるまで締めてください。
③連結ボルト（M8）をゆるめ、約3ミリの隙間（接着剤塗布用）をあけてください。
④トップ接合面付近をプライマーで汚れをきれいに落としてください。

注意 接合面のレベル調整が不十分（段差が大きい）であると、仕上げ時間を要しますので、接合面は極力段差をなく調整してください。

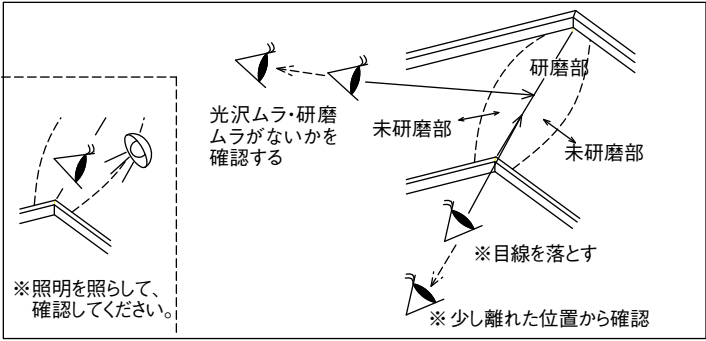
4.接合面の接着（接着剤塗布）

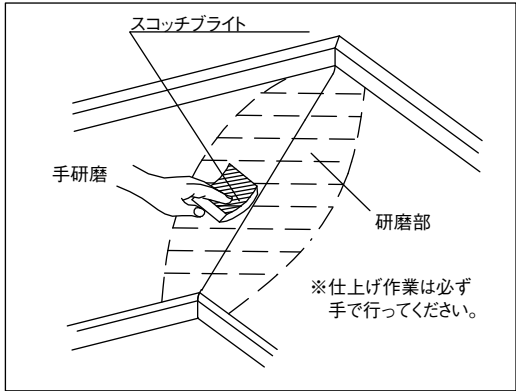
①接合面から片側1～2ミリ離して幅広のマスキングテープを貼ってください。
②接着剤の垂れ防止のため、ガムテープをトップの裏面に貼ってください。
③接着剤（主剤）をパレットに取り出し、硬化剤の容器側面に記載されている量（季節により変化）を滴下し、よくかくはんしてください。
④ヘラで、接合部分に隙間なく接着剤を押し込んでください。
⑤連結ボルト（M8）を締め付け、レベルを確認した上で、余分な接着剤をヘラで取り除いてください。
⑥前框とバックガードはコーキングヘラで取り除いてください。
⑦接着剤が硬化する前にマスキングテープを取り除いてください。
⑧接着剤が硬化した後にガムテープを取り除いてください。

5.硬化した接着剤の除去

①左表の硬化時間を目安として、接着剤をツメの先で押してください。ツメ跡が残らなければ、硬化しています。
②接着剤の除去、接合面の段差を平滑にするために、当て木に＃120のブルーバックペーパーを包んで研磨してください。
③段差の高い方を研磨し、接合面が平滑になるようにしてください。
※但し、段差が大きい場合は局所的に研磨しますと、不陸（凹凸）が出るおそれがあります。
④手で触って接合面に不陸（凹凸）がないかを確認してください。

気温	硬化時間（目安）
10℃	5～7時間
20℃	3～5時間
30℃	2～3時間

6.研磨手順

①接合面が平滑になったら、同梱のブルーバックペーパーで研磨してください。通常トップまたは、バリアコートトップの白色または白以外でブルーバックペーパーの番手種類が異なります。使用する番手と順番をよく確認いただき研磨をしてください。
②研磨範囲は、必ず前のペーパーよりも少し広い範囲で研磨し、前のペーパー傷が残らないように注意してください。
※同じ個所を集中的に研磨したり、前のペーパー傷をきちんと落としていないと研磨・光沢ムラになります。
③バックガードおよび前框入隅付近は必ず手研磨（木片）してください。
④最後に研磨部全体をスコッチブライト7448で仕上げてください。

7.研磨仕上げの確認

①接合部の研磨終了後、水またはアルコールを含ませたきれいな布でトップ全体を拭いてください。
②仕上りの確認は、目線を落としたり、少し離れた所から見たり、照明を使うなど様々な角度から見て確認してください。
③研磨部と未研磨部の境目が目立つ場合は「8」の手順で境目のぼかし作業を行ってください。
※特に、キッチン前面に出窓など光が入るレイアウト時には注意してください。

8.研磨・未研磨部境目の仕上げ方

★仕上げ方のポイント
研磨部と未研磨部を仕上げる場合は、同梱のスコッチブライト7448で研磨部を全体的に手研磨でざらざら感がなくなるまで手研磨で仕上げてください。仕上げ作業が完了したら「7.」と同様に清掃および仕上り確認をしてください。

9.バリアコート人造大理石の表面処理（仕上げ）の仕方

人造大理石トップの連結と研磨作業後、バリアコートタイプはバリアコート処理作業を行います。
別紙説明書を参照し、正しく作業してください。

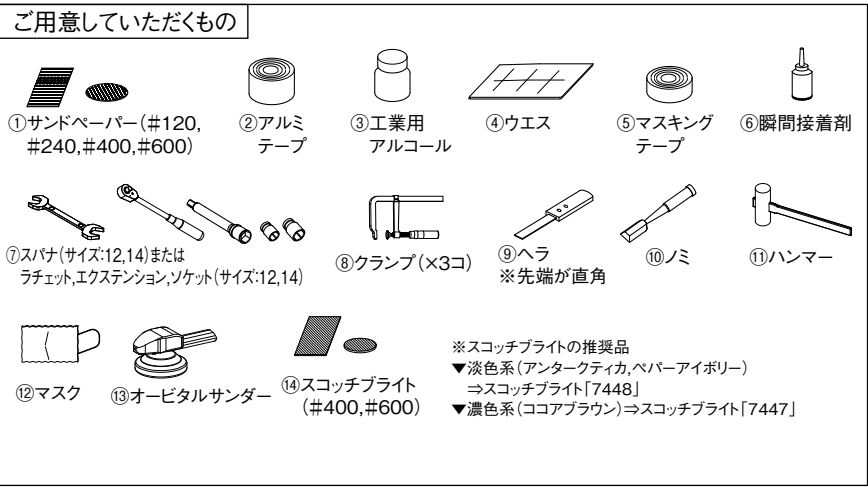
9-3.コーリアン人造大理石の連結と研磨手順

接合の仕方とポイント

◆作業を始める前に、必ずお読みになってください。
▼ホコリ・汚れを落とす際には、シンナーは絶対に使用しないでください。
▼ワークトップとコーナーキャビネットを固定する際は、隅金具からねじを打たないでください。ねじが人大に干渉し、クラックが入るおそれがあります。固定には必ずワークトップに同梱されている合板付L金具を使用してください。
▼冬場の作業で、ドライヤーや投光器で接着面を暖め硬化時間を短縮することができますが、局部的に暖めると接着部がはがれてくることがあります。暖める際には全体的に均一に暖めてください。
▼ワークトップを研磨する際は、必ずマスクを着用してください。
▼ワークトップのバックガード・前見付けの入隅部は、研磨粉が隙間に入って白く見えるおそれがあるため、極力研磨しないよう配慮をしてください。
▼研磨の最終仕上げで使用するスコッチブライトの扱いに注意してください。特に、濃色系（ココアブラウン）は、スコッチブライトで研磨し過ぎると光沢が出過ぎますので、まわりの光沢と合わせるように仕上げてください。
▼ワークトップの研磨の仕上げは、入念に確認してください。なお、ワークトップに指紋や油膜が付きやすいため、養生する前にアルコールを含ませたきれいな布で拭き取ってください。
▼ワークトップを養生する際はテープののりの跡が付きますので、粘着テープ（養生テープなど）をじかにワークトップに貼らないでください。

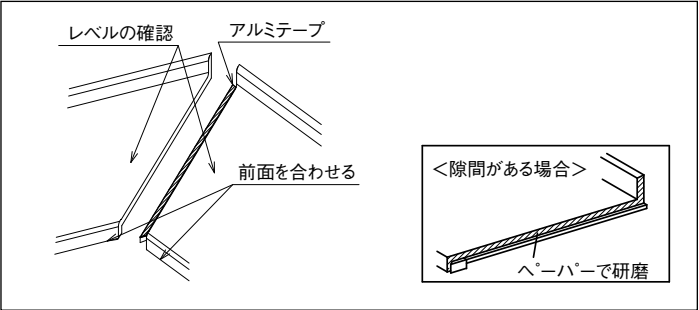
■部材の確認

下図のセット部材が同梱されているか、数量および接着剤カラーが合っているかを確認してください。

円滑に作業を行うために、下図のものをご用意してください。
なお、シーム接着剤用のガンがないとシーム接着剤を注入することができませんので、注意してください。

※注意事項は、各手順の下側に記載してありますので、記載内容に注意して作業を進めてください。

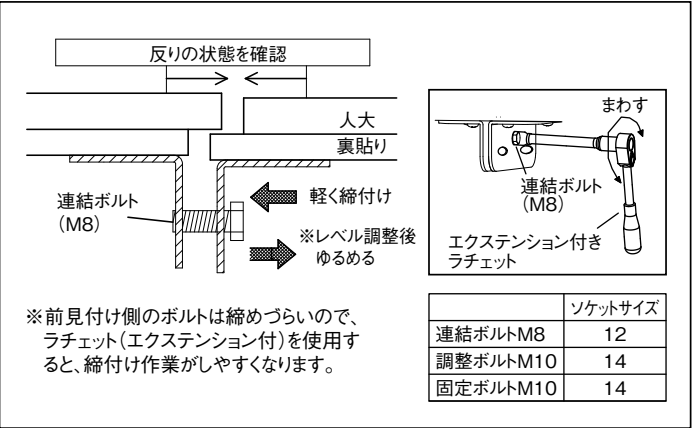
シンクキャビネットに同梱されている取扱説明書は、お客さまにお渡しする大切な書類です。
紛失や汚れが生じないように大切に保管し、設置完了後またはお引渡し時にお客さまにお渡しください。

1.接合面の確認および処理

①キャビネット上にワークトップを仮置きしてから、正規の位置で接合面の試し合わせをしてください。
②隙間がある場合は、接合面に＃120のサンドペーパーを掛け、隙間がないようにしてください。
③研磨後は、ホコリを工業用アルコール（シンナー不可）を含ませたウエスできれいに取り除いてください。
④突き出された裏貼り材（12ミリ）にアルミテープを貼ってください。

ホコリをきれいに取り除かなかったり、アルミテープを貼らないとシーム接着剤を注入した際にホコリが表面に吸い上げられ、接着面に不具合が生じますので注意してください。

2.ワークトップの反りの状態確認

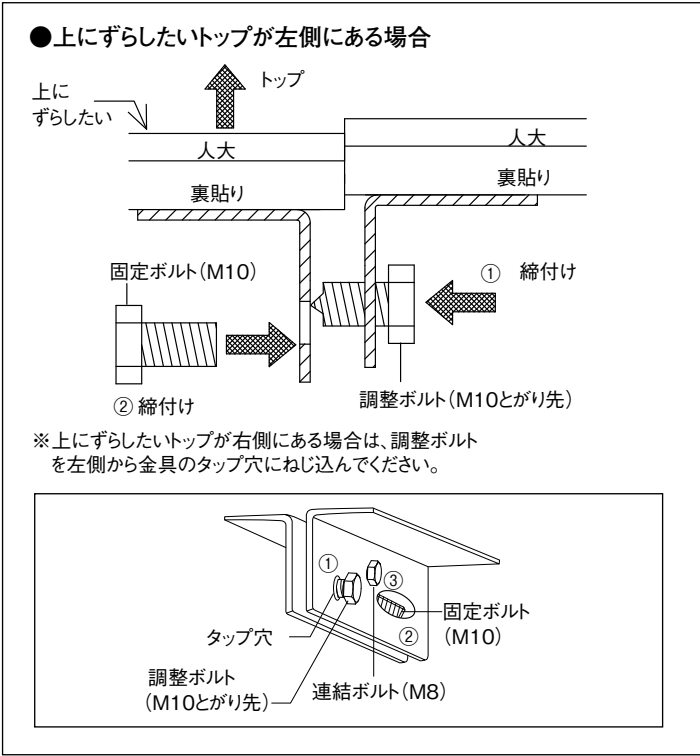
①ワークトップの片側をキャビネットに仮留めし（合板付きL金具）、前面を合わせて正規の位置に設置してください。
②同梱の連結ボルト（M8）を金具中央のタップ穴にねじ込み、ワークトップ接合面が当たるまで軽く締めてください。
③ワークトップ平面部の段差の有無を確認してください。

	ソケットサイズ
連結ボルトM8	12
調整ボルトM10	14
固定ボルトM10	14

連結ボルトを締め過ぎるとワークトップのずらしができませんので注意してください。

3.接合面のレベル調整

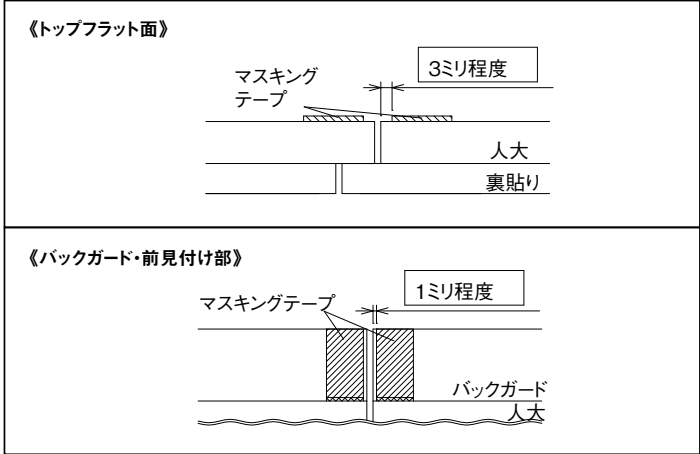
①ワークトップのレベルが合っていない場合は、同梱の調整ボルト（M10とがり先）を上にずらしたいワークトップ側に向けてタップ穴側からねじ込みます。調整手順は、手前→奥→中央手前→中央奥の順にレベル調整をしてください。

②レベルが合った後に反対側から固定ボルト（M10）をタップ穴側からねじ込み、金具に突き当るまで締めてください。

③連結ボルト（M8）をゆるめ、接合面同士に3ミリ程度の隙間（シーム接着剤塗布用）をあけてください。

レベル調整が不十分である（接合面の段差が大きい）と仕上げに時間を要しますので、レベル調整は細心の注意を払って作業してください。調整ボルトを必要としない場合でも、ボルトは取り付けてください。

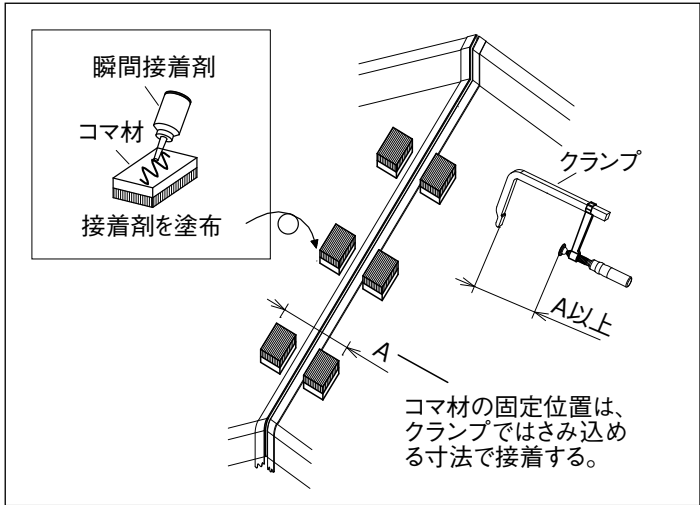
4.マスキングの貼り方

①ワークトップ接合面付近を工業用アルコール（シンナー不可）を含ませたウエスで手あかなどをきれいにして落としてください。

②トップ接合面に合わせてマスキングテープを貼ってください。貼付位置に関しては、『ワークトップのフラット面は接合面から片側3ミリ程度』で、『バックガードおよび前見付け部は接合面から片側1ミリ程度』離してください。

バックガードおよび前見付け部は研磨しづらいため、研磨しろを小さくします。マスキングテープの貼付間隔が1ミリ程度になるように注意してください。

5.接合面の上部締付コマ材の接着

①まず、お持ちのクランプの寸法（A）を確認してください。はさみ込みが可能な寸法を把握したうえで、コマ材の設置位置を決めます。また、奥行方向は手前,中央,奥の3点でコマ材を仮置きしてください。

②位置が決まったら、コマ材の共材面（人大面）に瞬間接着剤を塗布し1分程度ワークトップに押し付けて固定をしてください。

コマ材の設置位置に関して、奥側はクランプの把手とバックガードが干渉するおそれがあるため、仮置き段階で必ず確認をしてください。コマ材は共材面と木面がありますが、必ず共材面に瞬間接着剤を塗布して、ワークトップ面と接着してください。

6.シーム接着剤の注入

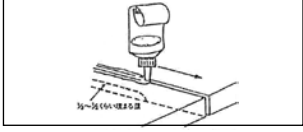
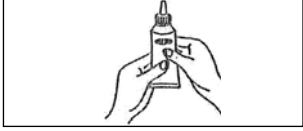
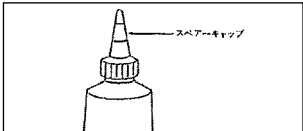
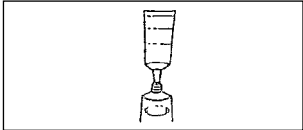
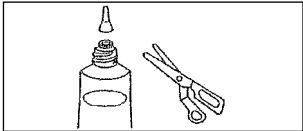
①硬化剤（透明チューブ:B液）先端を切断してください。

②主剤（白チューブ:A液）をB液チューブに全て注入してください。

③B液チューブの中の空気を出し、同封のスペアーキャップをしっかり装着してください。

④チューブを上向きにして5分間指先でよく揉んで十分に混合する。

⑤スペアーキャップの先端を水平に切り必ず少量の液をいらないビニールの上などに捨ててください。

⑥すき間にチューブを垂直にして均等に接着剤を流し込んでください。

シーム接着剤の硬化時間の目安は右表にて確認してください。シーム接着剤が、硬化終了するまでは盛り上がりを除去しないようにしてください。

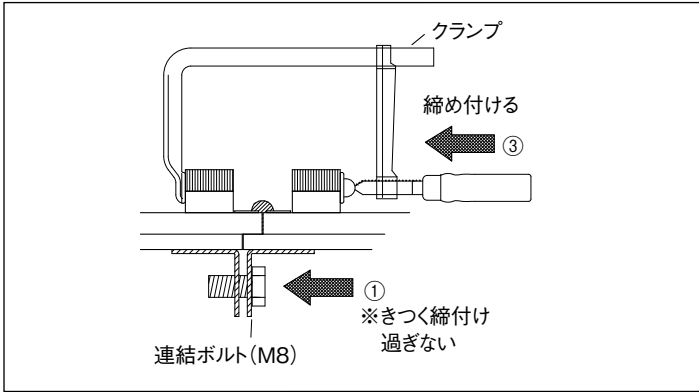
気温	硬化時間（目安）
0℃	180分
10℃	75分
23℃	45分
37℃	15分

7.接合面の圧着

①シーム接着剤を注入後、連結ボルト（M8）を軽く締め付けてください。

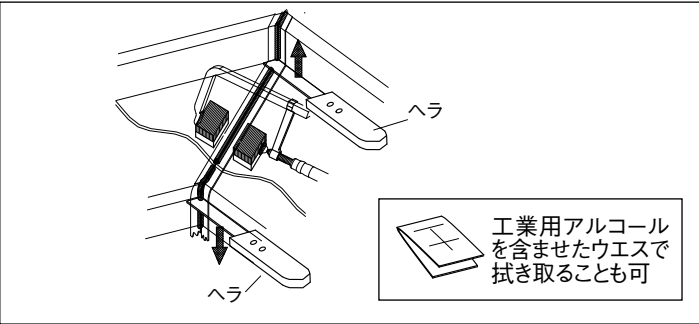
②レベルが合っているか再度確認し、合っていない場合は調整ボルト（M10とがり先）にて微調整を行ってください。

③コマ材をクランプではさみ込み、締め付けてください。強く締め過ぎますと、コマ材が外れてしまうおそれがあります。

④クランプは完全にシーム接着剤が硬化するまで外さないでください。

下の連結ボルトを締め付け過ぎますと、ワークトップ面の上部圧着が不十分となり、接合面のシーム接着剤跡が目立つことになりますので注意してください。また、締め過ぎは調整ボルト（M10）の位置がずれるため、トップに段差ができますので注意してください。

8.接合面の圧着

①バックガードと前見付けの入り隅に盛り上がったシーム接着剤をヘラ（先が直角）あるいは工業用アルコールを含ませたウエスで取り除いてください。

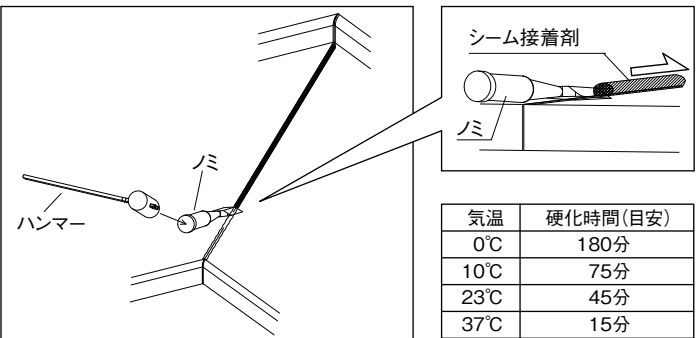
②接着剤が硬化する前に、マスキングテープを取り除いてください。

硬化する際に、シーム接着剤がやせます。そのため、バックガードと前見付け部のシーム接着剤を除去する際に取り過ぎないように注意してください。

9.硬化したシーム接着剤の除去

①硬化時間を見計らって、シーム接着剤をツメの先で押してください。ツメ跡が残らなければ、硬化しています。

②クランプを外し、コマ材をハンマーで取り外してください。

③硬化したシーム接着剤をノミとハンマーを用いて荒削りをしてください。削る際は他の部分に傷を付けないように細心の注意を払ってください。

気温	硬化時間（目安）
0℃	180分
10℃	75分
23℃	45分
37℃	15分

シーム接着剤の硬化時間の目安は右表にて確認してください。シーム接着剤が、硬化終了するまでは盛り上がりを除去しないようにしてください。

10.研磨手順,使用部材および研磨のポイント

①目の粗いサンドペーパー#120でシーム接着剤の削り残しやコマ材固定用の接着剤を落として、段差や傷などを無くすようにしてください。

②順次、目の細かいサンドペーパー（#240→#400）で研磨してください。

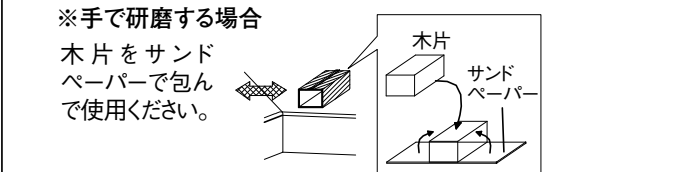
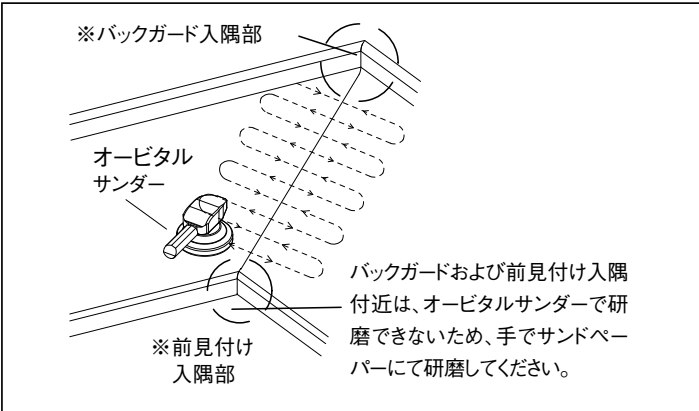
③淡色系（アンタークティカ、ペパーアイボリー、ライスペーパー）は、さらに目の細かいペーパー（#600）で研磨し、光沢を見ながらスコッチブライト7448で仕上げてください。濃色系（ココアブラウン）は、光沢を見ながらスコッチブライト7448で仕上げてください。

＜研磨のポイント＞

▼オービタルサンダーを使用して研磨する場合

#120で段差を無くした後は、上図の軌道で一定速度にて研磨してください。同じ個所ばかり研磨したり、前のサンドペーパーの研磨傷をきちんと落としていないと研磨ムラや光沢ムラになりますので注意してください。オービタルサンダーで研磨できない個所は、手でサンドペーパーにて研磨してください。

▼手で研磨する場合

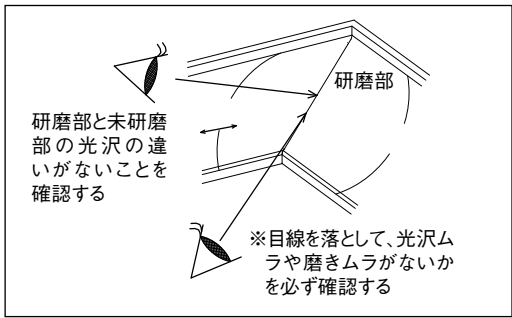
均一に研磨するために、サンドペーパーに木片を包み込んで使用してください。#120で段差をなくした後は、同一方向に一定速度にて研磨してください。ペーパー付き木片で研磨できない個所は、サンドペーパーのみで研磨してください。

▼天板カラーによって研磨方法が異なりますので注意してください。
▼スコッチブライトで研磨し過ぎますと、光沢が出過ぎるおそれがありますので研磨時間に注意してください。
▼研磨部に光沢がない、あるいは研磨傷が目立つ場合は、状況に応じてさらに目の細かいサンドペーパーで研磨してください。
▼研磨する方向を一定速度・方向で行わないと、研磨傷が目立ちやすくなりますので注意してください。

11.天板接合の完了

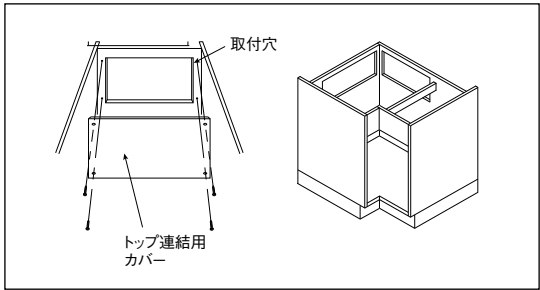
①接合部の研磨終了後、水またはアルコールを含ませたきれいな布でワークトップ全体を拭いてください。
②仕上りの確認は目線を落とし、磨きムラや光沢ムラがないかを必ず確認してください。暗い場所では、蛍光灯照明で照らして確認してください。

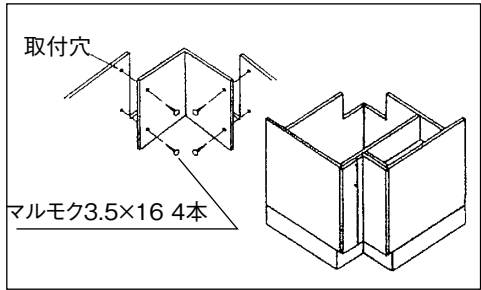
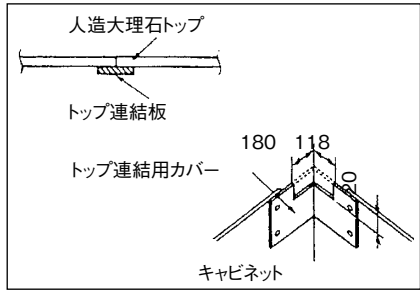
天板を養生する際はテープののりの跡が付きますので、粘着テープをじかにワークトップに貼らないでください。コーリアントップに同梱されている注意チラシは、養生材の上に最後に貼り付けてください。

【補修方法】→光沢ムラ,磨きムラ,スリ傷がある場合
1つ前のサンドペーパー(#400で研磨していれば、#240に戻る)で再度ムラや傷がある個所を研磨してください。その後の仕上げ方法は、研磨手順と同様に行ってください。

研磨部と未研磨部の光沢の違いがないことを確認する
研磨部
※目線を落として、光沢ムラや磨きムラがないかを必ず確認する

9-4.ワークトップ連結用カバーの取付け

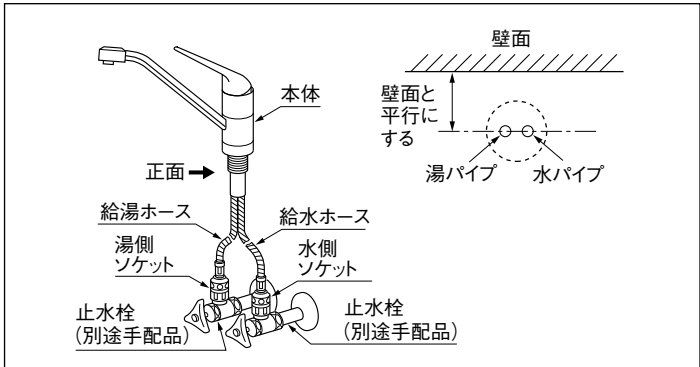
●ワークトップ連結用カバーの取付け(開き扉タイプ)

トップ連結が完了した後で、図のようにコーナーキャビネットの取付穴に合わせて、トップ連結用カバーをねじ4本で固定してください。
※トップ連結用カバーは、コーナーキャビネットの背板に固定されています。

●ワークトップ連結用カバーの取付け(引出しタイプ)

トップ連結が完了した後で、図のようにコーナーキャビネットの取付穴に合わせて、トップ連結用カバーをねじ4本で固定してください。
※トップ連結用カバーは、コーナーキャビネットの背板に固定されています。

注)人造大理石トップの場合はトップ連結板の大きさの分だけ、トップ連結カバーをハサミまたはカッターで切り欠いて取り付けてください。

10 水栓金具・浄水機能付水栓の取付け

●水栓には1次配管と接続するためのソケットが同梱されていますので、紛失しないようにご注意ください。

注意 水栓金具・浄水器の取付けは必ず取付・設置説明書および製品本体の表示事項を守り正しく設置する。 管工事 キッチン取付・設置

注意 くるりん排水口の設定がある場合、水栓のシャワーホースはくるりん排水口の設置時に接続して下さい。詳細はくるりん排水口に同梱の取付設置説明書をご確認ください。 キッチン取付・設置

11 排水部品の取付け

11-1.給水・給湯位置の確認

ワークユニット高さ	A	B
800	800	370
825	825	395
850	850	420
875	875	445
900	900	470

※ラウンド68シンクの場合は、現行の高さと同じです。

⚠注意

必ず設置方法を守って取り付ける。取り付けを誤ると湯水が漏れ、損害が出るおそれがあります。

各部材のフクロナットの締付けは、工具を使用しない。工具を使用すると、フクロナットが割れ、漏水するおそれがあります。

シンク締込部および、各パッキン密着部は、ゴミ・ホコリ等を確実に取り除く。ゴミ・ホコリ等が残っているとパッキンが密着せず、漏水するおそれがあります。

11-2.ゴミ収納器付排水トラップの取付け

シンクの種類・排水口によって、トラップの形状・取付手順が異なります。
9ページに記載の排水セット部品と同梱されている排水部品を確認し、正しい手順で取り付けてください。

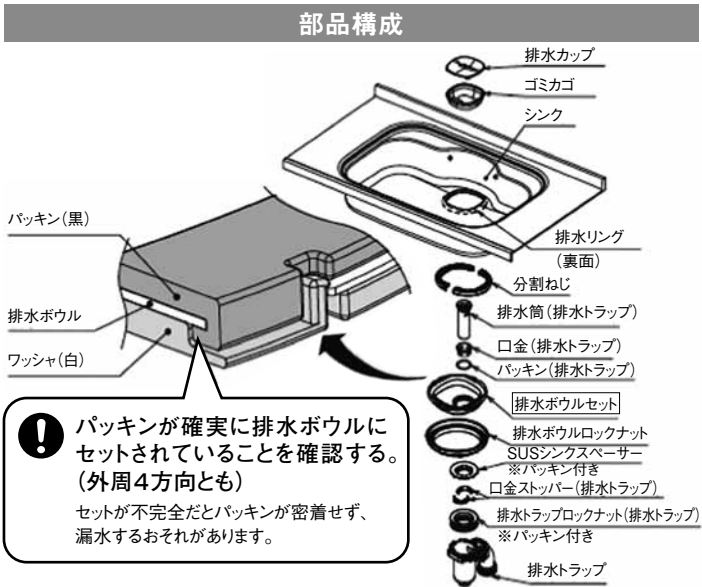
ラクリーンシンク用排水セット部品(ひろびろラクリーンシンク・ラクリーンコンパクトシンク含む)

●排水トラップ取付け準備

注意 シンク締込み部および、各パッキン密着部はゴミ・ホコリなどを確実に取り除く。
ゴミ・ホコリなどが残っているとパッキンが密着せず、漏水するおそれがあります。

部品構成

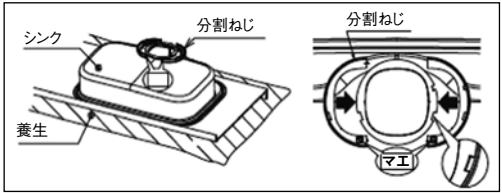
排水カップ
ゴミカゴ
シンク
パッキン(黒)
排水ボウル
ワッシャ(白)
排水リング(裏面)
分割ねじ
排水筒(排水トラップ)
口金(排水トラップ)
パッキン(排水トラップ)
排水ボウルセット
排水ボウルロックナット
SUSシンクスペーサー
※パッキン付き
口金ストッパー(排水トラップ)
排水トラップロックナット(排水トラップ)
※パッキン付き
排水トラップ

パッキンが確実に排水ボウルにセットされていることを確認する。(外周4方向とも)
セットが不完全だとパッキンが密着せず、漏水するおそれがあります。

取付手順

注意 キャビネットにトップを設置する前に取り付ける。
キャビネットに設置してから取り付けると、目視確認が出来ないため、取付けを間違えて、漏水するおそれがあります。

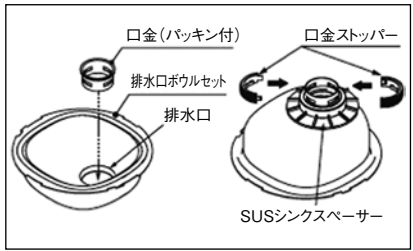
1. 養生と分割ねじの取付け

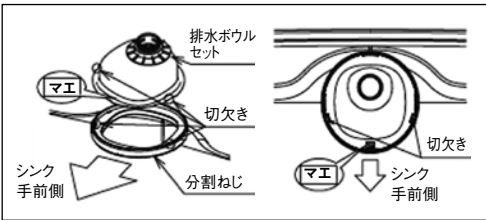
トップを裏返しにして、シンクに分割ねじをセットします。

シンク 分割ねじ 養生 分割ねじ マエ

2. 口金・SUSシンクスペーサー・口金ストッパーの取付け

口金(パッキン付)を排水ボウルセットの排水口部に落とし込みます。次に、SUSシンクスペーサーを口金に通します。口金ストッパーを口金の開口部に差し込みます。

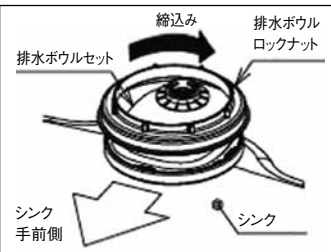
各部位のパッキンがよじれていないか、確実に取り付いていることを確認する。
漏水の原因になります。

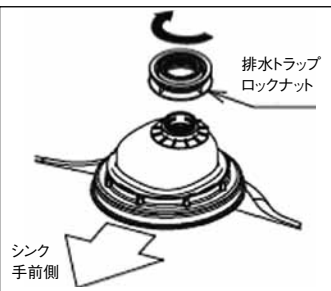
口金(パッキン付) 口金ストッパー 排水ボウルセット 排水口 SUSシンクスペーサー

3. 排水ボウルセットの取付け

排水ボウルセットの切欠き部を分割ねじと合わせてセットします。

●パッキン密着部は、ゴミ・ホコリなどを確実に取り除く。
●パッキンが確実に排水ボウルにセットされていることを確認する。

4. 排水ボウルロックナットの締込み

排水ボウルロックナットを手で固く締めた後、専用工具で増し締めを行い、排水ボウルセットをシンクに固定します。

締込み 排水ボウルロックナット 排水ボウルセット シンク手前側 シンク

5. 排水トラップロックナットの締込み

排水トラップロックナットを手で固く締め付けて固定します。

排水トラップロックナットの締め付けは口金を手で押さえながら手締めで確実に行ってください。
漏水の原因になります。

シンク手前側

6. 排水トラップの取付け

●くるりん排水口タイプ トラップ取付け

注意 くるりん排水口の取付けは、くるりん排水口に同梱の取付設置説明書を確認し、正しく取り付ける。

●てなし排水口タイプ トラップ取付け

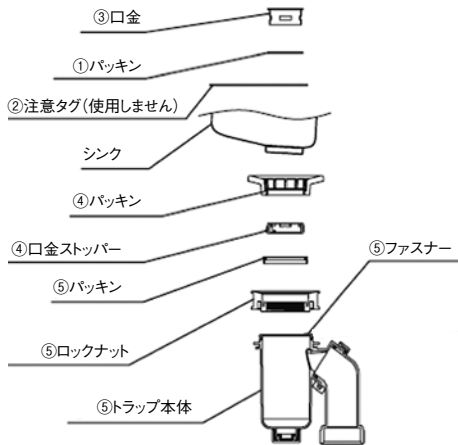
①ロックナットにトラップ本体を差し込み、ファスナーをロックします。

②図のように口金に排水筒を差し込み、確実に締め込みます。

キレイシンク用排水セット部品（ひろびろキレイシンク含む）

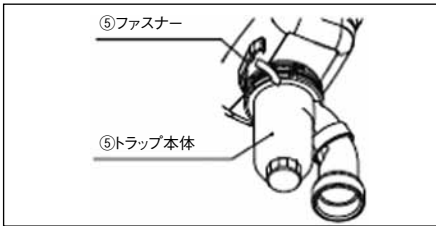
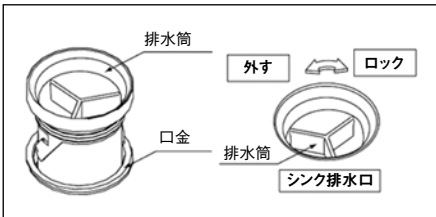
●排水トラップ取付け準備

トラップがセットになって納入されますので、一度部品をばらして、図のように取り付けてください。

①口金にパッキンを確実に取り付けます。
②注意タグは使用しませんので外します。
③口金をシンクの排水口に設置します。
④シンクの下側から口金に口金ストッパーを取り付け、ロックナットを手で確実に締め付けます。

●くるりん排水口タイプ　トラップ取付け

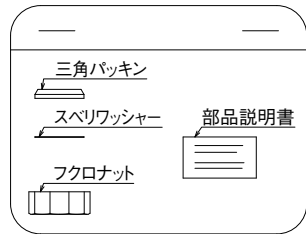
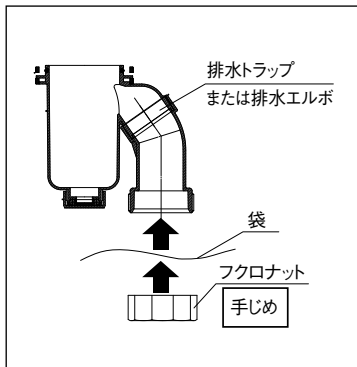
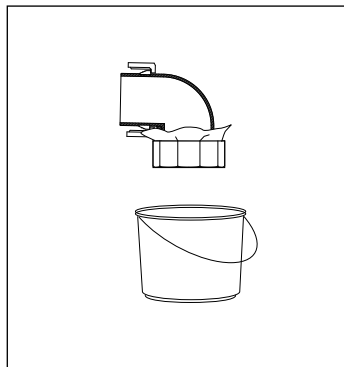
⚠注意	くるりん排水口の取付けは、くるりん排水口に同梱の取付設置説明書を確認し、正しく取り付ける。

●てまなし排水口タイプ　トラップ取付け

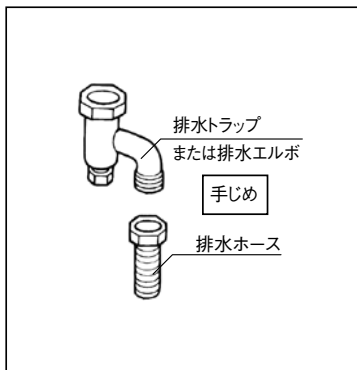
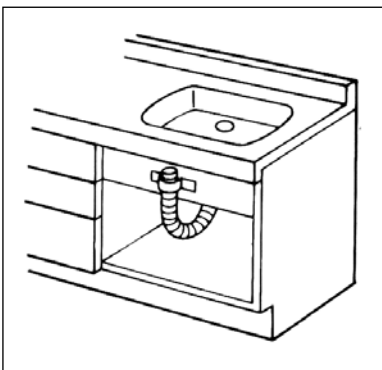
①ロックナットにトラップ本体を差し込み、ファスナーをロックします。

②図のように口金に排水筒を差し込み、確実に締め込みます。

11-3.水漏れ確認

1. 直管配管の場合

ワークトップ同梱の排水部品セット（フクロナット等）の梱包袋を使用してください。

①排水部品セットから排水部品を取り出し、袋に穴や傷がないことを確認してください。

②右図のように、排水部品接続口に袋をあてて、排水部品セットのフクロナットをきつく締めこんでください。
※三角パッキン、スベリワッシャーは使用しないでください。

③排水部品接続口の下にバケツを用意し、シンク内に水をため、30分ほど放置します。
トラップの接合部から水漏れがないことを確認してください
④水漏れ確認後、袋に穴をあけてシンク内の水をバケツに流してください。

2. 排水ホースの場合

排水ホースセットは、別途設定品（別梱包）になっています。

①排水エルボ、または排水トラップに排水ホースを手できつく締め付けます。

②図のように排水ホースを水面より上になるようにテープなどで仮止めし、シンク内に水をため、30分ほど放置します。
排水セットの接合部から水漏れがないことを確認してください。

11-4.排水接続 管工事

●排水管の接続について

⚠警告	管工事は関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」が行う。

⚠注意	排水管の接続部は確実に締め付ける。接続が不完全な場合は、水漏れ、腐食の原因となります。

⚠注意

配水管は床面より30～50mmの間で立ち上げてください。
立上げが長いとビルトイン機器の排水が逆流します。

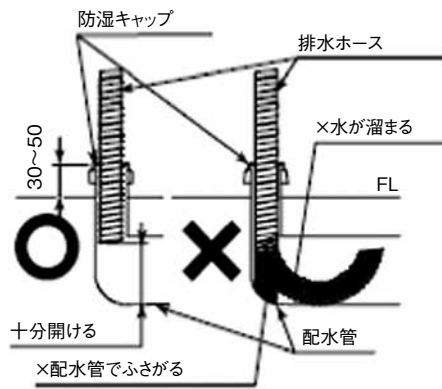
●蛇腹ホースの接続の仕方

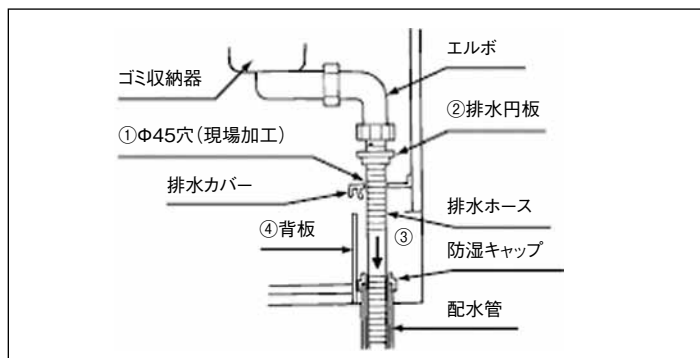
⚠注意

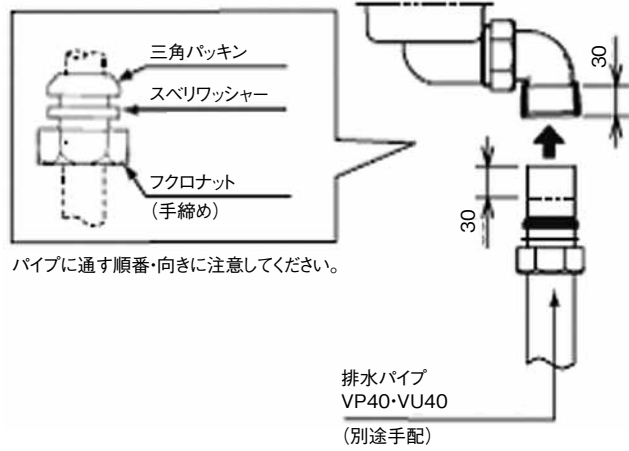
防湿キャップを配水管の穴がしっかりふさがるように押し込んでください。
防湿キャップの押し込みが不完全だと、漏水や悪臭の原因になります

排水ホースは曲がり・たるみのないように差し込んでください。
排水ホースに曲がり・たるみがあると、排水ホースがあばれ、排水ホースが破れることがあります。

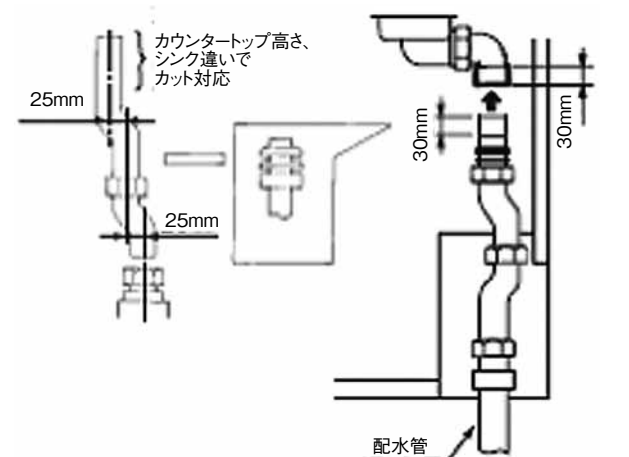
排水ホースの先端が配管よりふさがれないように差し込んでください。
排水ホースの先端がふさがれてしまうと、ゴミが詰まりやすくなり、水の流れが悪くなります。

排水ホースをダブルトラップにならないようにして配水管に差し込んでください。また排水ホースが長い場合は配水管の立ち上げ寸法に合わせて先端をカットしてください。
排水ホースが長いとホースの内部に排水が残り、水の流れが悪くなります。

※防湿キャップは、VP-40、VP-50、VU-40、VU-50に対応します。

①排水管位置に合わせて排水カバーの穴加工（Φ45）をします。
②排水円板を排水ホースに取り付けた後、ホースを排水カバー穴に通します。
③排水ホースを配水管に差し込み、防湿キャップを取り付けます。 管工事
④排水カバー、背板の取付けについては、「点検口の外し方・取付け方」（P15）を参照し取り付けてください。

●直管配管の接続の仕方 管工事

キッチンに付属のフクロナット、三角パッキン、スベリワッシャーを下図の通り、排水パイプ（VP40・VU40）に通し取り付けてください。
排水パイプ（VP40・VU40）は別途部品手配となります。また、排水円板も別途手配となります。

⚠注意	**VP40・VU40を排水エルボ、または排水トラップに取り付ける（挿入する）際、VP40・VU40が突きあたるまで入れ、パッキンが排水エルボまたは排水トラップの口に密着するようにフクロナットを手できつく締め付けてください。** VP40・VU40の取付けが浅い場合、またフクロナットの締め付けがゆるい場合は、漏水するおそれがあります。

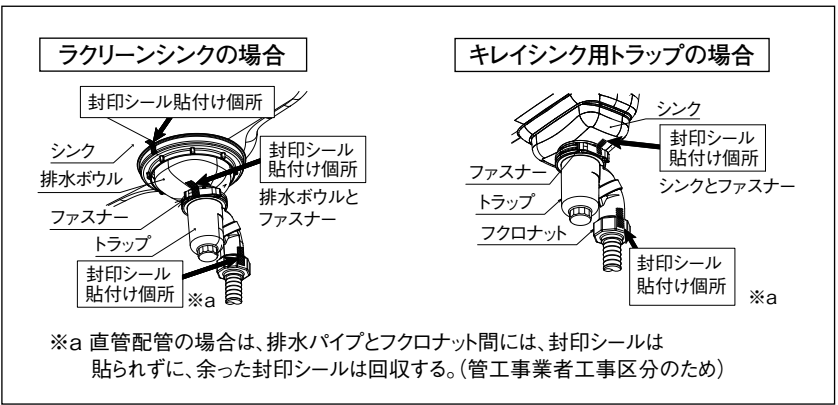
●偏芯タイプ直管配管の接続の仕方 管工事

下図のように、排水管の立上げ位置がぶれた時に使用する。偏芯タイプの直管配管用パイプセット（別途設定品）について、直管配管パイプセットに同梱されている取付説明書を参照ください。
・配水管との接続には、塩ビ用接着剤が必要となります。
・配水管の立上げ位置のぶれ対応範囲は50mmまでです。

⚠注意	**偏芯タイプの直管は移管パイプセットを排水エルボ、または排水トラップに取り付ける（挿入する）際、直管配管パイプセットが突きあたるまで入れ、パッキンが排水エルボまたは排水トラップの口に密着するようにフクロナットを手できつく締め付けてください。** VP40・VU40の取付けが浅い場合、またフクロナットの締め付けがゆるい場合は、漏水するおそれがあります。

11-5. 封印シールの貼付け

各部接続・水張り試験が終わり、漏水がないことが確認できたら、右図のようにトラップ排水経路に封印シールを貼り付けてください。

⚠注意　封印シールは必ずロックナット・フクロナットをまたぐように貼り付けてください。

※a 直管配管の場合は、排水パイプとフクロナット間には、封印シールは貼られずに、余った封印シールは回収する。(管工事業者工事区分のため)

12 食器洗い乾燥機の配管および接続、設置手順

1. 設置前準備

食器洗い乾燥機用キャビネットの下段引出しを取り外します。キャビネット奥にある点検口のフタを取り外してください。(下図参照)

2. 食器洗い乾燥機の仮置き

食器洗い乾燥機を下記の手順で仮置きしてください。

3. 食器洗い乾燥機の設置

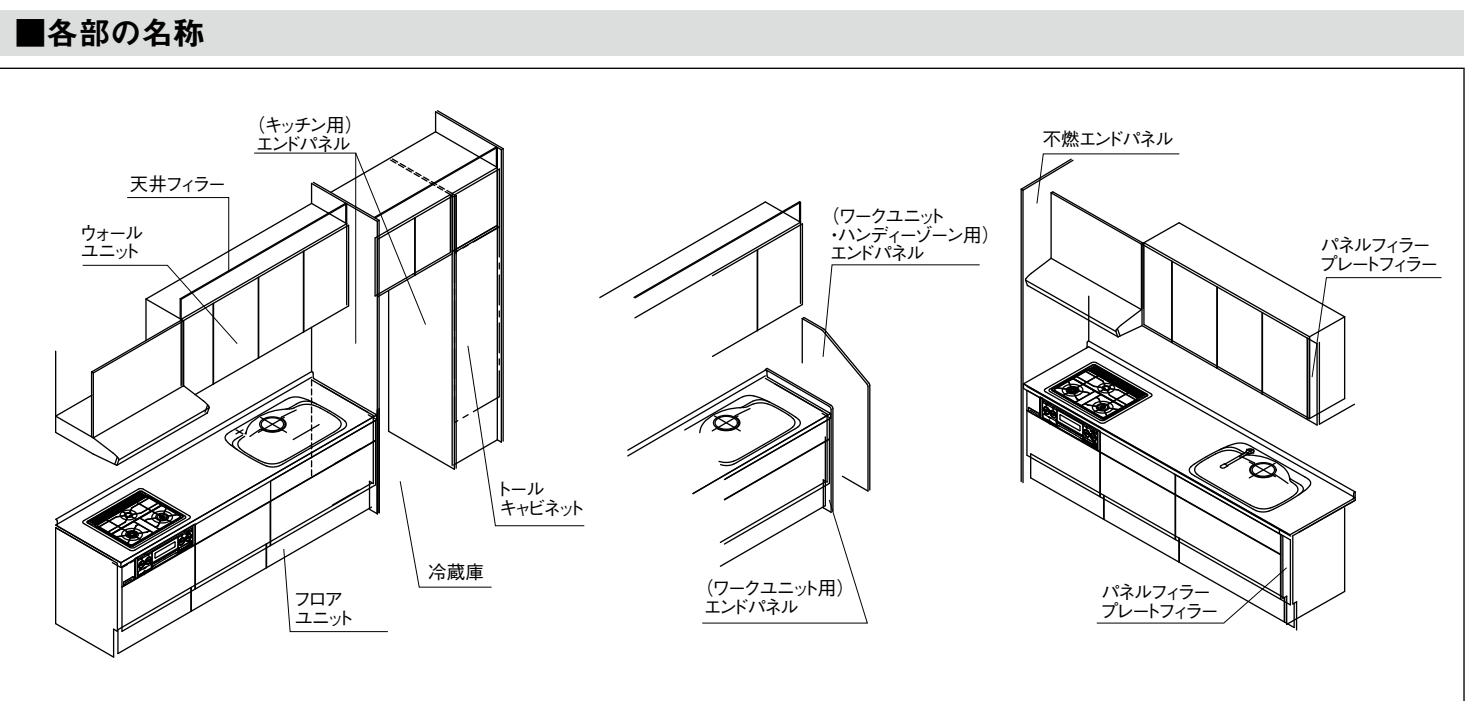
食器洗い乾燥機に同梱の取付・設置説明書に基づいて設置してください。

4. 点検口フタの取付け

食器洗い乾燥機設置後は点検口フタを取り付けて引出しをもとに戻してください。(下図参照)

配管および接続・設置手順については、食器洗い乾燥機に同梱の取付・設置説明書をご覧ください。管工事

13 取付部材

■各部の名称

13-1 エンドパネル

部品名		用途
大皿フレキタッピンねじ5.3×27(キャップ付)		連結用 エンドパネル固定
TU固定金具		キッチン用エンドパネル固定用

エンドパネルと加熱機器との離隔距離を守る。
離隔距離をとらないと、火災をおこすおそれがあります。また違反となります。

レンジフードのすぐ横には不燃エンドパネルを使用する。

A.キッチン用

エンドパネルはH=2,400mmで納入されます。(ハイ天井用はH=2,700mmで納入されます)

●フロアーユニットの横に取り付ける場合

①高さを合わせて上部をカットしてください。
2.400mm以上必要な場合は、ハイ天井タイプを使用してください。
②キャビネット連結用の穴を利用し、取り付けてください。連結用の穴があいていないキャビネットは、右図の位置にあけてください。
③位置を合わせ、キャビネット内側より同梱の大皿フレキタッピンねじ5.3×27(キャップ付)で固定してください。

●冷蔵庫脇に取り付ける場合

同梱のTU固定金具で下端を床面に固定してください。
位置を合わせ、キャビネット内側より同梱の大皿フレキタッピンねじ5.3×27(キャップ付)で固定してください。

不燃エンドパネル(YZSP240S)の場合は前面シールが付いている方を手前にして取り付けてください。

幅が小さいエンドパネル(Y1A012×240A#)の場合、木口化粧面と扉面を合わせて取り付けてください。

B.ワークユニット用

①右図の納まりとなるようにエンドパネルの高さをカットします(エンドパネル下面をカット)。
②カットした面に同梱の木口シートを貼ります。
③位置を合わせ連結穴を利用し、同梱の大皿タッピンねじ5.3×27(キャップ付)で固定してください。

C.カップボード用

エンドパネルはH=2,400mm、
ハイ天井用はH=2,700mmで納入されます。
①高さをカットします。
2400以上必要なときは、ハイ天井タイプを使用してください。
②位置を合わせ連結穴を利用し、同梱の大皿フレキタッピンねじ5.3×27(キャップ付)で固定してください。

D.サービスカウンター用

①位置を合わせ連結穴を利用し、同梱の大皿フレキタッピンねじ5.3×27(キャップ付)で固定してください。
連結用の穴があいていないキャビネットは、右図の位置にあけてください。

E.天吊型ウォールユニット用

①位置を合わせ連結穴を利用し、同梱の大皿フレキタッピンねじ5.3×27(キャップ付)で固定してください。

13-2. 天井フィラー

1.取付・設置前の確認

●天井フィラー取付桟用の取付ねじは別途手配です。取付ねじはマルモク3.5×32を使用します。

2.取付桟の取付け

⚠警告　天井に取付桟が必要な場合
天井への取付桟の取付けは関連する法令、規定に従って必ず「有資格者」が行う。

①取付桟をキャビネットごとにカットします。図の通り、キャビネット間口に対して50mm程短く、奥行方向は100mm程短くカットします。
②位置を合わせ、ねじで固定します。

天井への取付桟の取付けは、**大工工事** 区分です。

3.天井フィラーの取付け

現場で寸法合わせをし、カットしてください。
①天井フィラーを取り付ける際、建築躯体に合わせてフィラーの削り合わせをし、出隅はトメ継ぎ、入隅はイモ継ぎで取り付けてください。間口方向直線で継ぐ場合は、キャビネットの接合部と同じ位置で継ぎます。
②天井フィラーは、接着剤とカクシクギで固定してください。（別途手配）

13-3. フィラー

A.ウォールユニット・冷蔵庫上置き

A-1.壁側設置フィラー（幅=5～30mm）

フィラーの前面をキャビネットの前面・見上げ板面と合わせ同梱のねじで固定してください。

フィラーの厚み（mm）	使用ねじ
5～8	皿木ねじ3.5×16
9～30	トラスタッピンねじ3.5×16

※ウォールユニットの高さがH＝600mmの場合は、フィラーの上部を100mmカットします。

A-2.パネルフィラー（幅=35～145mm）

扉材には左右がありますので図のように、キャビネットの左側に設置する場合、扉材は縁材仕上面を右側に、取付桟は前板の右端に、キャビネットの右側に設置する場合、扉材は縁材仕上面を左側に、取付桟は前板の左端に固定してください。
①前板と扉材を図のように同梱の木ねじで固定してください。
②底板を図のように隅木を介して同梱の木ねじで前板に固定してください。
③取付桟をフィラーの裏面に同梱の木ねじで固定してください。
④アングルをフィラーの裏面に同梱の木ねじで取り付けてください。
⑤フィラーと扉の面を合わせ同梱のねじで固定してください。

	A	B	C	D	E
ロング用	900	896	350	800	260
ミドル70用	700	696	350	600	260
ミドル60用	600	596	350	500	260
ショート用	500	496	350	390	260
アイレベル機能付用	620	696	350	520	260
冷蔵庫上部用	500	496	615	390	540
システム収納ロング用	900	896	415	800	260
システム収納ミドル用	700	696	415	600	260

B.フロアユニット用

⚠注意　引出しキャッチ機構付キャビネットの場合、キャビネットにフィラーを固定する際には、引出しキャッチ機構に干渉しない位置にて固定する。

B-1.壁側設置フィラー（幅=5～30mm）取付・設置前の確認

壁側設置フィラーは上下の2部材で構成されており、取付け前には下記の作業が必要となります。
・壁側設置フィラー下のカット…注1
※壁側設置フィラーに同梱の取付・設置説明書に従い、間違いのないように行ってください。

フィラーの厚み（mm）	使用ねじ
5～8	皿木ねじ3.5×16
9～30	トラスタッピンねじ3.5×16

B-2.パネルフィラー（幅=35～145mm）

●フィラーは上パネルフィラー、下パネルフィラーの分割になっています。
下パネルフィラーのカットの必要はありません。扉材には左右がありますので図のように、キャビネットの左側に設置する場合、扉材は縁材仕上面を右側に、取付桟は前板の右端に、キャビネットの右側に設置する場合、扉材は縁材仕上面を左側に、取付桟は前板の左端に固定してください。
①上パネルフィラーの前板と扉材、下パネルフィラーの前板と扉材をそれぞれ図のように同梱の木ねじで固定してください。

②上パネルフィラーを取り付けます。
上パネルフィラーをフロアキャビネットの扉前面に合わせ、同梱の木ねじで固定してください。

⚠注意　上パネルフィラーをねじ固定する場合は必ず引出しキャッチ機構に干渉しない位置にて固定する。

③下パネルフィラーを取り付けます。
下パネルフィラーをフロアキャビネットの扉前面に合わせ、同梱の木ねじで固定します。（ワークユニット高さ90cmの場合）高さ調整（高さ80～87.5cm）をするときは、フロアキャビネットの扉の下面が合うように同梱の木ねじで固定してください。

⚠注意　下パネルフィラーをねじ固定する場合は必ず引出しキャッチ機構に干渉しない位置にて固定する。

C.ダイニングユニット用

⚠注意　引出しキャッチ機構付キャビネットの場合、キャビネットにフィラーを固定する際には、引出しキャッチ機構に干渉しない位置にて固定する。

C-1.壁側設置フィラー（幅=5～30mm）

壁側設置フィラーをダイニングキャビネットの扉前面に合わせて同梱の木ねじで固定してください。

C-2.パネルフィラー（幅=35～145mm）

●扉材には左右がありますので図のように、キャビネットの左側に設置する場合、扉材は縁材仕上面を右側に、取付桟は前板の右端に、キャビネットの右側に設置する場合、扉材は縁材仕上面を左側に、取付桟は前板の左端に固定してください。
①パネルフィラーの前板と扉材を図のように同梱の木ねじで固定してください。
②パネルフィラーを取り付けます。パネルフィラーをフロアキャビネットの扉前面に合わせ、同梱の木ねじで固定してください。

フィラーの厚み（mm）	使用ねじ
5～8	皿木ねじ3.5×16
9～30	トラスタッピンねじ3.5×16

⚠注意　パネルフィラーをねじ固定する場合は必ず引出しキャッチ機構に干渉しない位置にて固定する。

14 調整方法

14-1.扉の調整方法

扉は左右や前後のズレがないように取り付けられています。微調整が必要なときは丁番の ❶・❷・❸ のねじで行えます。

扉を取り外したいとき
ワンタッチ丁番の尾の❹部分（矢印部）を下から押上げると簡単に外れます。取り外す際は、扉をしっかり支えながら行い、扉やキャビネットを傷付けないよう気を付けてください。

⚠注意　取付・設置終了後、扉の傾き、ガタツキ、丁番のゆるみがないことを必ず確認してください。
使用中に扉が落下して、ケガをするおそれがあります。

●左右調整
❶のねじを右に回すと丁番側に移動し、左に回すと丁番の反対側に移動します。

●上下調整
上下に扉が片寄っている場合は、❸のネジを緩めて座金の位置を調整します。（上下2本の丁番を調整してください）

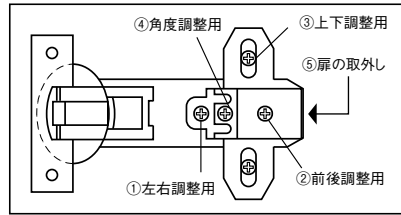
●前後調整
前後の開きは❷のねじを緩めて座金の位置を前後に動かし、扉の前後を調整します。

●調整後の確認
扉調整後は、すべての丁番の❷と❸のねじが締め付けられていることを確認してください。

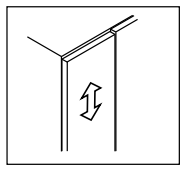
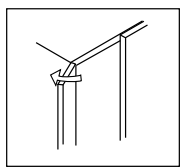
ソフトクローズ機構対応のキャビネットの場合は扉がきちんと閉まりきることを確認する。観音開きの吊戸の場合、中央の隙間が極端にせまいと、閉まりきらないことがあります。その際は中央の隙間4mmを目安に扉の左右調整をしてください。

14-2.扉の調整方法（コーナーキャビネットの場合）

●扉の調整をする場合は、①・②・③・④のネジで行えます。

扉を取り外したいとき
ワンタッチ丁番の尾の⑤部分（矢印部）を押すと簡単に外れます。取り外す際は、扉をしっかり支えながら行い、扉やキャビネットを傷付けないよう気を付けてください。

●左右調整
①のねじを右に回すと丁番側に移動し、左に回すと丁番の反対側に移動します。

●上下調整
上下に扉が片寄っている場合は、③のねじを緩めて座金の位置を調整します。（上下2本の丁番を調整してください）

●前後調整
前後の開きは②のねじを緩めて座金の位置を前後に動かし、扉の前後を調整します。

●開き角度を制限したいとき
扉の開き角度を制限したい場合は④のねじを回して丁番の開き角度を調整してください。

●調整後の確認
扉調整後は、すべての丁番の③のねじが締め付けられていることを確認してください。

14-3.ソフトクローズ機構の調整方法

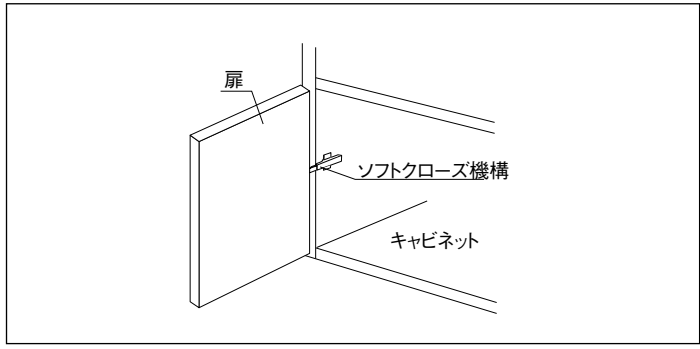
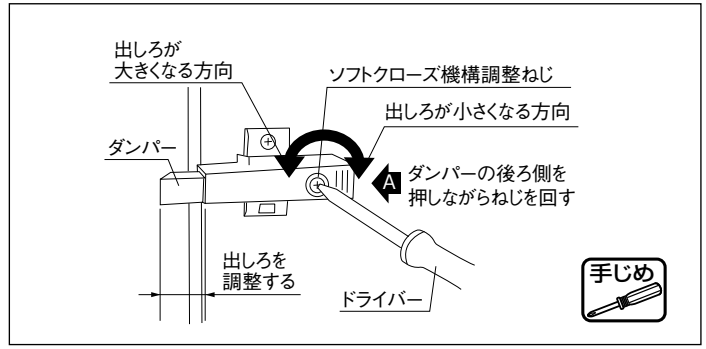
扉が閉まるときに“バタン”という音がしないことを確認する。
音がする場合は右図の調整方法を参照し、ソフトクローズ機構を調整してください。
扉の閉まる速度・動作は扉の大きさや仕様により異なります。
またダンパーの出しろが同じ場面でも、周囲の温度や設置状態等によっても扉の閉まる速度・動作は異なります。

扉の閉まる速度・動作が扉によって差がないように調整する。
扉の閉まる速度・動作が極端に異なる場合は、右図の調整方法を参照し、ソフトクローズ機構を調整してください。

■扉の閉まる速度が速すぎる（バタンと音がする）時

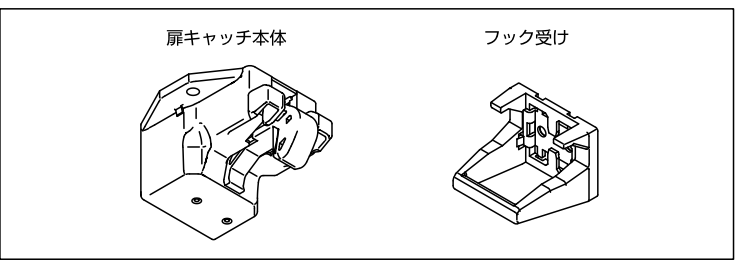
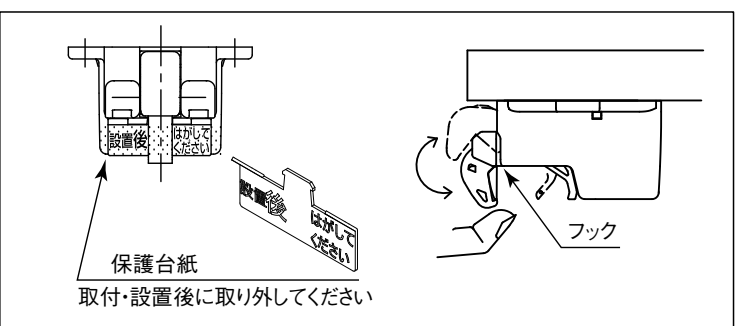
ソフトクローズ機構調整ねじをドライバーで反時計回りに回して、ダンパーの出しろを大きくしてください。

■扉の閉まる速度が遅すぎる（または閉まりきらない）時

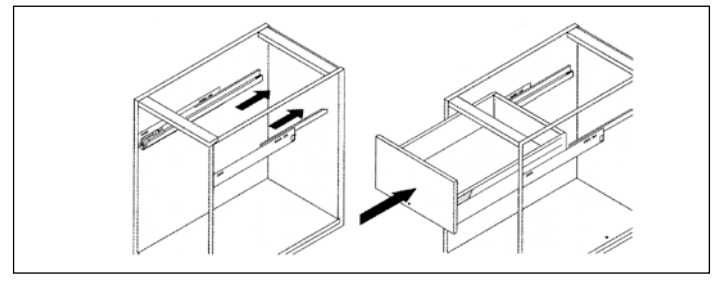
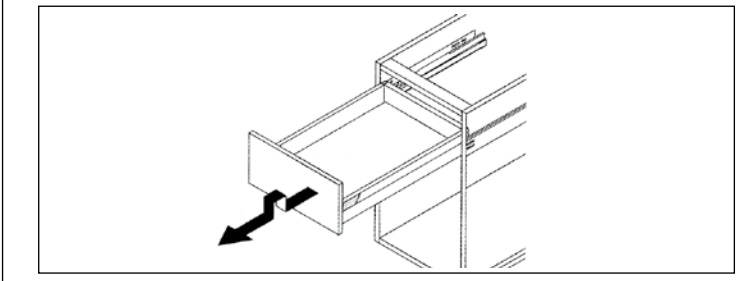
ソフトクローズ機構調整ねじをドライバーで時計回りに回して、ダンパーの出しろを小さくしてください。
※出しろを小さくするときねじを回しすぎると調整が戻らなくなる場合があります。その際は、ダンパーの後ろ側（樹脂部）を押しながら（A矢印）調整ねじを回してください。

14-4.扉キャッチの調整方法

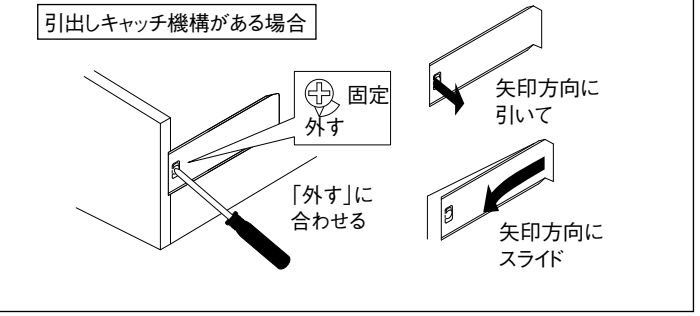
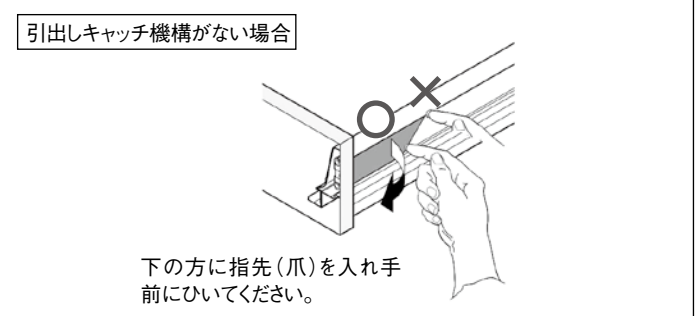
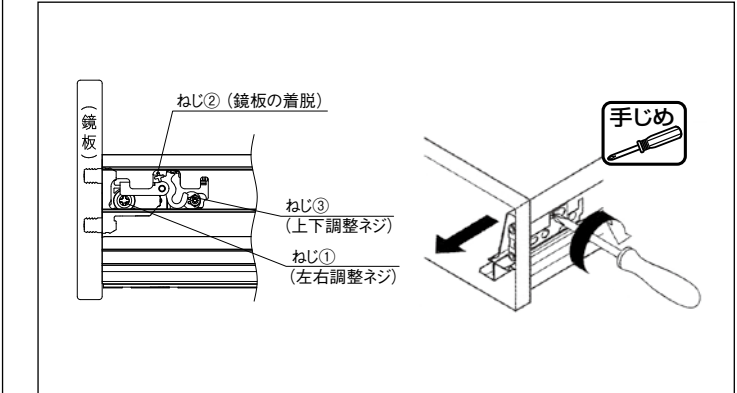
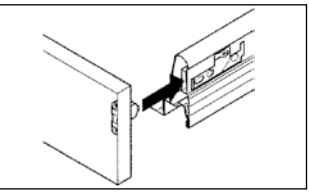
※扉キャッチの調整は、必ずキャビネットの設置・扉の調整をした後に行う。

1. 設置確認方法

①保護台紙を取り外す
扉キャッチ本体に貼り付けてある保護台紙を取り外し、フックがスムーズに上下するか確認してください。

②開閉確認
扉をゆっくり開閉しながら、扉が正常に開閉することを確認してください。
扉を開けた時にフックが上がった状態であることを確認してください。

14-5.スチール製引出し（グレー）タイプの調整方法

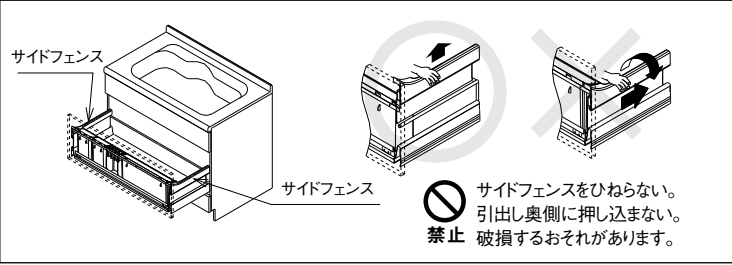
■引出しの取外し・取付け

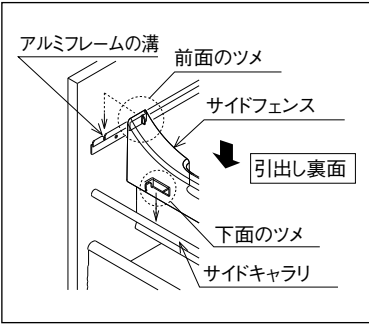
1.引出しの取付け方
引出しをレールにのせ、そのままキャビネットの中へ押し込みます。“カチャ”という音で正しく入ったか確認できます。

2.引出しの外し方
引出しを全開にし、いちど少し上に持ち上げてから引いてください。

■鏡板の着脱方法

1.外し方
1-1.キャップを指で引っ掛けて取り外します。

1-2.プラスドライバーをねじ②に差し込み、右に回すと外せます。

2.取付け方
鏡板をそのまま引出しに押し込みます。

■サイドフェンスの取外し・取付け(シェルフなしの場合)

サイドフェンスの外し方

サイドフェンスは真上に引き上げると外れます

禁止 サイドフェンスをひねらない。
引出し奥側に押し込まない。
破損するおそれがあります。

サイドフェンスの取付け方

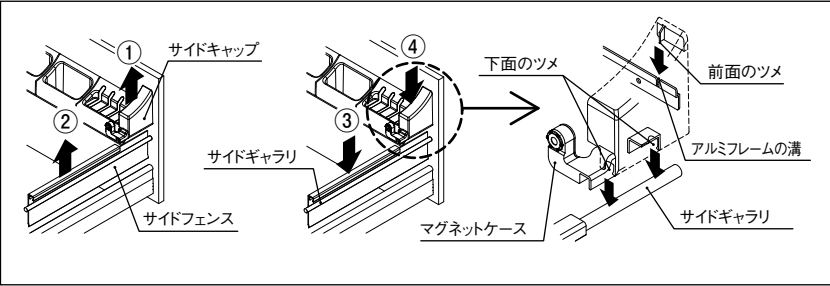
サイドフェンスをサイドギャラリの上から取り付けます。サイドフェンス前面のツメをアルミフレームの溝に、サイドフェンス下面(前・後)のツメをサイドギャラリに、パチッ!という音がするまではめ込んでください。

■サイドフェンスの取外し・取付け(シェルフ付の場合)

サイドキャップ・サイドフェンスの取外し手順

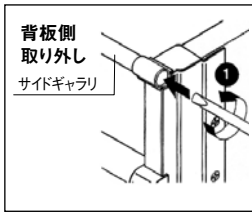
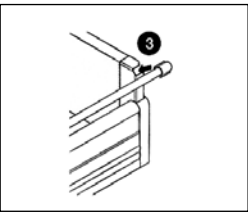
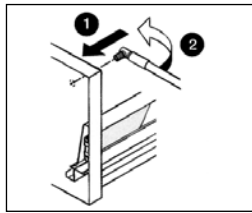
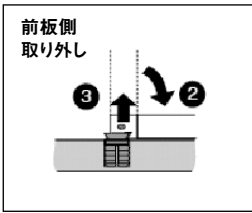
①サイドキャップを真上に引き上げ取り外します。サイドキャップとマグネットケースは一体となっているため、同時に取り外します。
②サイドフェンスを真上に引き上げ取り外します。

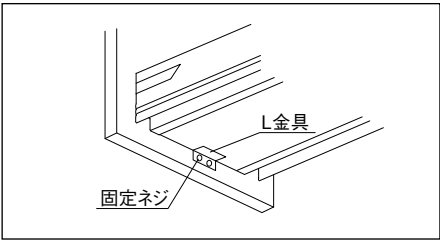
禁止 サイドキャップやマグネットケース・サイドフェンスをひねったり無理な力を与えたりしなでください。破損するおそれがあります。

サイドキャップ・サイドフェンスの取付け手順

③サイドフェンスを真下に降ろしサイドギャラリに取り付けます。
④サイドキャップとマグネットケースが一体となっていることを確認し、真下に降ろしてアルミフレームとサイドギャラリに取り付けます。
サイドキャップ前面のツメをアルミフレームの溝に、下面のツメをサイドギャラリにパチンッ!という音がするまではめ込んでください。

■サイドギャラリの着脱方法

1.サイドギャラリの外し方

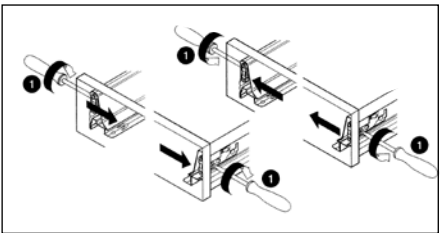
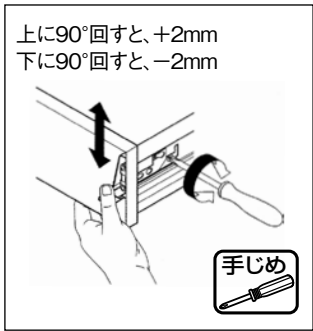
マイナスドライバーをサイドギャラリの後部へ差し込み、ひねると外れます。

2.サイドギャラリの取付け方

■鏡板の左右・上下・あおり調整

1.間口60cm以上の引出しは調整する前にL金具の固定ねじをゆるめてください。調整後、締め付けてください。

2.左右調整

図のねじ❶で左右調整をしてください。

3.上下調整

図のねじ❸で上下調整をしてください。

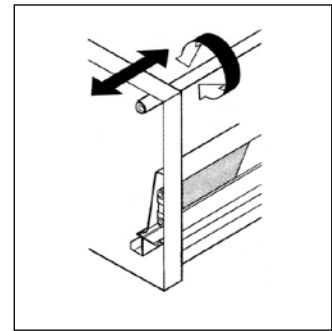
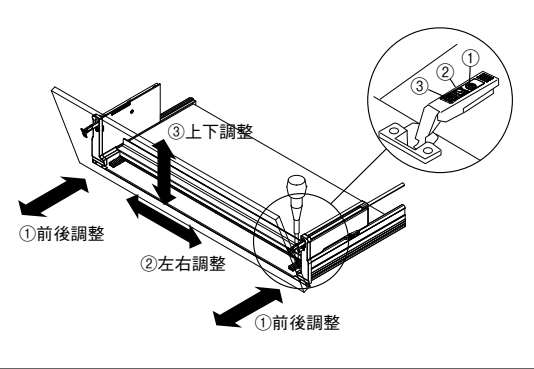
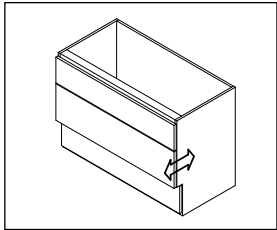
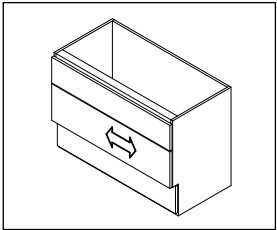
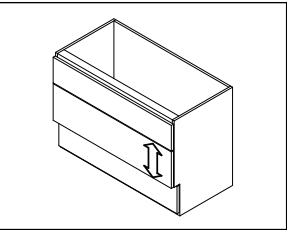
上に90°回すと、+2mm
下に90°回すと、−2mm

4.前板の傾き調整

サイドギャラリを回すと、サイドギャラリの長さが変化します。これで傾きを調整します。

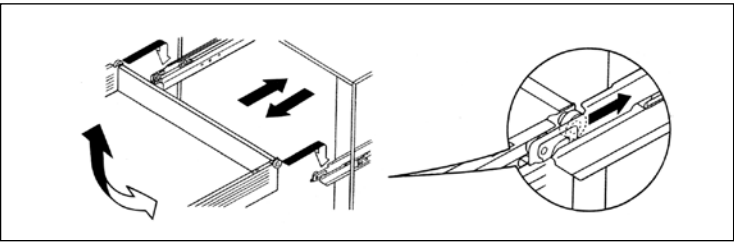
■らくパッと収納の着脱方法、調整方法

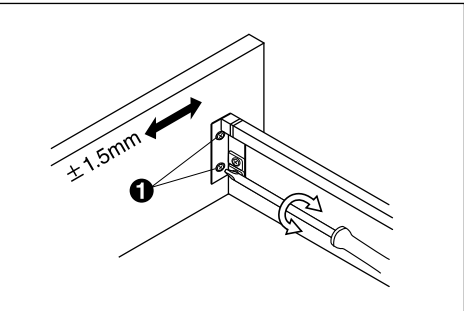
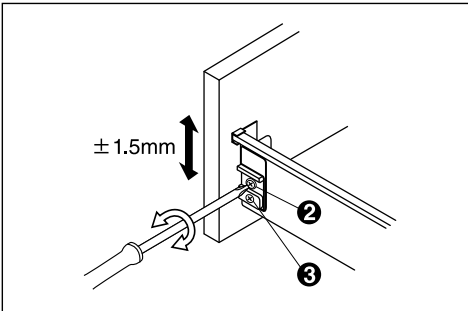
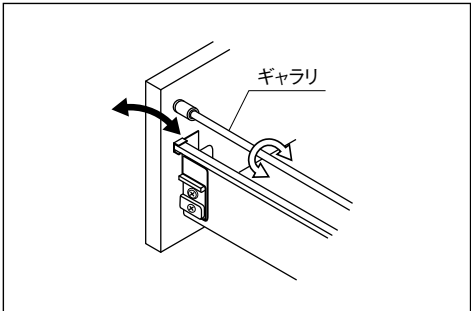
1.着脱方法

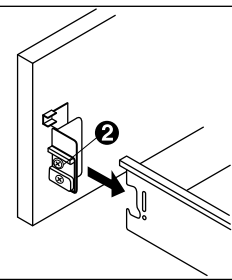
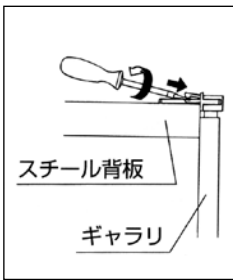
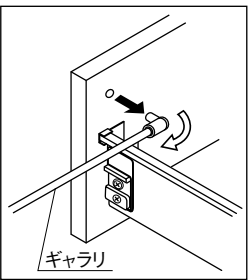
1-1 鏡板の取外し
右図のようにマイナスドライバー等でアーム先端のカバーを外します。引出し底部の丁番を扉の取外しと同様に外し、鏡板を引出しから外します。

1-2 らくパッと収納の取外し
右図のネジを外してからサイドギャラリを取り外します。引出しの鏡板の着脱方法と同様にユニットを外します。

2.調整方法 下図のように調整をしてください。

①前後調整
右に回すと後ろ方向に2mm左に回すと前方向に3mm調整できます。

②左右調整
ねじを左右に回すと、鏡板が左右に調整できます。

③上下調整
右に回すと上方向に3mm左に回すと下方向に3mm調整できます。
シンクキャビネットの場合上下調整後チャイルドロックがかかることを確認してください。

14-6.スチール製引出し(白色)タイプの調整方法

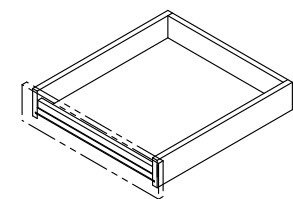
■引出しの取外し・取付け

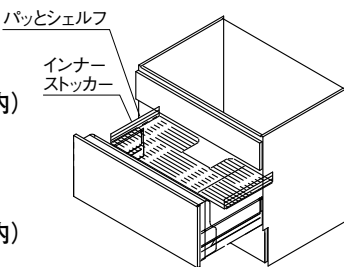
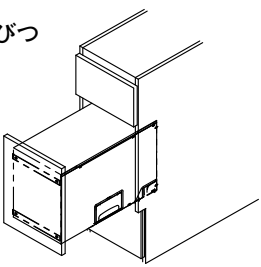
完全に引出した状態で持ち上げ、そのまま引出しを外します。取付けは引出しに付いているローラーとレールがかみ合うように引出しを入れてください。

■鏡板の左右・上下調整および着脱方法〔引出し鏡板の調整〕

1.左右調整
❶のねじ(左右)をゆるめると左右に鏡板が動きます。

2.上下調整
❷のねじをゆるめ❸のねじを回すと上下に鏡板が動きます。調整後❷のねじをしめます。

3.鏡板のあおり調整
ギャラリを左右に回しあおりを調整してください。

■鏡板の着脱方法

1.鏡板の取外し
❷のねじ(左右)をゆるめて鏡板を取り外してください。

2.ギャラリの取外し
スチールの後部に引っ掛けているギャラリの爪をマイナスドライバーで外してください。

ギャラリを図のように折り曲げ、ギャラリを取り外してください。

14-7.木製引出し、パッとシェルフ、インナーストッカー、W300米びつの調整方法

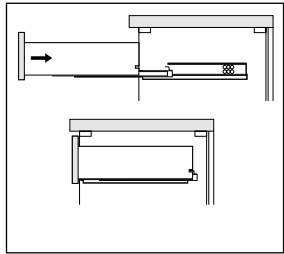
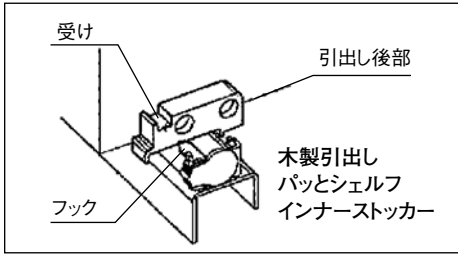
■引出しの種類

木製引出し(白色パーチクルボード製)

・パッとシェルフ
インナーストッカー
(シンクキャビネット内)

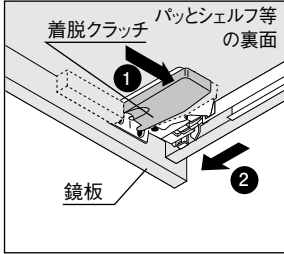
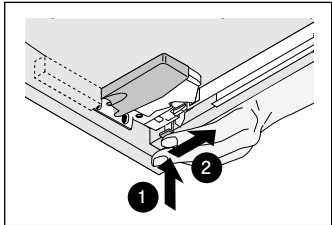
・アシストポケット
インナーストッカー
(シンクキャビネット内)

W30米びつ

■引出しの取外し・取付け

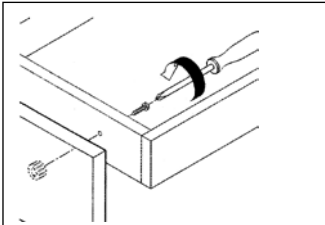
1.引出しの取付け

レールの後部のフックを受けに確実に入れる。
入っていないと引出しが外れるおそれがあります。

レールにのせてそのまま押し込みます。

2.引出しの取外し

パッとシェルフ、インナーストッカー、アシストポケットインナーストッカーを外す場合、その下の引出しを先に外す。

①着脱クラッチのレバーを押す。
②引出しを手前に引き外す。

■鏡板の上下調整（W30米びつ）

❶を押しながら❷の方向へ移動させると高くなる方向に調整できます。

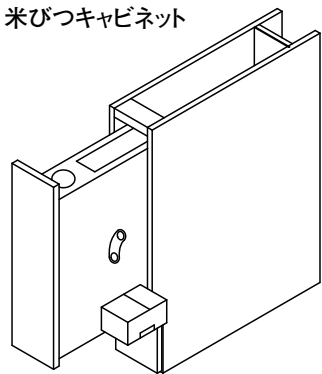
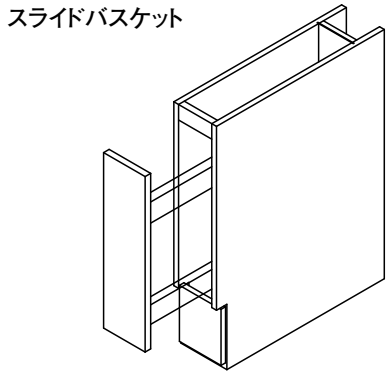
3.鏡板の左右、上下調整（木製引出しのみ）

①鏡板と引出しを固定しているねじをゆるめます。
②左右、上下調整を行います。
③調整後、ねじをしめ直します。

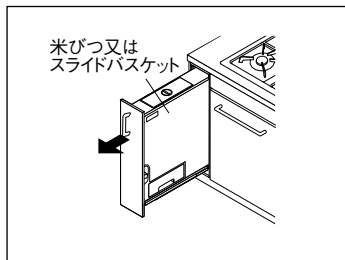
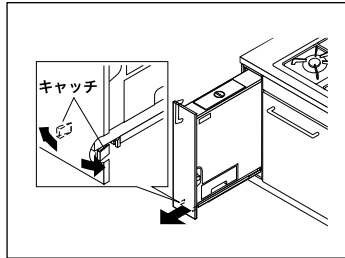
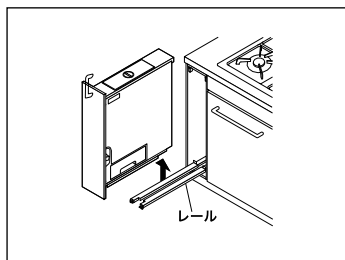
14-8.W15米びつキャビネット・W15スライドバスケットの調整方法

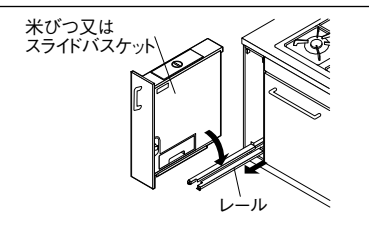
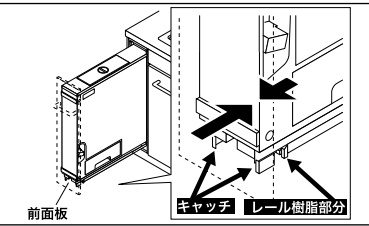
米びつキャビネット

スライドバスケット

⚠注意

米びつの着脱に際して、米びつの中にお米がないことを確認してから着脱する。
米びつ及びスライドバスケットを着脱するとき、指などを挟まない。

1.取外し方

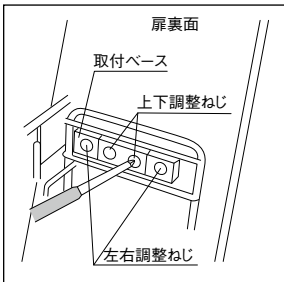
①いっぱいまで引き出します。

②キャッチを外側に引いたままさらに引き出します。

③本体をまっすぐ持ち上げてください。

2.取付け方

①レールを引き出して、米びつ又はスライドバスケットをのせます。

②レールの樹脂部分（矢印部）と前面板を、キャッチが左右ともにカチッと音がするまで引き寄せます。

■鏡板の左右・上下調整方法（スライドバスケット）

1.調整方法

スライドバスケットは調整ネねじをゆるめ鏡板を調整します。調整後ねじをしめます。

2.外し方

左右調整ねじを外すと鏡板を外すことができます。

14-9.スライドパレットの取外し・調整方法

1.外し方

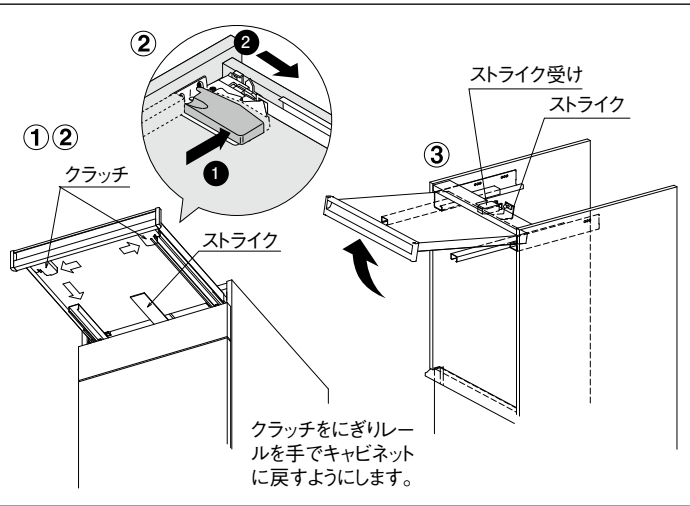
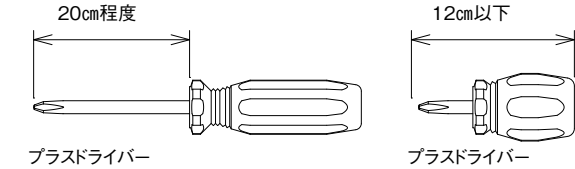
⚠注意

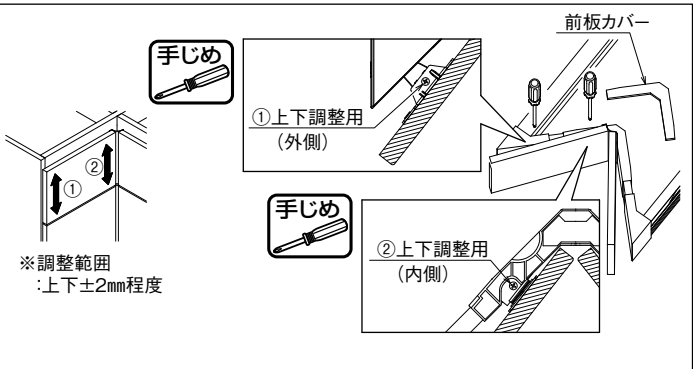
スライドパレットを引き抜く際に、ストライクをストライク受けに引っ掛けない。
引っ掛かったまま外すと、スライドパレットを破損させるおそれがあります。

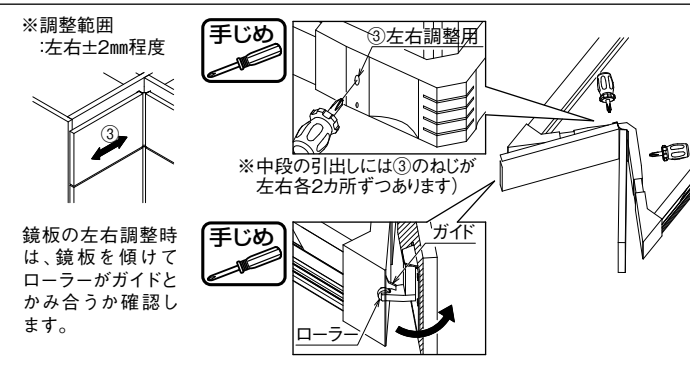
スライドパレットの前側を持ち上げる際に、カウンタートップやキャビネットにあてない。
スライドパレットが傷つくおそれがあります。

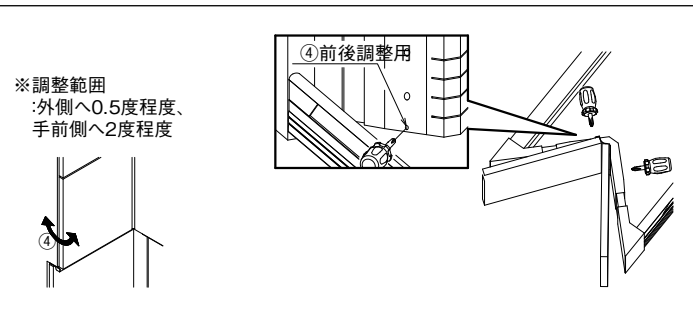
①スライドパレットをストライクがストライク受けにかからない位置まで引き出します。
②着脱クラッチを押しながらレールをキャビネットの中へ押し戻します。
③スライドパレットの前端を持ち上げながら取り出します。

2.上下調整方法

P39.「14-7.W300米びつの調整方法」と同じ要領で調整します。

14-10.引出コーナーキャビネット鏡板調整方法

1.鏡板上下の調整方法

引出しの中央にある前板カバーを取り外し、①および②のねじを右に回すと鏡板が上に移動し左に回すと下へ移動します。

2.鏡板左右の調整方法

引出しの中央裏面の③のねじ（左右に各1本）をゆるめ鏡板を手で持って左右にスライドさせて調整します。調整後は③のねじを締め直します。
中段の引出しには③のねじが左右各2本ずつあります。

3.鏡板前後の調整方法（中段引出しのみ）

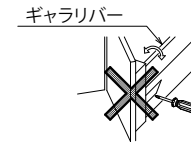
引出しの中央裏面の下にある④のねじ（左右に各1本）を右に回すと、鏡板下側が引き箱の外側へ傾き、左に回すと引き箱の内側に傾きます。

⚠注意

●引出しの鏡板を調整する際は、扉などに指を挟まないよう注意する。

必ず実行

●引出しの鏡板調整の際にレールの調整機能やギャラリバーには触らない。

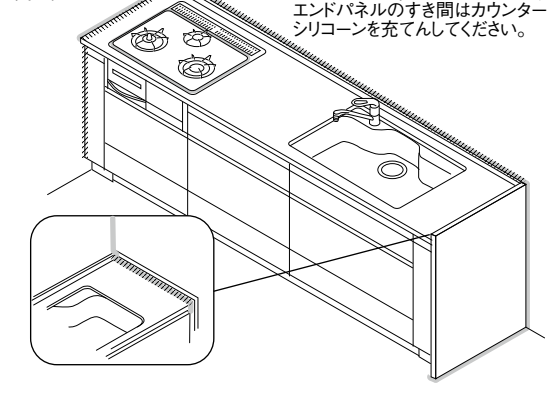
禁止

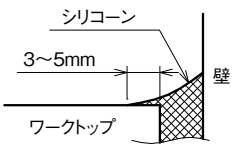
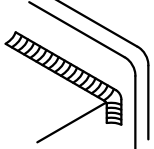
他の引出しと同様の方法で鏡板の調整を行うと引出し本体が破損するおそれがあります。

15 仕上げ・付属部品の取付け

15-1.目地処理をする

⚠警告	シリコーンで充てんする場合、部位によって内装工事となる場合があります。建築壁とカウンターの間の目地処理は、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」が行う。キッチンパネルとカウンターの間は「有資格者」が行う必要はありません。

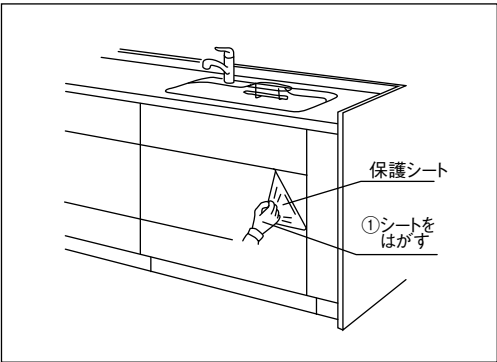
注意	ワークトップと、壁またはエンドパネルの合わせ目部はシリコーンを充てんする。埋め方が不完全な場合、水こぼれでユニットやエンドパネル、および床や壁を傷めるおそれがあります。

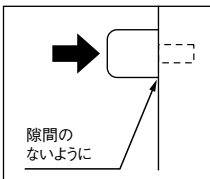
目地処理箇所　内装工事

ワークトップと壁またはエンドパネルの目地処理方法

ワークトップに3〜5mm程度のるように目地処理してください。

ワークトップ前面も同様に目地処理してください。

15-2.扉キャッチ

「扉キャッチ」の保護テープをはがしてください。

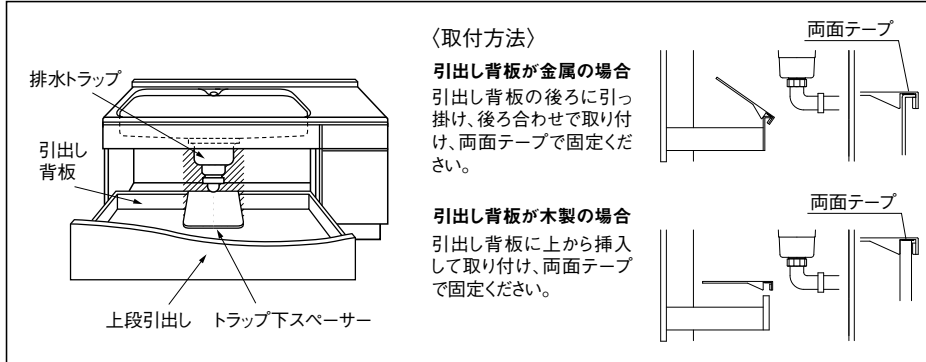
15-3.保護シートをはがす

保護シートのはってある扉・取付部材は、下図のようにシートをはがしてください。取手がある場合、取手を取り付ける前に保護シートをはがしてください。取手を取り付けてからはがすと、取手部にシートが残ります。

15-4.棚板のセット

棚受けは隙間のないように奥まで差込み、棚板を確実に乗せてください。

15-5.引出しキャッチ機構

引出しキャッチ機構のテープをはがしてください。

15-6. シンクキャビネットの(引出しタイプ)トラップ下スペーサーの取付けについて

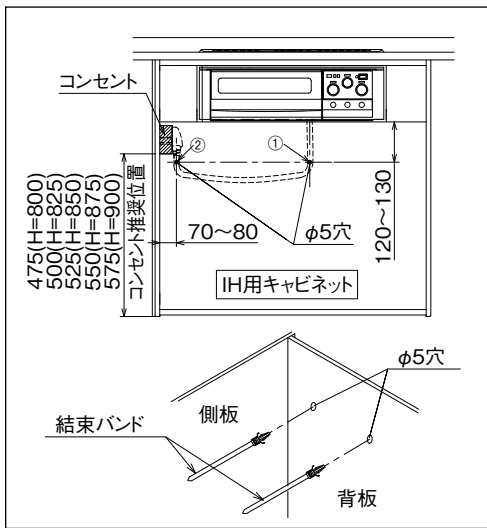
引出しの背板に同梱のトラップ下スペーサーを取り付けます。
トラップ下スペーサーは必ず排水トラップのセンターに取り付けてください。

15-7.IH 専用キャビネットの電源コードの結束

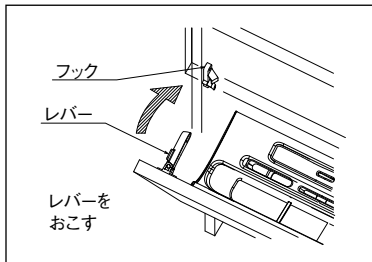
IH 専用キャビネットの場合、IH ヒーターの電源コードと引出しが干渉するおそれがあるので、キャビネット同梱の結束バンドで電源コードを背板に固定してください。

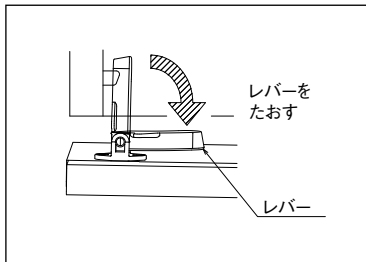
(1)引出しを外してください。(引出しの外し方については 14-5 を参照してください。)
(2)キャビネットの背板の右図①②の 2 カ所にドリルにてφ5 の穴をあけてください。
　①機器本体の底面から出ている電源コードを垂らして底面から 120〜130mm 下げた位置
　②側板内面から 70〜80mm の位置(高さは①と同じ)
(3)結束バンドを背板の穴 2 カ所に差し込み、機器側、コンセント側の順に結束してください。

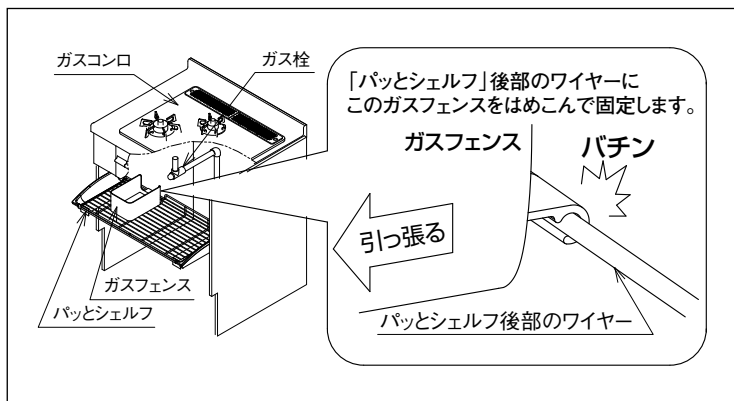
注意	コンセント側を結束する際には電源コードに負荷がかからないように電源プラグをコンセントに差し込んでから結束する。

(4)引出しを元に戻してください。

コンセント　② ①　70〜80　φ5穴　120〜130　475(H=800) 500(H=825) 525(H=850) 550(H=875) 575(H=900) コンセント推奨位置　IH用キャビネット　φ5穴　結束バンド　側板　背板

15-8.らくパッと収納のチャイルドロックについて

右図のように鏡板裏面のレバーを起こしたまま閉めるとロックがかかります。
ロックがかかりにくい場合「らくパッと収納の着脱方法・調整方法」を参考に扉の上下調整を行ってください。

扉を少し開いた状態ですき間に手を入れてレバーを倒すとロックを解除できます。

チャイルドロックはロックを解除した状態でお引き渡しください。

15-9.らくパッと収納に同梱されているガスフェンスについて

下図のようにパッとシェルフに取り付けてください。
中に貼り付けてあるチラシは外さずに後工事を行っていただく業者さまに引き継いでください。
なお、IH ヒーターの場合はガスフェンスを使用しません。
※「パッとシェルフ」を動かした際、ガス栓が必ずガスフェンスの中に入るように、ガスフェンスの位置を合わせて設置してください。
※スマートストッカータイプはガスフェンスは使用しません。

16 取付・設置担当者へのお願い

16-1.清掃と養生

●取付・設置後のキャビネットや扉のホコリ・汚れは、やわらかい布で拭き取ってください。家具用ワックスやシンナー、アルコールなどの溶剤または研磨剤の入った洗剤は使用しないでください。変色したり、光沢をなくしたりして、扉やキャビネットの表面を傷めます。
●取付後、内装工事などの後工事がある場合は養生を行ってください。
　●養生につかう段ボールは梱包材を使用してください。
　●加熱機器等があることがわかるように図のような注意文を大書きしてください。
　●養生に使うテープは粘着力の弱いものを使用してください。

<養生例>

16-2.取付・設置後のチェック

●キャビネットが床面に確実に固定されているか確認してください。
　完了報告書に従って確認してください。

注意	扉の傾き、ガタツキ、丁番のゆるみがないことを確認する。

使用中に扉が落下して、ケガをするおそれがあります。

16-3.後工事の説明と引継ぎ

●建築工事側で行っていただく後工事は、必ず建築工事担当者に引継いでください。
●取扱説明書は確実にお客さまに届くよう配慮してください。

16-4.廃棄処分について

●廃棄処分の際は、必ず専門業者に依頼してください。